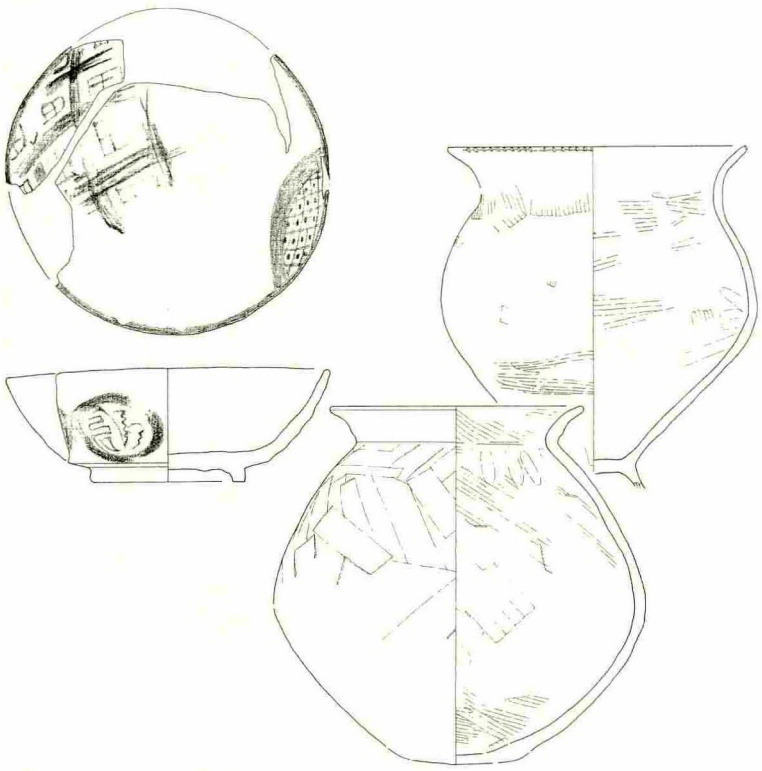
山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第249集

甲府城下町遺跡（甲府地方裁判所地点）

Kofu jyoukamachi Site

(Castletown of Kofe-Castle in the pre-modern period)

甲府地方裁判所庁舎新営工事に伴う発掘調査報告書



2007.12

山梨県教育委員会

国　土　交　通　省

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第249集

甲府城下町遺跡（甲府地方裁判所地点）

Kofu jyoukamachi Site

(Castletown of Kofe-Castle in the pre-modern period)

甲府地方裁判所庁舎新営工事に伴う発掘調査報告書

2007.12

山梨県教育委員会

国　土　交　通　省

甲府城下町遺跡全景：南東から北西をのぞむ（画面中央は平和通り）

甲府城下町遺跡調査区全景：左がⅠ区、右がⅡ区

口絵 2

Ⅰ区土層①：右端に②がつながる（杭が目印）

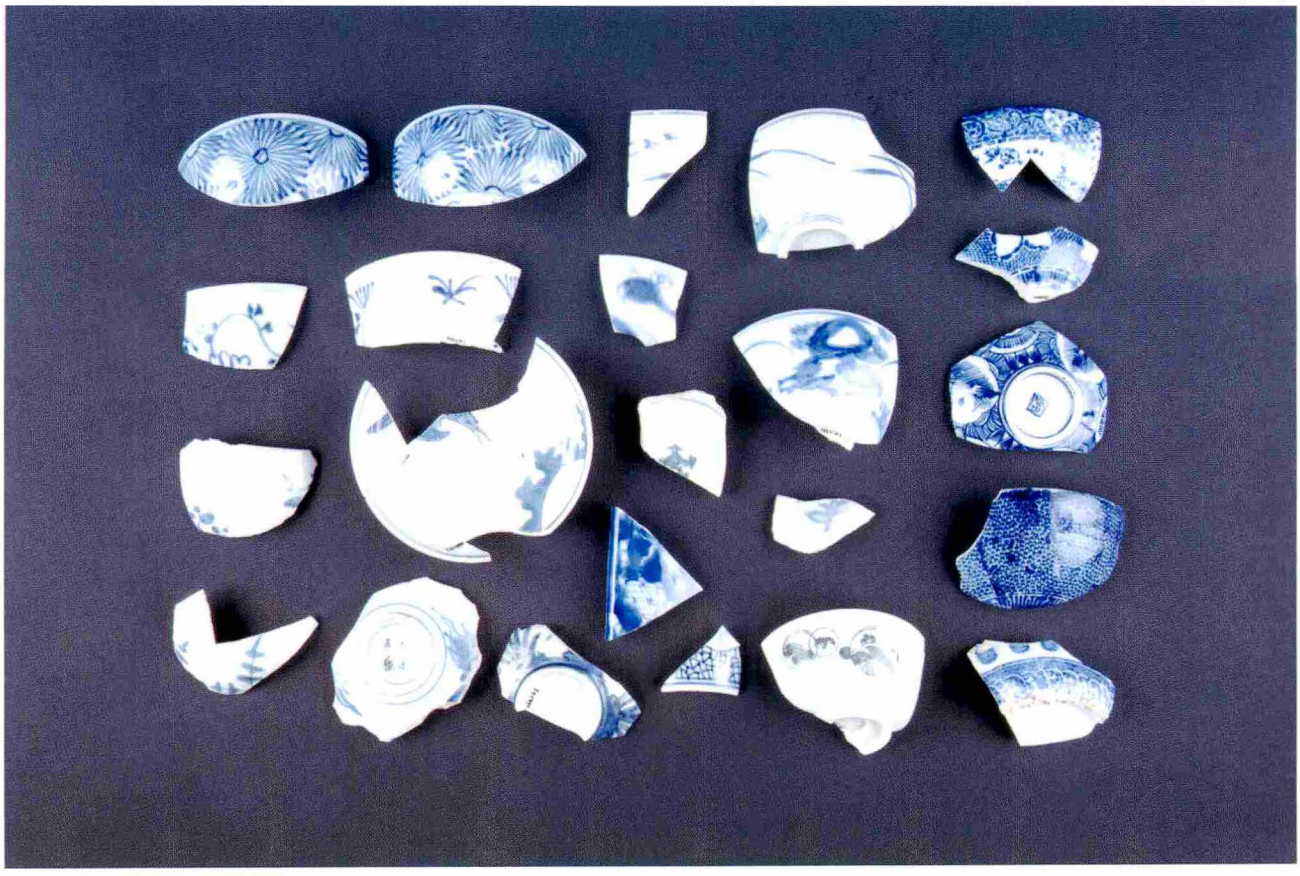
Ⅰ区土層②：左端に①がつながる（杭が目印）

Ⅱ区北壁土層：ピット状の落ち込みは３面の遺構
写真より下は黒色粘土が続く

陶磁器類集合（Ⅰ区出土）

「春岱」銘のある志野焼 鉢（Ⅰ区出土）と底部見込み「春岱」銘のアップ

小倉焼の行平（Ⅰ区出土）



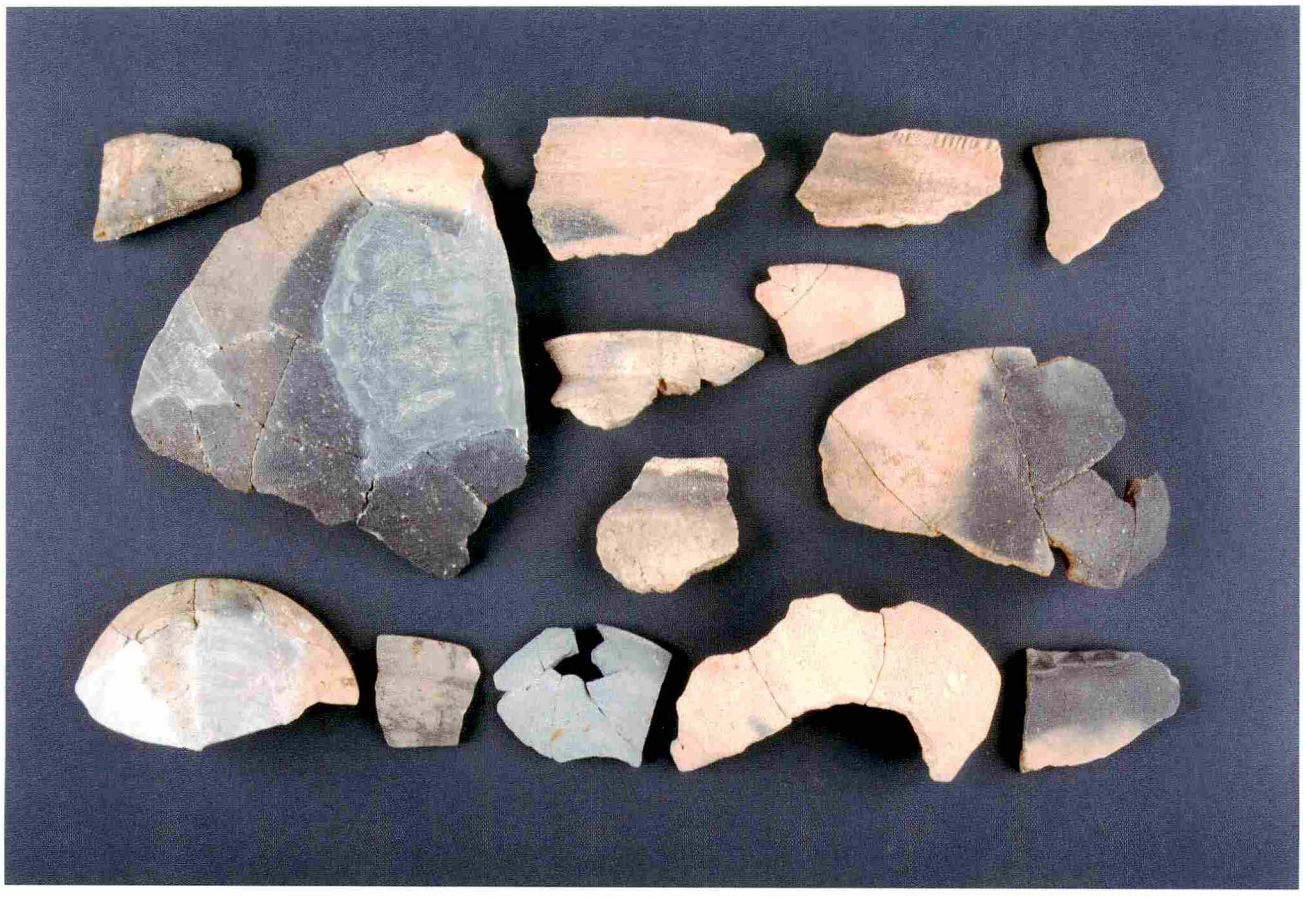
磁器類（Ⅰ区・Ⅱ区・試掘調査）

磁器類（Ⅰ区・Ⅱ区・試掘調査）

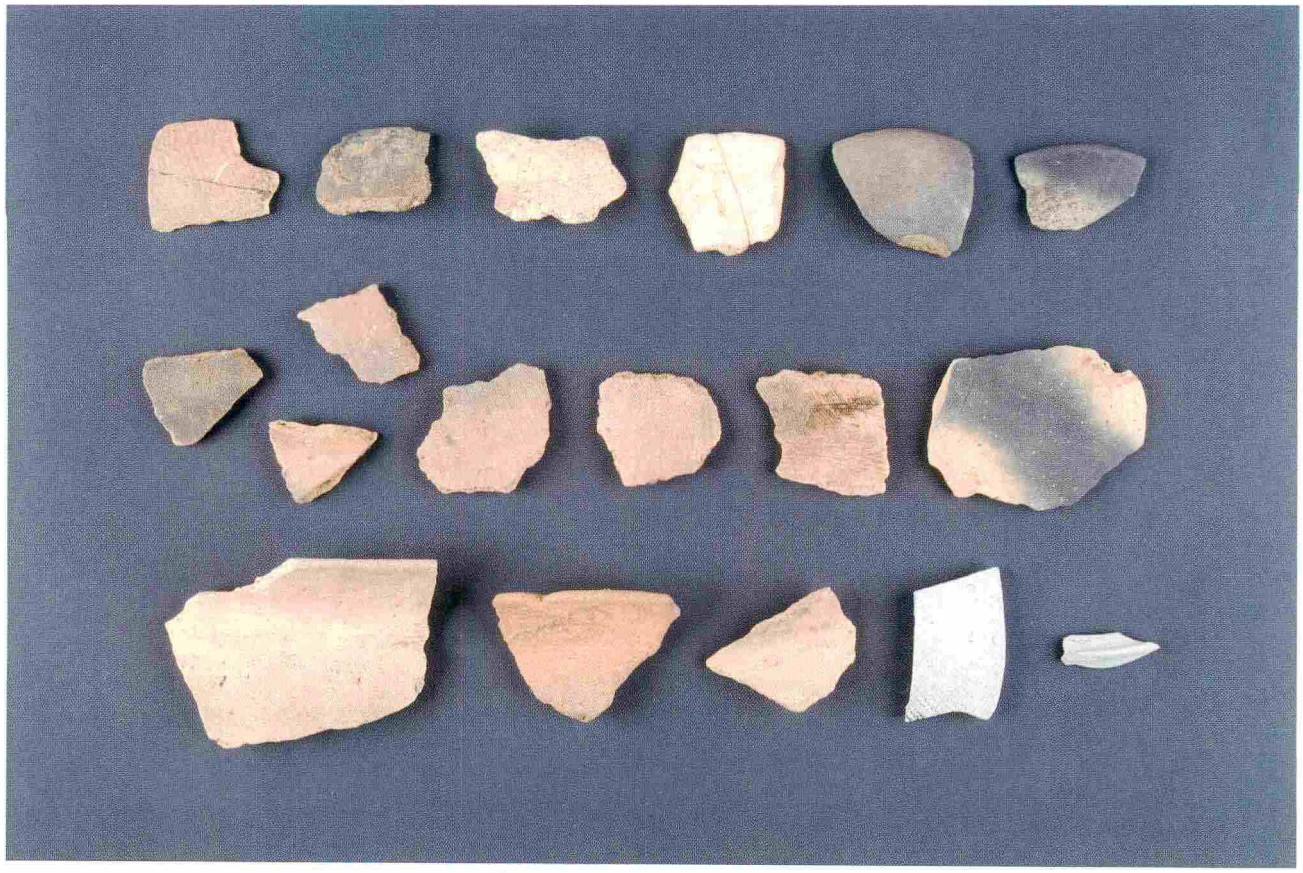
土師器類①（Ⅱ区３面）

土師器類②（Ⅱ区３面）

土師器類③（Ⅱ区３面）



土師器・須恵器類①（Ⅱ区３面）



土師器・須恵器類②（Ⅱ区３面）

赤彩土器（Ⅱ区３面）

須恵器（Ⅱ区３面）

土師器底部（Ⅱ区３面）

台付甕（Ⅱ区３面：竪穴状遺構１）

甕（Ⅱ区３面：竪穴状遺構２）

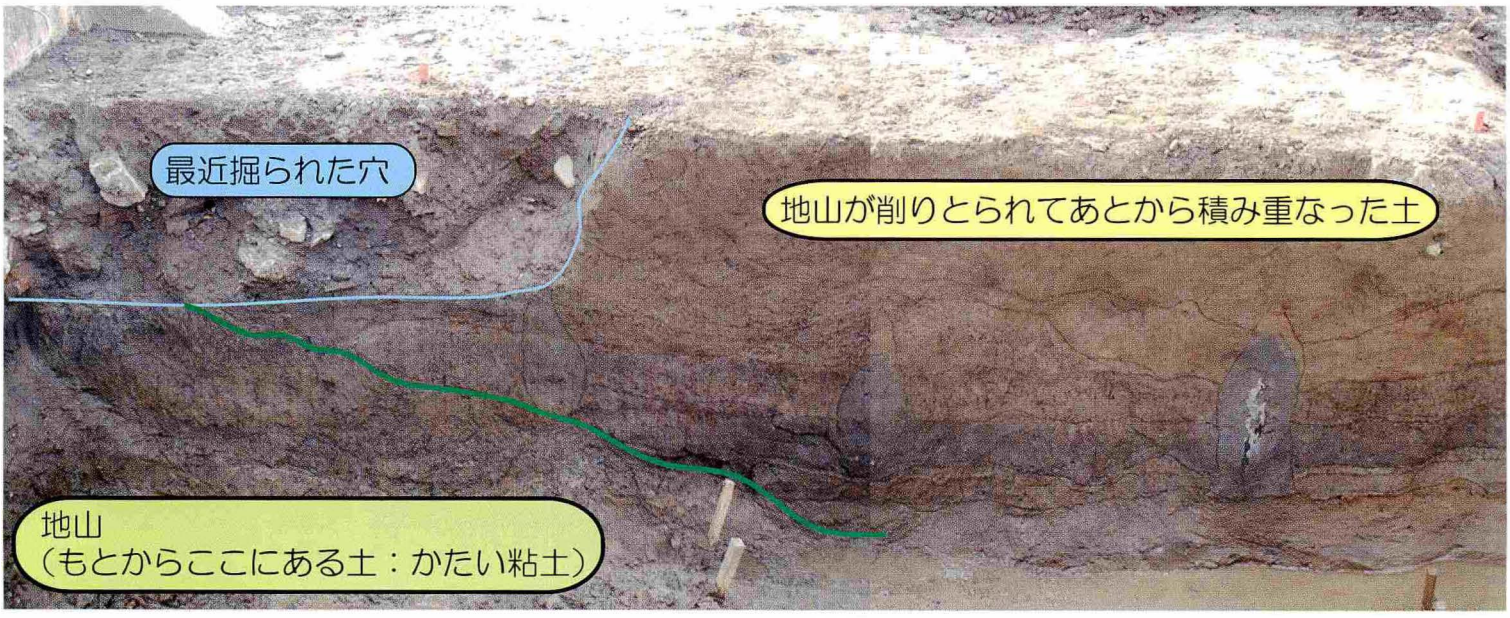
火を受けた石（ピット４）

土管（Ⅱ区２面）

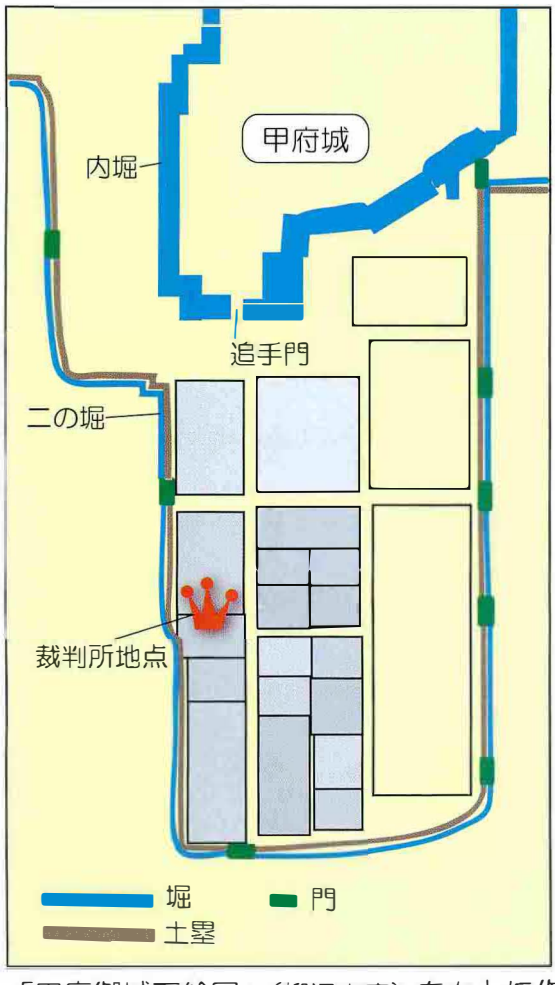
甲府城下町遺跡（甲府地方裁判所地点）の概要

甲府城・二の堀・を探す

江戸時代、甲府城は内側から順に「内堀」、「二の堀」、「三の堀」というように３つの堀によって囲まれていました。「二の堀」はその内側の武家地と、その外側の町人地とを隔てていました。今回の調査地点のうちのＩ区ではこの「二の堀」が見つかる可能性がありました。土の積み重なった状況をよく観察してみると・・・



▲Ｉ区の土層



▲「甲府御城下絵図」（柳沢文庫）をもとに作成
：調査地周辺の江戸時代中ごろの様子

もともとあった自然の層が削られて、その後別の土が積み重なっている様子が確認されました。これが「二の堀」なのでしょうか？

さらに土をよく観察してみると、あとから積み重なっている土はほぼ平らに重なっていったことがわかりました。「二の堀」は明治時代の初めに埋め立てられたといわれていますが、ここの土はよく締まっていて、江戸時代や明治時代どころか、ずーっと大昔に自然に積み重なった土のようです。

また江戸時代なかば頃の絵図と今の町並みの地図を重ね合わせたところ、甲府地方裁判所のあたりでは「二の堀」は平和通りの位置を南北方向に走っていたようであることがわかりました。昔の絵図の距離感や位置はほぼ現在の町並みと合致していて、新しい建物や高いビルが乱立している甲府中心市街地にも昔の町並みが息づいているとは不思議な感じがします。

現れなかった城下町…

調査地周辺には江戸時代には武家屋敷が広がっていました。甲府地方裁判所のある場所は、柳沢吉保・吉里が甲府城主だった時期（1704～1724年）には「滝口平太左衛門」という800石取りの武士（家老）の屋敷地でした。

800石がどれくらいの年収だったか単純に計算してみると・・・

米1俵＝60kg

米10kg＝4,000円　とすれば…

米1俵＝2万4千円

1石に対して米1俵が与えられていたとすれば…

800石では、年収1,920万円！

というように、年収にしてみるとハイクラスだったことがわかります。まわりと比べて屋敷地も広く、「家老」という身分からもかなりの実力者だったと言えるでしょう。これが幕末頃の絵図によると「御薬園」という場所に様変わりをします。「御薬園」は薬草などが栽培されていた場所です。

しかしながら調査地からは溝が4本見つかっただけでした。これは調査地が「滝口邸」の南端にあたり、建物などがなかった場所であったことや、「武家屋敷」から「御薬園」へという大きな土地利用の変化があったことなども理由に挙げられるかも知れません。

甲府の中心地から古墳時代の土器が顔を出す！

現在の地表から1mほど掘り下げたところから、古墳時代を中心に平安時代の土器も若干含む層がでてきました。見つかったものには古墳時代前期の台付甕や古墳時代後期の坏や須恵器（青灰色で固い焼き物）もあります。特に須恵器は、破片ではありますが大甕や長い脚がつく高坏などマツリに使われることが多い器が含まれていました。現在は市街地化が進みかつての地形をうかがい知ることは難しいですが、当時は甲府城がある小山から南に向かって細長い高まりが延びていたものと思われます。江戸時代に掘られた「二の堀」は川が流れていたところを利用しながらつくられたとも言われていますから、日当たりも水はけも良く、近くに水辺もあったこの場所は、人々の暮らしには最適な場所だったといえるでしょう。

甲府城下町遺跡と呼ばれる範囲の中では、これまで城下町以前の人々が暮らした痕跡がまとまって見つかることは少なかったので、今回の発掘調査は甲府市中心地の新たな歴史を紐解いたと言えるでしょう。

序

甲府城下町遺跡（甲府地方裁判所地点）の所在する甲府市中央１丁目付近は、現在では、甲府警察署、甲府地方裁判所、甲府地方検察庁といった官公庁が建ち並び、銀行や証券会社などのオフィスビルも軒を並べるなど、まさに甲府の中心街ですが、江戸時代においては、甲府城の南門である追手門を出たところに広がる武家屋敷地の一角を占める場所でした。絵図によると甲府地方裁判所の場所は、江戸時代中期には「滝口平太左衛門」という800石取りの家老の屋敷地であり、また幕末には「御薬園」と呼ばれる薬草などを栽培する場所だったようです。

今回の甲府城下町遺跡（甲府地方裁判所地点）の発掘調査は、甲府地方裁判所の新築工事に伴い、その事前調査として2006（平成18）年度に行われました。調査の結果、地表下約１ｍのところから弥生時代末～平安時代の土器がパックされた層が見つかりました。中には完形に近い台付甕や、胴部の丸い甕なども含まれていました。これまで、周知の埋蔵文化財包蔵地である「甲府城下町遺跡」から城下町以前の遺構や遺物がまとまって見つかることは少なかったので今回の発掘調査は貴重な成果を上げたといえます。

江戸時代については上述の通り、甲府城「二の堀」の内側、武家屋敷地の一角にあたる場所で、この「二の堀」跡の東肩部分がかかる可能性もありましたが、これについての明確な痕跡は見あたらず、甲府地方裁判所地点付近では「二の堀」はほぼ平和通りの位置を南北方向に走る形で通っていたのではないか、という結論に達しました。また、武家屋敷地の明確な痕跡については調査面積の制約もあって確認することはできませんでした。しかしながら遺物については興味深いものが発見されています。遺構に伴ったものではありませんが、幕末に活躍した尾張の陶工「加藤春岱」の銘が入った志野焼の鉢などが見つかっています。このように名の知れた陶工による作品が発掘調査で発見されることは珍しいことです。本書に掲載しておりますこれらの調査成果は学術的価値が非常に高く、「甲府城下町遺跡」としてひとくくりにされていたこの地における、城下町以前の歴史の新たな１ページを開いたと言えます。

本報告書が多くの方々に研究学習資料としてご活用いただければ幸甚であります。

末筆ながら、種々ご協力賜りました関係機関各位、地元の方々並びに、調査や整理作業に従事していただいた方々に厚く御礼申し上げます。

2007年12月

山梨県埋蔵文化財センター
所長　　末　木　　健

例　言

1．本報告書は 、平成18 (2006) 年度に実施した山梨県甲府市中央１丁目 1-10-7 に所在する甲府城下町遺跡 (甲府地方裁判所地点) の発掘調査報告書である。
2．本調査は甲府地方裁判所庁舎新営工事に伴う事前調査であり、国土交通省より委託を受け、山梨県埋蔵文化財センターが調査を実施したものである。
3．発掘調査および出土品の整理は、山梨県埋蔵文化財センターが行ない、鶴田博・野代恵子が担当した。
4．本報告書の編集および執筆は、鶴田博・野代恵子が担当した。関連科学については、第４章　自然科学分析をパリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。
5．本報告書作成のための主な作業分担は下記のとおりである。

遺構写真撮影	鶴田博・野代恵子
遺物写真撮影	清水　守（スタジオ トータル アイ）
遺物洗浄・注記・接合・復元	北野礼子・栗原礼子・齊藤里美・野沢喜美
遺物実測・拓本・トレース・遺構トレース	猪股順子・栗原礼子・齊藤里美・萩原里江子・野沢まゆみ
図版作成	野代恵子・栗原礼子・齊藤里美・萩原里江子
写真図版作成	野代恵子
表作成	野代恵子

6．発掘調査および整理事業において下記の業務を委託した。

基準杭測量	：昭和測量株式会社
航空写真および測量	：株式会社 こうそく
土層測量	：株式会社 シン技術コンサル
^{14}Ｃ年代測定・花粉分析	：パリノ・サーヴェイ株式会社
遺物写真撮影	：清水　守（スタジオ トータル アイ）

7．本報告書にかかる出土品および記録図面・写真等は一括して山梨県埋蔵文化財センターに保管してある。
8．発掘調査から報告書作成に至る過程で、下記の諸氏・諸機関から多大なるご教示・ご協力を賜った。記して謝意を表わす次第である（順不同・敬称略)。
甲府市教育委員会、甲府地方裁判所事務局会計課、河西　学、川崎昌宏、西川広平、パリノ・サーヴェイ株式会社、昭和測量株式会社、株式会社 こうそく、清水　守（スタジオ トータル アイ）
9．本報告の遺跡名について
本事業地内の遺跡名は甲府市における遺跡台帳と照らし合わせて「甲府城下町遺跡」として進めてきたが、他の周辺遺跡の多くの名称が「甲府城下町遺跡」であり混同を防ぐため、甲府地方裁判所地点として本報告書では遺跡名を加筆記載することとした。

凡　例

1．掲載した図面の縮尺は、原則として次のとおりである。
竪穴状遺構：Ｓ＝１／４０、 遺物：Ｓ＝１／３
2．遺物観察表の（　　）は推定値を表す。
3．遺物実測図の断面黒色は須恵器を表す。
4．遺物実測図の断面の左側に外面、右側に内面の拓本がある。
5．赤彩された土器は赤彩箇所をスクリーントーンで表す。
6．石の摩擦面はスクリーントーンで表す。

目　次

口絵
甲府城下町遺跡のあらまし
序文
例言・凡例
目次

第１章　調査の経緯と経過 …… 1
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査の経過 …… 1
　第３節　調査組織 …… 2

第２章　遺跡の位置と環境 …… 2
　第１節　地理的環境 …… 2
　第２節　歴史的環境 …… 2

第３章　調査の方法と成果 …… 6
　第１節　調査の方法 …… 6
　　１．調査区の設定 …… 6
　　２．調査の目的 …… 6
　　３．調査グリッドの設定 …… 6
　　４．記録の方法 …… 6
　　５．整理作業・報告書作成の方法 …… 6
　第２節　基本層序 …… 6
　第３節　遺構と遺物 …… 9
　　１．調査成果の概要 …… 9
　　２．Ⅰ区の遺構 …… 9
　　３．Ⅰ区の遺物 …… 10
　　４．Ⅱ区の遺構 …… 10
　　５．Ⅱ区の遺物 …… 10
　第４節　立会い調査 …… 11
　　１．Ⅱ区西側部分の立会い調査 …… 11
　　２．Ⅰ区南側部分の立会い調査 …… 12
　　３．井戸の立会い調査 …… 12

第４章　自然科学分析 …… 59

第５章　まとめ …… 63
　第１節　Ⅰ区 …… 63
　　１．遺構 …… 63
　　２．遺物 …… 63
　第２節　Ⅱ区 …… 64
　　１．遺構 …… 64
　　２．遺物 …… 66
　第３節　おわりに …… 66

挿図目次

第１図 遺跡の位置と周辺の遺跡 …… 4
第２図 遺跡の位置とその周辺 …… 7
第３図 調査区・立会い調査箇所・試掘トレンチ位置図 …… 7
第４図 基本層序 …… 8
第５図 Ⅰ区 全体図、土層セクションポイント位置図 …… 13
第６図 Ⅰ区 遺物出土位置図 …… 14
第７図 Ⅰ区 土層図 …… 15 ～ 16
第８図 Ⅰ区 出土遺物（1）：遺物集中箇所 …… 17
第９図 Ⅰ区 出土遺物（2）：遺物集中箇所 …… 18
第 10 図 Ⅰ区 出土遺物（3）：遺物集中箇所 …… 19
第 11 図 Ⅰ区 出土遺物（4）：遺物集中箇所 …… 20
第 12 図 Ⅱ区１面 全体図 …… 21
第 13 図 Ⅱ区２面 全体図、遺構外遺物出土状況 …… 22
第 14 図 Ⅱ区２面 溝 出土遺物 …… 22
第 15 図 Ⅱ区３面 全体図 …… 23
第 16 図 Ⅱ区３面 ピット位置図・セクション図、セクションポイント位置図 …… 24
第 17 図 Ⅱ区３面 遺構外遺物出土状況図 …… 25
第 18 図 Ⅱ区 調査区壁 土層図 …… 26
第 19 図 竪穴状遺構１ 全体図、遺物出土状況図・セクション図 …… 27
第 20 図 竪穴状遺構２ 全体図、遺物出土状況図・セクション図 …… 28
第 21 図 竪穴状遺構３・４ 全体図、遺物出土状況図 …… 29
第 22 図 竪穴状遺構１ 出土遺物（1） …… 30
第 23 図 竪穴状遺構１ 出土遺物（2） …… 31
第 24 図 竪穴状遺構１ 出土遺物（3） …… 32
第 25 図 竪穴状遺構１ 出土遺物（4） …… 33
第 26 図 竪穴状遺構１ 出土遺物（5） …… 34
第 27 図 竪穴状遺構２ 出土遺物（1） …… 35
第 28 図 竪穴状遺構２ 出土遺物（2） …… 36
第 29 図 竪穴状遺構３・４ 出土遺物（1） …… 37
第 30 図 竪穴状遺構３・４ 出土遺物（2） …… 38
第 31 図 遺構外出土遺物（1） …… 39
第 32 図 遺構外出土遺物（2） …… 40
第 33 図 遺構外出土遺物（3） …… 41
第 34 図 遺構外出土遺物（4） …… 42
第 35 図 遺構外出土遺物（5） …… 43
第 36 図 遺構外出土遺物（6） …… 44
第 37 図 立会い調査 トレンチ平面図・セクション図 …… 45
第 38 図 立会い調査 出土遺物 …… 46
第 39 図 試掘調査 トレンチ平面図 …… 47
第 40 図 試掘調査 トレンチ１ 出土遺物（1） …… 48
第 41 図 試掘調査 トレンチ１ 出土遺物（2） …… 49
第 42 図 調査地点周辺の江戸時代中頃における土地利用 …… 64
第 43 図「甲府御城下絵図」の地区割りと現在の街並み …… 65

表目次

表１ 甲府城下町遺跡（甲府地方裁判所地点）周辺遺跡 …… 5
表２ 陶磁器類観察表 …… 50
表３ 土器類観察表 …… 54

第１章　調査の経緯と経過

第１節　調査に至る経緯

甲府地方裁判所は、文化財保護法に基づく周知の埋蔵文化財包蔵地である甲府城下町遺跡のなかにある。甲府地方裁判所の改築に伴い、県埋蔵文化財センターは 2002（平成 14）年 6 月 25 ～ 26 日の期間で仮設庁舎予定地における埋蔵文化財の範囲を確定するための試掘調査を行った。調査箇所については第３図に示す通りである。その結果、現地表面より約 50㎝～ 60㎝の深さから江戸時代と考えられる配石状遺構や石列のほか、青磁皿や擂鉢などの遺物が確認された（注１）。この調査による出土遺物は本報告中におさめた（第 40・41 図）。

2004（平成 16）年 6 月、国土交通省関東地方整備局営繕部、甲府地方裁判所事務局会計課、県教育委員会学術文化財課、県埋蔵文化財センターの担当者が集まり、甲府地方裁判所の改築に関する協議を行った。その中で、同年度から翌年度にかけて仮設庁舎を建設し、2006（平成 18）年度に新庁舎建設予定地内にある既存の建物の基礎を解体する各年度の計画が出された。また、仮設庁舎については埋蔵文化財に影響を及ぼさない範囲で建設するように設計され、影響がある場合にはその都度立会い調査などで対応することを確認した。それに伴い、2004（平成 16）年 8 月にはボーリング調査に伴う立会い調査を（注２）、2005（平成 17）年 9 月には水槽タンク設置に伴う立会い調査を実施した（注３）。

2006（平成 18）年 9 月、国土交通省関東地方整備局営繕部および甲武営繕事務所、甲府地方裁判所事務局会計課、県教育委員会学術文化財課、県埋蔵文化財センターの担当者により、本格的な発掘調査に関する協議を行った。その中で、既存建物の基礎が３ｍほどの深さで入り込んでいることから、既存建物の基礎工事を行った際に掘削が及んでいない範囲を中心に調査を行い、基礎部分については立会い調査などで対応することを確認した。そして、同年 11 月より発掘調査に着手した。

なお、法的な手続きは以下のとおりである。

平成 18 年　11 月 1 日　文化財保護法第 99 条第 1 項に基づく発掘通知を山梨県教育委員会教育長に提出
平成 19 年　 1 月 4 日　文化財保護法第 100 条第 2 項に基づく埋蔵文化財発見通知を甲府警察署長に提出

（注１）山梨県埋蔵文化財センター（2003. 9）『年報 19（平成 14 年度）』
　　山梨県教育委員会（2006. 3）『甲府城跡周辺確認調査報告書　県庁構内及び甲府城下町遺跡関係立会・発掘調査等報告』
（注２）山梨県埋蔵文化財センター（2005. 10）『年報 21（平成 16 年度）』
（注３）山梨県埋蔵文化財センター（2006. 10）『年報 22（平成 17 年度）』

第２節　調査の経過

発掘調査は平成 18 年 9 月より諸準備を整え、同 11 月 1 日より着手し 12 月 25 日に終了した。調査期間中には高等裁判所や甲府地方裁判所職員の方々の現地見学などもあった。調査をしていく中で当初設定した調査区外で工事による破壊が及ぶ範囲に遺物包含層が広がっていることが確認されたため、調査終了後、平成 19 年 1 月 22 日から 24 日にかけて、この箇所についての立会い調査を行なった。また「二の堀」跡に関わる調査として、同 2 月 27 日に立会い調査を行なった。本調査終了後、平成 19 年 1 月 9 日から 3 月 19 日まで基礎的整理作業を行なった。同 3 月 17 日には山梨県考古学会主催の平成 18 年度下半期遺跡発表会において調査成果についての発表を行なった。また同 3 月 17 日から 4 月 8 日にかけて「山梨の遺跡展 2006」において出土遺物の展示を含め、調査成果についての紹介を行なった。平成 19 年 6 月 8 日には工事中に井戸が発見されたため、立会い調査を行なった。

第３節　調査組織

調査主体　山梨県教育委員会

調査機関　山梨県埋蔵文化財センター

平成 18 年度発掘調査・基礎的整理作業

担　当　　：調査研究課　鶴田　博・野代恵子

発掘調査作業員：天野きみ子・石井弘文・入倉和代・岡和子・岡部豊雄・小沢正臣・加賀美昌友・金丸恵美・北野礼子・児玉和子・五味護・齊藤里美・佐藤武光・田中ふみ江・田辺君代・土屋幹夫・手塚房子・中澤久雄・野沢喜美・深沢和樹・村田勝利

整 理 作 業 員：北野礼子・栗原礼子・齊藤里美・野沢喜美

平成 19 年度本格的整理作業

担　当　　：資料普及課　野代恵子

整 理 作 業 員：猪股順子・栗原礼子・齊藤里美・萩原里江子・野沢まゆみ

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

甲府地方裁判所の所在地は山梨県甲府市中央１－10－７で、ＪＲ甲府駅から南に延びている主要地方道甲府敷島韮崎線（通称平和通り）を南方向へ約 750 m進んだ先にある。平和通り沿いには山梨県庁をはじめ、甲府市役所、甲府警察署、甲府地方裁判所、甲府地方検察庁といった官公庁が建ち並び、銀行や証券会社などのオフィスビルも軒を並べるなど、市街地化がかなり進んでいるところである。調査地点の標高は約 266 mで、甲府駅から南へ目を向けると緩やかに続く下り坂が甲府市役所付近より平坦になっている先にある。

調査地点は甲府盆地の北部を流れる相川の左岸にあり、相川が形成した扇状地の扇端部にあたる。相川は甲府盆地北部の山地を源として甲府市内を南へ流れ、甲府市下積翠寺付近より南に向かって扇状地が形成されている。その後、甲府市宝二丁目付近で荒川に合流し、甲府盆地を南へ流れ、笛吹川と合流する。

ＪＲ甲府駅周辺の地形をみると、荒川や相川の影響を強く受けたとされる扇状地、自然堤防、旧河道、後背湿地といった微地形がみられ、旧河道や後背湿地でない扇状地からは集落跡が確認されている。周知の埋蔵文化財である「甲府城下町遺跡」は市街地化が進んだために本来の地形を判読することは困難なところがあるが、明治後期の地図には南に向かってのびる舌状台地状の高まりを示す等高線が記されている。

第２節　歴史的環境（第１図　周辺遺跡分布図参照）

周知の埋蔵文化財包蔵地「甲府城下町遺跡」は近世の城下町を主体とする遺跡であるが、原始・古代に関しては古墳時代や平安時代の遺物が僅かに出土するにとどまり、いずれも遺構を伴うものはなかった。この背景には、当該地域が中近世に大きな土地の改変を受けたことや、扇状地という自然環境により流失したことが挙げられる。しかし、甲府城下町遺跡の周辺に目を向けると、縄文時代前期後葉の諸磯ａ式土器を主体とする宝町遺跡（29）や古墳時代の遺跡である飯田一丁目遺跡（25）、古墳時代を中心に木製品なども発見されている朝気遺跡（83）、弥生～古墳時代の集落や方形周溝墓が発見された塩部遺跡（24）などがみられる。縄文時代には荒川上流域の山間地や山裾部と盆地との境界地あるいは扇状地地帯に遺跡がみられるが、甲府市域では縄文時代の集落立地に見合った丘陵や台地上の広い平坦地がないため、大規模な集落には発展しなかったものと考えられる。弥生時代に入ると遺跡立地は大きく変わり、遺跡は沖積地の微高地上に分布する。古墳時代初頭には市中央部の青沼・朝

気などでも遺跡の増加が見られる。6 世紀から 7 世紀代にかけては湯村・千塚地区や里垣甲運地区に多くの古墳が築かれるが、これらを支えた集落跡の発見は少ない状況にある。奈良平安時代に至ると市南部の平坦地にも多くの集落が形成されるようになり、盆地底部の低湿地がより開拓された状況を伺うことができる。今回の調査地点（A：★印）からは古墳時代を中心とする土器の出土がみられたが、調査地と平和通りをはさんだ西側に位置する百人町地点（B）では立会い調査において甲府裁判所地点とほぼ同じく地表下およそ１mの黒褐色土層中から弥生時代最終末～古墳時代前期初頭の壷胴部が出土しており、周辺にはこの包含層が広がっている可能性もある。以上のように周辺の地理的環境の側面から考え合わせると、甲府城下町遺跡域も周辺の遺跡と同様に原始・古代についても人々が生活していた可能性は大いにあるものと思われる。

中世後期になると、武田信虎が躑躅ヶ崎館（12）に本拠を移し、館の南方に武田城下町が形成された。しかし、武田城下町は近世に形成された甲府城下町によって改変されており、絵図等の資料もないことから不明な点が多い。なお、調査地点は周知の埋蔵文化財包蔵地「武田城下町遺跡」の範囲の外側（南側）に位置している。

天正 10（1582）年に武田氏が滅亡した後、甲斐の支配は織田・徳川・豊臣と移り、16 世紀末に関東の徳川を牽制するために甲府城が築城された。それに伴い、甲府城を中心とする城下町が形成され、武家地を二の堀で取り囲み、町人地を三の堀で取り囲む構造ができあがった。調査地点は追手門から南へ向かう路（追手小路）とその西側の二の堀の間にあり、武家地であった。

宝永元（1704）年、５代将軍徳川綱吉の側用人であった柳沢吉保が川越藩から甲府藩主となり、藩主が在勤となるために甲府城の修築や城下町の再整備が行われた。子の柳沢吉里は享保 9（1724）年に大和郡山へ転封となったが、城下町の大規模な整備により近世の甲府は最盛期を迎えることとなった。この頃の絵図を見ると、調査地点には「滝口平太左衛門」という 800 石取りの吉里の家老の名前が登場する。

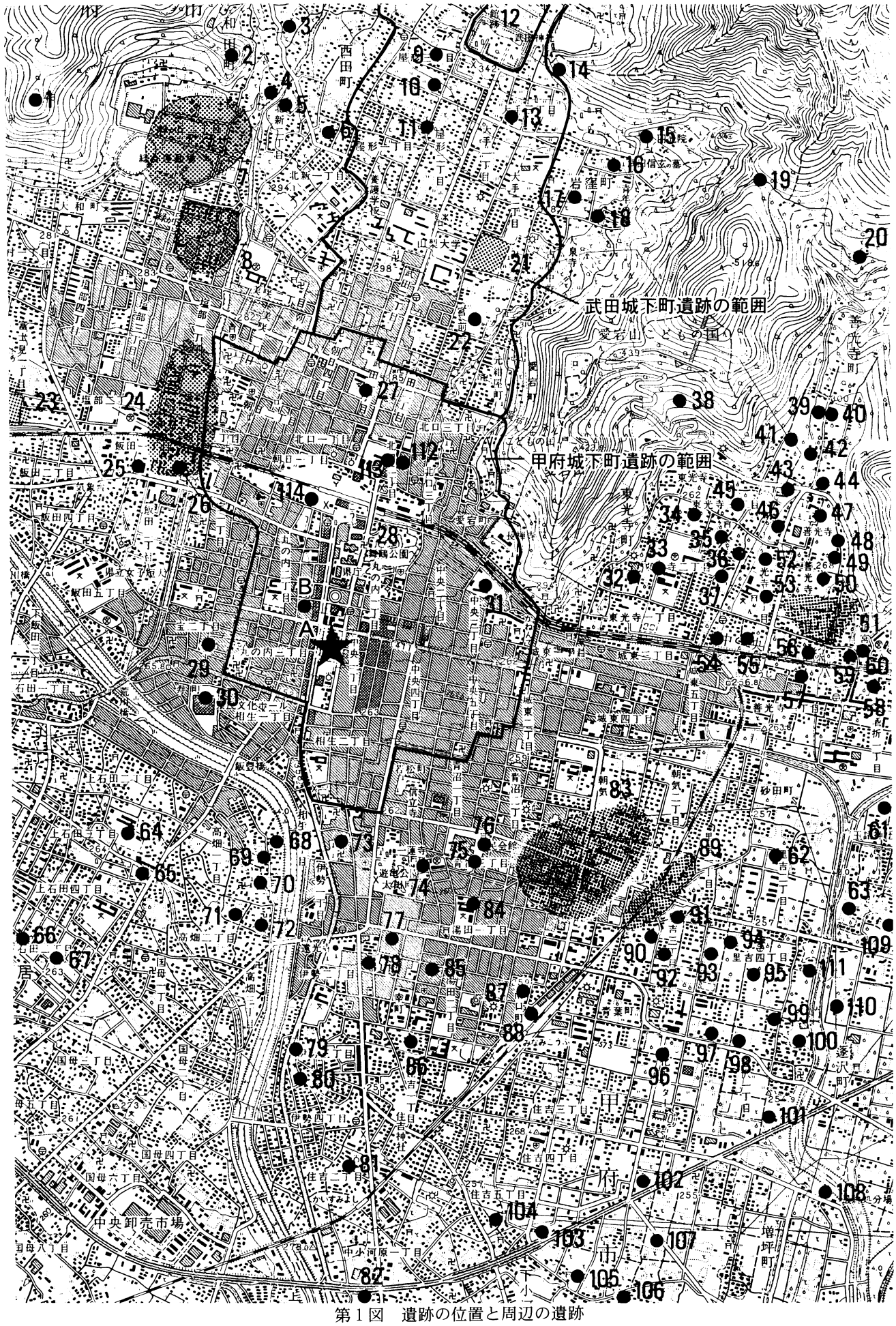
吉里の大和郡山転封後、甲斐国は幕府の直轄領となり、甲府勤番支配のもとに甲府城が警護された。嘉永年間（1848 ～ 1854）の絵図を見ると調査地点は「御薬園」と記されており、薬草などを栽培していた様子がわかり、土地利用に変化がみられる。

明治時代に入り、新政府は戊辰戦争を進める中で新しい政治の建設をはじめた。明治 4（1871）年の廃藩置県に代表されるように強力に中央集権を進め、財政の安定のために地租改正を行った。また、新政府の組織の集権化も行われ、司法行政を管轄する司法省が明治 4（1871）年に設置され、翌年の司法職務定制により同年 9 月に県庁舎内に山梨裁判所が置かれ、さらにその翌年には場所を富士川町（現在の甲府市中央２丁目）に移動した。

一方、山梨県内に目を移すと、明治 6（1873）年 1 月に藤村紫朗が県令として着任して以降に近代化が展開された。明治 6（1873）年、政府が全国の城郭の存廃を決定したときに甲府城は内城のみ保存と決定し、二の堀や三の堀の埋め立てが行われ、新しい市街地を建設した。特に、追手門から南へ延びる追手小路（現在の舞鶴通り）沿いには藤村式と総称される疑似洋風建築の官公庁が相次いで建てられた。

明治 7（1874）年	7 月	県営の勧業製糸場（現在の古名屋ホテル）
明治 9（1876）年	3 月	山梨裁判所（現在の裁判所）
	5 月	県病院（現在の相生交差点北東角）
	7 月	県師範学校（現在の中央公園）
明治 10（1877）年	10 月	県庁（現在の甲府市役所）

しかし、昭和 20（1945）年 7 月の甲府空襲により、甲府市内は壊滅的な打撃を受けた。裁判所も空襲後は場所を転々としていたが、昭和 22（1947）年に今まであった場所への建設を開始した。また、戦後復興都市計画事業が進められ、平和通りはその事業として昭和 22（1947）年に着工し、同 30（1950）年に完成した。平和通り沿いに官公庁や金融機関が集まり、調査地点周辺は市街地化が展開された。



第１図　遺跡の位置と周辺の遺跡

No.	遺跡名	時代
1	湯村山山頂遺跡	平安時代
	湯村山城跡	中世
2	三光寺山遺跡	古墳時代
3	永井遺跡	古墳時代・平安時代
4	村之内遺跡	古墳時代
5	向田Ａ遺跡	弥生時代
6	向田Ｂ遺跡	弥生時代・古墳時代
7	緑ヶ丘二丁目遺跡	縄文時代～平安時代
8	緑ヶ丘一丁目遺跡	古墳時代
9	峰本南Ａ遺跡	近世
10	峰本南Ｂ遺跡	近世
11	長閑遺跡	中世
12	武田氏館跡	中世
13	大手下遺跡	縄文時代～平安時代
14	躑躅ヶ崎亭跡	中世
15	岩窪Ｃ遺跡	古墳時代
16	中道東遺跡	近世
17	中道西遺跡	古墳時代
18	岩窪遺跡	奈良・平安時代・中世
19	茶堂烽火台	中世
20	茶堂遺跡	平安時代
21	山梨大学構内遺跡	奈良・平安時代
22	八幡神社	縄文
23	富士見遺跡	古墳時代・平安時代
24	塩部遺跡	弥生時代～平安時代
25	飯田一丁目遺跡	弥生時代・古墳時代
26	横田氏屋敷跡	近世
27	新紺屋小学校構内遺跡	近世
28	甲府城跡	近世
29	宝町遺跡	縄文時代・平安時代
30	寿町遺跡	古墳時代
31	富士川小学校校庭遺跡	近世・代官所跡
32	御崎田遺跡	平安時代
33	六反田遺跡	平安時代・中世
34	亥ノ兎遺跡	平安時代
35	大六天遺跡	平安時代
36	宮裏遺跡	平安時代
37	銀杏之木	平安時代～中世
38	大笠山水の穴遺跡	古墳時代
39	北善光寺Ａ遺跡	平安時代
40	北善光寺Ｂ遺跡	古墳時代
41	堤下Ｂ遺跡	平安時代
42	堤下Ａ遺跡	平安時代
43	北原遺跡	縄文時代・平安時代
44	善光寺裏遺跡	縄文時代・平安時代
45	地蔵北遺跡	古墳時代～平安時代
46	宮の脇Ａ遺跡	縄文時代・平安時代
47	南善光寺Ｂ遺跡	古墳時代～平安時代
48	南善光寺Ａ遺跡	平安時代
49	殿屋敷遺跡	平安時代
50	板垣氏屋敷跡	近世
51	本郷遺跡	縄文時代・古墳時代
52	宮の脇Ｂ遺跡	縄文時代・古墳時代
53	上郷遺跡	平安時代
54	東光寺遺跡	平安時代
55	宮の前遺跡	縄文時代
56	本郷Ｂ遺跡	平安時代
57	本郷Ｃ遺跡	古墳時代～中世
58	内林遺跡	近世
59	宮前遺跡	縄文時代

No.	遺跡名	時代
60	酒折縄文遺跡	縄文時代
61	大橋遺跡	中世
62	中坪遺跡	古墳時代
63	落合氏館跡	中世
64	上石田Ｂ遺跡	平安時代
65	上石田遺跡	縄文時代
66	上河原遺跡	平安時代
67	渋沢遺跡	平安時代
68	久保北河原遺跡	平安時代
69	大北河原遺跡	平安時代
70	宮北遺跡	縄文時代・平安時代
71	秋山氏館跡	中世
72	村前遺跡	平安時代
73	千松院遺跡	中世
74	太田町遺跡	古墳時代
75	青沼遺跡	古墳時代
76	青沼三丁目遺跡	中世
77	伊勢町遺跡	古墳時代
78	食糧工場遺跡	縄文時代・弥生時代
79	木俣遺跡	近世
80	般舟院跡	中世
81	住吉天神	古墳時代～平安時代
82	小宮山氏館跡	中世
83	朝気遺跡	縄文時代～平安時代
84	湯田一丁目遺跡	古墳時代
85	幸町Ａ遺跡	弥生時代
86	幸町Ｂ遺跡	古墳時代
87	南口町Ａ遺跡	平安時代
88	南口町Ｂ遺跡	平安時代
89	里吉天神遺跡	古墳時代～平安時代
90	十丁遺跡	古墳時代
91	家之前遺跡	平安時代
92	十丁Ｂ遺跡	古墳時代
93	字前Ａ遺跡	古墳時代
94	字前Ｂ遺跡	古墳時代
95	字前Ｃ遺跡	古墳時代
96	青葉町遺跡	平安時代
97	北桜遺跡	平安時代
98	野村遺跡	古墳時代～平安時代
99	油田遺跡	平安時代
100	居村遺跡	近世
101	淵之上遺跡	古墳時代
102	二又遺跡	古墳時代
103	宮田遺跡	弥生時代・平安時代
104	上ノ木遺跡	古墳時代～平安時代
105	大上井遺跡	平安時代
106	上町天神遺跡	古墳時代～平安時代
107	明石西河原遺跡	平安時代
108	外河原ヂクヤ遺跡	古墳時代～平安時代
109	深田遺跡	古墳時代・中世
110	北堀遺跡	古墳時代～平安時代
111	村之内遺跡	古墳時代～平安時代
112	日向町遺跡	中世～近世
113	甲府城下町遺跡（日向町遺跡第２地点）	中世～近世
114	甲府城下町遺跡（KJ43 地点）	中世～近世
A	甲府城下町遺跡（甲府地方裁判所地点）	弥生時代～平安時代、近世
B	百人町地点（立会い調査）	土師器出土

表１　甲府城下町遺跡（甲府地方裁判所地点）周辺遺跡（第１図　周辺遺跡分布図のNo.に対応）

第３章　調査の方法と成果

第１節 調査の方法

１．調査区の設定

発掘調査対象地は裁判所の建物があった場所であり、その基礎については地表下３ｍにおよび、さらにその下には地盤を安定させるため、長さ 16 ｍの赤松の杭が 90㎝ピッチで埋め込まれていることが事前協議により明らかになっていた。このため建物基礎の入っている部分については包含層及び遺構面が完全に破壊されているものと判断されたため、建物基礎が入っていない部分を選び２カ所の調査区を設定した。ひとつは建物の表玄関部分にあたる場所でこれをⅠ区とし、もうひとつは建物に囲まれた中庭部分でこれをⅡ区として調査を行なった。

２．調査の目的

平成 14 年度に当時の裁判所建物北側の駐車場部分において試掘調査が行われているが（第３図）、この調査において地表下 50 ～ 60㎝のところから江戸時代の遺物を含む包含層が検出されていたので、まずこの層を目安に重機による掘削を行なった。また周辺では平成 17 年度に旧東急駐車場部分の調査（中央１丁目 188 番地外）が甲府市教育委員会と帝京大学山梨文化財研究所によって行われたが、ここで甲府城「二の堀」跡が確認されている。この「二の堀」がまっすぐ北に向かって延びていたとすれば、ちょうどⅠ区のあたりにくることが想定されたため、Ⅰ区については最終的にはこの「二の堀」を確認することを目的とした。また（中央１丁目 188 番地外）の調査では、二の堀の東側に堀とほぼ同幅の土塁、武家屋敷の境界を示すと考えられる石敷きの溝が検出されており、Ⅱ区については武家屋敷地内にあたる可能性があったためそれを念頭において調査を進めた。

３．調査グリッドの設定

発掘調査を行うにあたり、国土座標に基づく５ｍグリッドを設置した（第３図）。グリッドには東西ラインをアルファベットで、南北ラインを算用数字で示した。なお、グリッド番号が必要となる調査は主にⅡ区であったため、東西ラインについてはⅡ区を優先させてＡ、B、C・・・と付している。グッリドの名称については両ラインの交差点を基準とし、各グリッドの北東隅の交点をもって呼称している。

４．記録の方法

遺物の記録・取り上げについては時計の文字盤より大きなものについては平板測量・レベル測量によりとりあげているが、それより小さいものについてはグリッドごとに一括して取り上げている。

遺構図及び遺物微細図については、平板測量及びやり方測量を適宜選択して作図した。

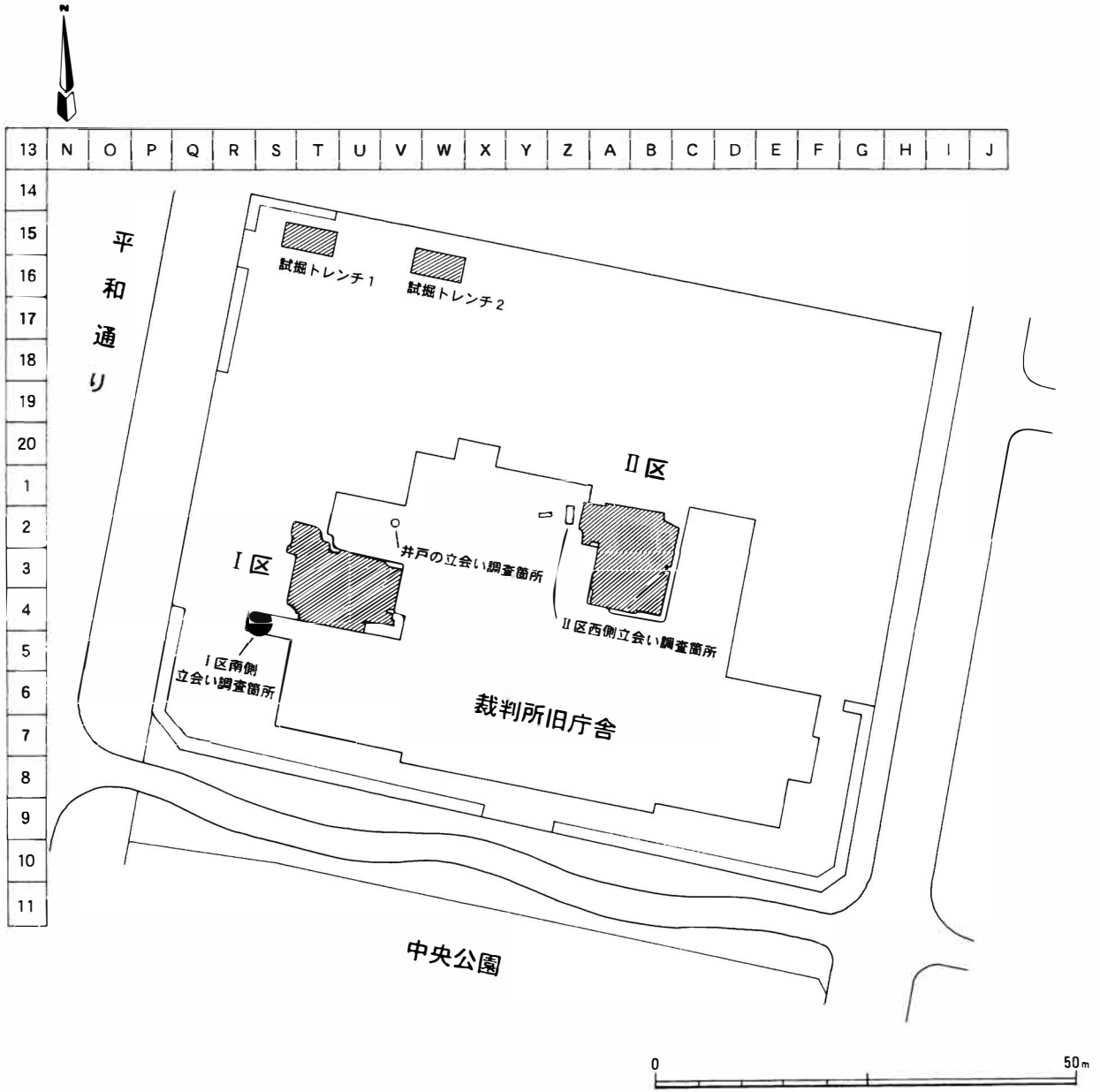
記録写真については小型一眼レフカメラによる 35㎜モノクロネガ・カラーポジを主体に撮影し、補足的にデジタルカメラも使用した。

５．整理作業・報告書作成の方法

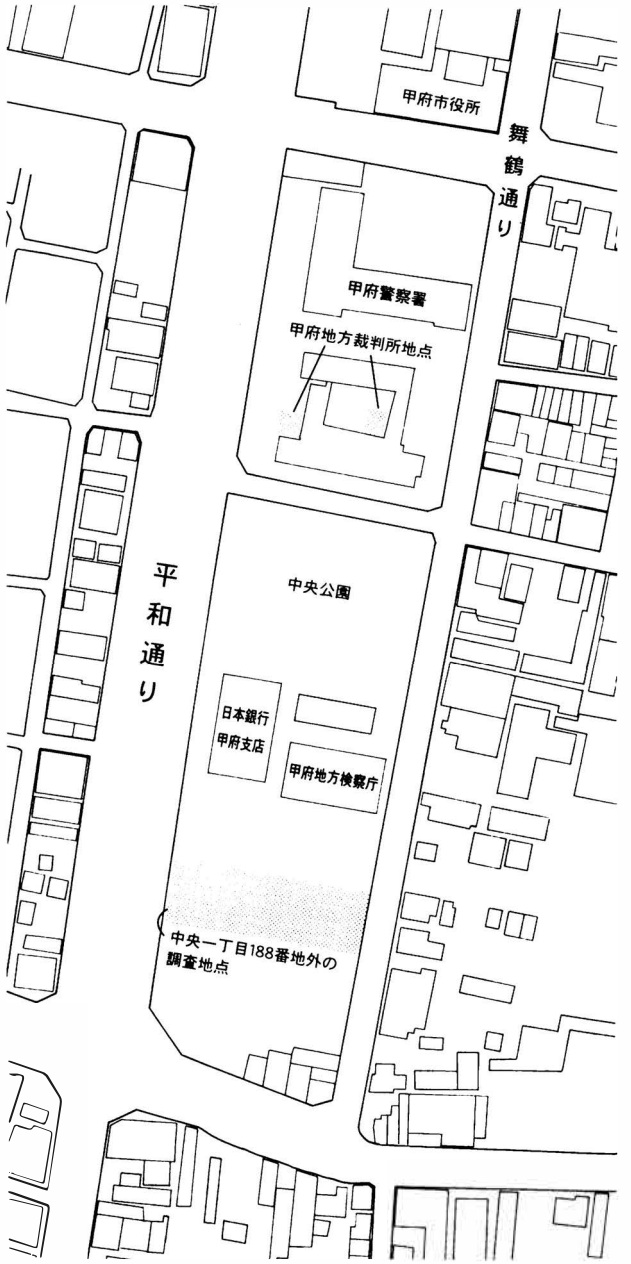
整理作業については平成 18 年度内に基礎的整理として、出土遺物の洗浄作業・遺物ナンバーの注記・接合作業、遺構図面の整理などを行った。翌 19 年度には遺物種別の分類・遺物実測・トレース図作成、遺構図の製図、版組みなどを行ない、同時に原稿を執筆した。

第２節　基本層序

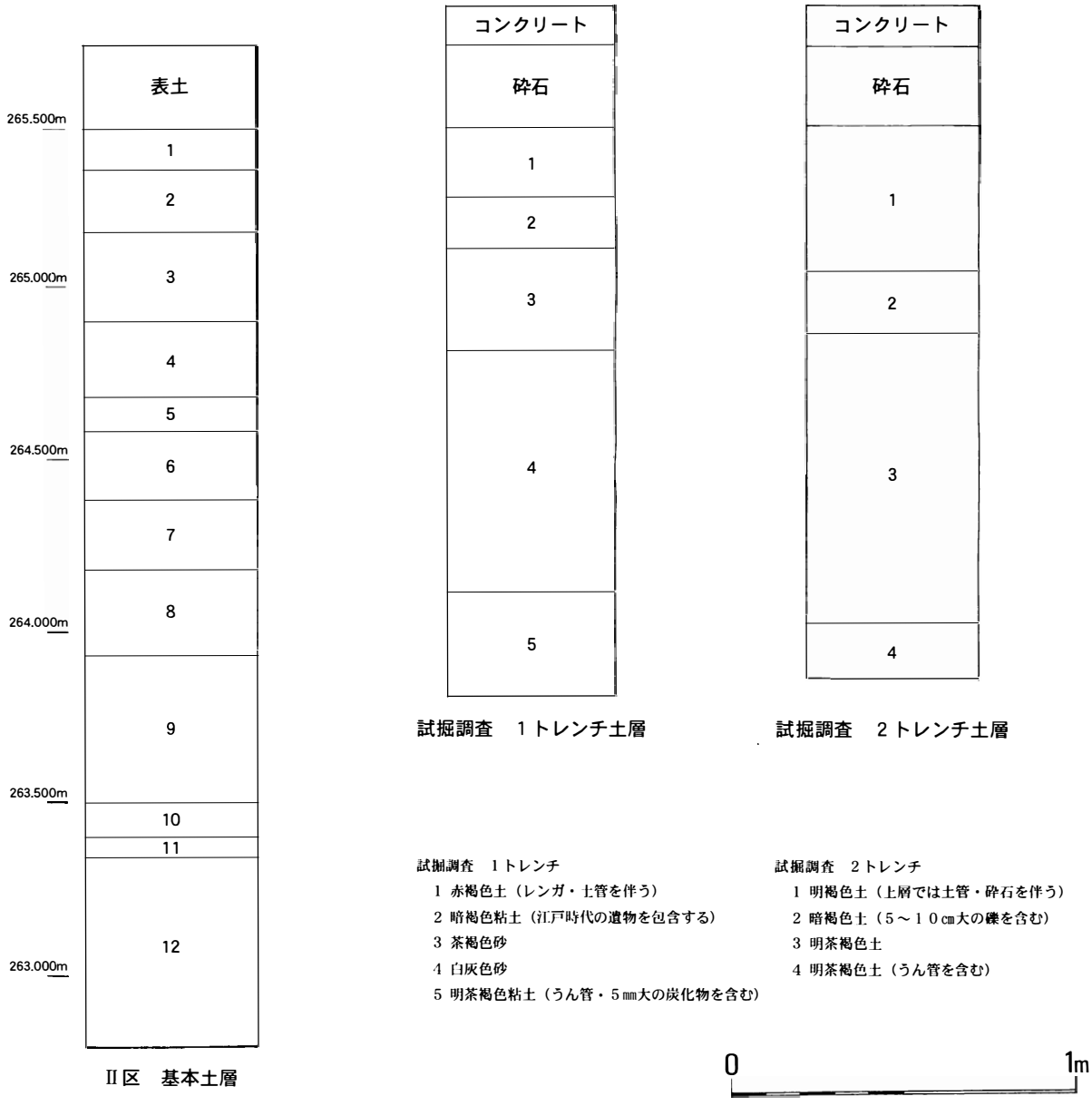
調査地点の地表面は標高 265.6 ｍから 265.7 ｍを測る。調査区西側の平和通りに面した歩道面に比べて 70 ～ 80㎝ほど高くなっている。



第３図　調査区・立会い調査箇所・試掘トレンチ位置図



第２図　遺跡の位置とその周辺



試掘調査　１トレンチ
1 赤褐色土（レンガ・土管を伴う）
2 暗褐色粘土（江戸時代の遺物を包含する）
3 茶褐色砂
4 白灰色砂
5 明茶褐色粘土（うん管・５㎜大の炭化物を含む）

試掘調査　２トレンチ
1 明褐色土（上層では土管・砕石を伴う）
2 暗褐色土（５～１０㎝大の礫を含む）
3 明茶褐色土
4 明茶褐色土（うん管を含む）

Ⅱ区基本土層（柱状図）
1 黄褐色シルト（橙褐色シルトブロックを少量、５～１０㎝大の礫を少量含む）
2 茶褐色土（ややシルト気味、焼土・炭化物粒を少量含む）　←Ⅱ面
3 黒褐色土（やや砂質気味、焼土・炭化物粒を少量含む）　←Ⅲ面
4 黒褐色土（やや砂質気味）
5 橙褐色粗砂
6 灰褐色土（シルトを含む）
7 黒褐色粘質土（５㎜程度の細礫・橙褐色粒・焼土粒・炭化物粒をごくわずかに含む）
8 橙褐色粗砂混じり粘質土
9 橙褐色粘質土（粗砂を少量含む）
10 暗褐色粘質土（橙褐色土粒を多く含む）
11 暗褐色粘質土（橙褐色土粒を13層よりも多く含む）
12 黒色粘土（しまり非常によい）

第４図　基本層序

調査地点における基本的な土層堆積は第４図に示した通りである。Ⅰ区とⅡ区では土層堆積状況が大きく異なるためそれぞれについて記載する。Ⅰ区においては黒褐色粘土層・黄褐色粘土層がみられるが、これらは相川扇状地において一般的に確認される地山層であり、甲府駅北口あたりでは地表下約 20 ～ 40㎝で確認されている。Ⅱ区では調査区北側・西側それぞれの壁面と調査区北端の一部を深掘りした土層で基本層序を確認している。3 層はややシルト気味であるが焼土・炭化物粒を含み、この層からは中世以降の遺物が出土している。4 層はやや砂質気味であるが焼土・炭化物粒を含み、この層からは古墳時代を主体とする、平安時代までの土器が出土している。遺構面については 3 層上面において江戸時代と考えられる溝を確認しており、4 層中ほどのやや砂質が強くなる面（5 層上面）から竪穴状遺構などが確認されている。ただし黒色の掘り込み面に黒色の覆土で掘り込まれているためその判別は土質に依るところが大きかった。その下の橙褐色粗砂層まで掘り下げれば、掘り込みの有無は一目瞭然であり、この面でいくつかのピットを検出している。この下の 11 層は焼土粒・炭化物粒をごくわずかに含んでおり生活面が遺存している可能性もあるが、土器などの遺物は見られなかった。16 層は泥炭化した真っ黒い粘土でそれが厚く堆積している様子が観察されたが、地表面からの掘削深度が 3 ｍを超えて危険なため、これ以上は確認できなかった。

第 3 節　遺構と遺物

１．調査成果の概要

Ⅰ区については甲府城「二の堀」の可能性もある、もとの地山面が削られた土層が確認されている。

Ⅱ区については地表下 80㎝ほどのところに古墳時代初頭～平安時代までの遺物を含む包含層が良好に遺存していた。江戸時代中頃には柳沢吉里の家臣で家老「滝口平太左右衛門」の屋敷地に、また幕末には「御薬園」にあたるが、江戸時代と考えられる面からは溝が検出されるのみにとどまった。

〈遺構〉検出された遺構は江戸時代と考えられる面（2 面）から溝 4 条、古墳時代初頭から平安時代の遺物が多くみられる包含層を掘り下げたところ（3 面）から竪穴状遺構 4 基、ピット 3 基が見つかっている。

〈遺物〉発見された遺物は古墳時代～明治時代に帰属するが、その多くは古墳時代の土器である。Ⅰ区の上層から見つかった陶磁器の中には「加藤宗四郎春岱」銘の陶器・鉢や「小倉（こごえ）製」の印がある行平鍋なども含まれていた。

２．Ⅰ区の遺構

甲府城「二の堀」の東肩にかかることも想定されたため、これを念頭に置き調査を進めた。まずミニユンボにより表土の掘削を行ったが、50㎝ほど下げた状態で茶褐色シルトが一面に広がっていた。この面からは遺物の出土がみられたが、そのうち一カ所は炭化物片や漆喰片をともなう土の中に陶磁器類が廃棄された状態で検出された（第６図）。接合の結果 54 の個体が確認されているが、中に「小倉（こごえ）焼き」が含まれており、これらは明治時代に一括して廃棄されたものと考えられる。またこれと同じ層から志野焼の鉢が単独で見つかっているがこれも特に遺構に伴うものではなかった。これらの遺物を取り上げた後、全体の堆積状況を把握する目的で調査区北側に 1.5 ｍ幅で東西方向にトレンチを入れた。その結果、シルトや粗砂の互層が続いていたが、一部有機物を含む黒褐色の土層がみられたため「二の堀」内の堆積土層である可能性もあることから、調査区を東西方向に分断した形で土層断面を確認することとした。これは旧東急駐車場部分の調査により、堀底は地表下 4 ｍという深さであることが考えられ、調査区も 13 ｍ× 9 ｍと狭い範囲であり、全体を 4 ｍの深さにまで掘り下げることは不可能であったことと、調査区周囲がコンクリート基礎に囲まれていて調査区壁面での土層観察が不可能であることから、調査区内の土層によりこれを確認する方法をとった。

その結果、調査区東側隅に粘土の地山層が見られ、これが西側に向かって徐々に切り取られて、そのあとにはシルト層や砂層、一部土壌化した層などが水平方向に堆積している状態が観察された（第７図・口絵２）。な

お、ほぼ等間隔に見られる４本の木材は裁判所庁舎建設の際、地盤を安定させるために穿たれた唐松の杭である。昭和 27 年に裁判所の旧庁舎を建てる際に直径 21㎝、長さ 8.5 m以上ある生の唐松杭を約１m間隔で千二百本ほど打ち込んだという記録が残っている。またこの唐松杭を打ち込む際には大きな金属の玉を重機で上から落として埋め込んでいったという工事を記憶しているという近所の方々の話も聞いている。

上述した遺物以外にこれより下層からの遺物の出土は確認されなかった。

３．Ⅰ区の遺物

地表下 50㎝ほどの茶褐色シルト上面で検出された遺物である。１～ 53 は炭化物片や漆喰片とともに出土した陶磁器片であるが、これらは一括廃棄されたものと考えられる。54 は調査区壁際より単独で出土した。これより下層からは遺物は全く確認されなかった。

４．Ⅱ区の遺構

地表下 40㎝で１面、同 60㎝で２面、同 80㎝で３面が確認されている。１面については安定した土層が確認されたため一度この高さで精査を行ったが、出土遺物も少なくそのほとんどが近代のものであった。

２面については茶褐色土の上面で精査を行った。ここからは溝４条が確認されている（第 13 図）。

２面の茶褐色土を取り去ったところで古墳時代後期の土器を主体として弥生時代末～古墳時代初頭、平安時代の土器を含む黒褐色土が堆積していた。この包含層の厚さはⅡ区中央で 20㎝ほどであったが、このⅡ区西側部分のコンクリート基礎下について立ち会い調査を行ったところ（第３図）、東トレンチではⅡ区と同様の遺物を含む黒褐色土の堆積が見られたものの、西トレンチでは茶褐色シルトの堆積が１mに及んでおり、遺物を含む黒褐色土は確認されなかった。これを東トレンチでの土層観察と合わせて考えると、東トレンチから西側、北側に向かうにつれてこの包含層は薄くなることも想定される。

３面については黒褐色土の中程から遺構が検出されているが、黒褐色土の掘り込み面に対して黒褐色土の覆土であるため判別しがたく、黒褐色土の面で何日か経過したところで周囲との質的な違いが見られたためその部分を掘り下げて、その結果竪穴状遺構という形になっている。３面からは竪穴状遺構４基、ピット４基が確認されている（第 15 図）。

５．Ⅱ区の遺物

１面・２面からは、明治時代・江戸時代の陶磁器類を中心に、下層の古墳・平安時代の土器もごくわずかに混ざった状態で発見された（１面：第 12 図）（２面：第 13 図）。第 13 図は２面における溝以外からの出土遺物の分布図であるが、この面での遺物の出土状況はほぼ調査区北半に限られている。３面では、陶磁器類の混在がわずかに認められるものの、弥生時代末～古墳時代・平安時代の土器が主体を占めており、この時期の土器がパックされている状態であった。破片資料が多いものの、ほぼ完形に復元できるものも含まれており、単なる遺物包含層とは言えない状況である。３面では、遺物は黒褐色土から全体的に出土しているが、竪穴状遺構の部分では特に出土量が多くまた、出土する破片が大きいという傾向が見られた。

２面の遺構

溝（遺構：第 13 図、遺物：第 14 図）

東西方向の溝が３条、南北方向の溝が１条確認された。いずれも長さは短く、溝１と溝２からは江戸時代の陶磁器類が出土している。

3 面の遺構

竪穴状遺構 1 （遺構：第 19 図、遺物：第 22 ～ 26 図）

東西 4.0 m、南北 4.7 mで南北方向に長い楕円形である。調査区の中央で検出された。ピット状の落ち込みが５基認められた。遺物としては、特に須恵器の破片の出土が集中していた。また、本竪穴状遺構からは、口縁部に刻み目のある台付甕（128）が出土している。これは口縁から肩部にかけての一部分を欠くのみで、ほぼ全体がうかがえる資料である。肩部にはススが付着し、煮炊きに使われていたことがわかる。

竪穴状遺構 2（遺構：第 20 図、遺物：第 27 ～ 28 図）

東西 4.0 m（残存する範囲）、南北 4.2 mで東側の一部がやや突出した形態である。調査区の西壁に接して検出され、西側半分は調査区外に延びておりすでに破壊されているものと思われる。ピット状の落ち込みが 6 基認められた。本竪穴状遺構には遺物が集中して見られた。中にはほぼ完形に復元できる胴部が球形の甕（177）も見られた。

竪穴状遺構 3・竪穴状遺構 4（遺構：第 21 図、遺物：第 29 ～ 30 図）

竪穴状遺構３は東西 3.5 m、南北 2.2 mの、竪穴状遺構４は東西 3.0 m、南北 2.5 mの、ともにやや楕円形と推定される形態をもつ。調査区東壁に沿って２つ接した形で検出された。便宜的に２つの遺構名を付けたが、出土遺物に特に時期差はなく、検出状況からも１つの落ち込みと考えても差し支えない状況である。竪穴状遺構３には焼土が集中してみられた。

ピット（遺構：第 16 図、遺物：第 36 図）

調査区北側でピットが４基ほど集中して見られた。このうちピット４の底面には、火を受けた痕跡のある、角閃石を多く含んだ石がひとつ置かれていた（第 36 図－ 384）。また底面には小ピットもひとつ見られた。

第４節　立会い調査

調査終了後、Ⅱ区の調査結果から、遺物を含む包含層がⅡ区の西側へ延びることが想定されたため、この部分の基礎撤去完了後に立会い調査を行なった。またⅠ区についても「二の堀」跡かどうかの確認をするため、Ⅰ区南側に接する基礎撤去の日程に合わせてこの部分の立会い調査を実施した。

その後、旧庁舎の基礎が全て撤去され新しい基礎を組む段階になって、井戸が 1 基発見されたため、この井戸についても立会い調査を実施した。

１．Ⅱ区西側部分の立会い調査

平成 19 年 1 月 22 日～ 24 日にかけて実施した。この部分には裁判所の証拠品庫のコンクリート基礎が張られていたが、発掘調査の結果、調査区西壁の土層状況からこの基礎の下にも包含層が遺存していることが想定されたため、コンクリート基礎撤去後に立会い調査を実施した。基礎を撤去したところ、この周辺に汚水槽が設置されていたことが判明し、包含層の全体的な残りはよくないと判断されたため、比較的土地が荒らされていない箇所を選んで２箇所のトレンチを設定し、手掘りで調査を実施した（第 37 図・写真図版 11）。

「西トレンチ」については１mほど掘り下げても明茶褐色シルト層が続くのみで、Ⅱ区で見られたような遺物包含層は全く確認されなかった。「東トレンチ」では 20 ～ 30㎝ほど掘り下げたところで、Ⅱ区で見られた、古墳時代～平安時代の遺物を含む黒褐色土が確認され、炭化物や焼土粒とともに古墳時代後期の坏や甕の破片などが出土した。これらの土器は摩滅しておらず、またこれらを包含する土についても、Ⅱ区のものに比べて炭化物や焼土粒が多く含まれていたことが特筆される。

このように「東トレンチ」からは良好な状態で遺物が出土するにもかかわらず、ほんの１ｍ50㎝ほど離れた「西トレンチ」では、包含層すら確認できなかった訳であるが、「東トレンチ」の壁の土層を見てみると、北側に向かうにつれて、黒褐色の包含層が薄くなっていく様子が確認された。また、裁判所敷地内の試掘調査の際にはこの包含層は確認されていない。これらを考え合わせるとⅡ区より北方向と西方向に向かうにつれて、黒褐色の包含層は薄くなっていくことも考えられる。

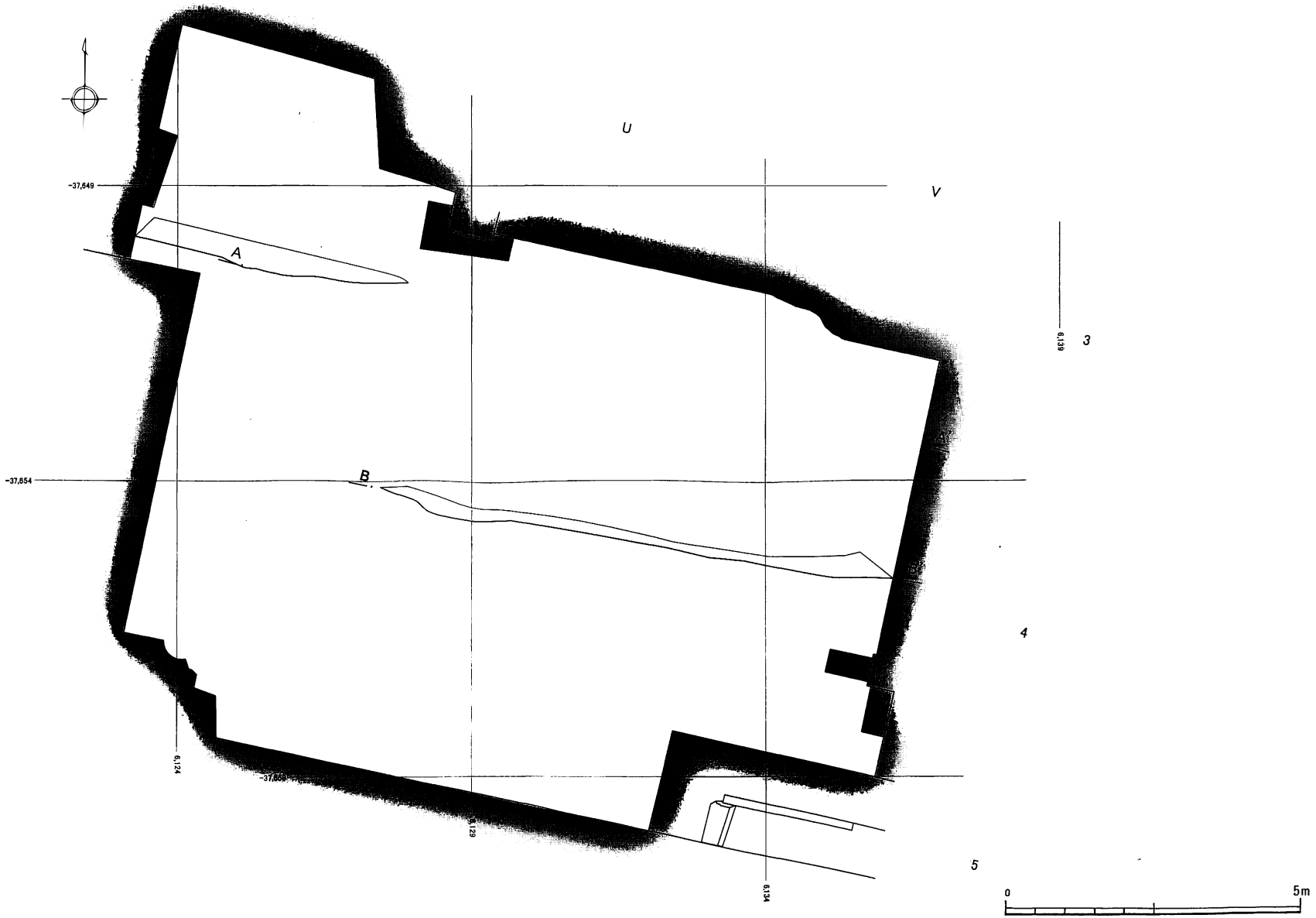
２．Ⅰ区南側部分の立会い調査

平成 19 年 2 月 27 日に実施した。Ⅰ区では「二の堀」跡の可能性もある土層が見つかっているが、より西側（平和通り側）の土層を確認する目的で、調査区南西側に接する基礎撤去後にこの部分の土層についての立会い調査を実施した。

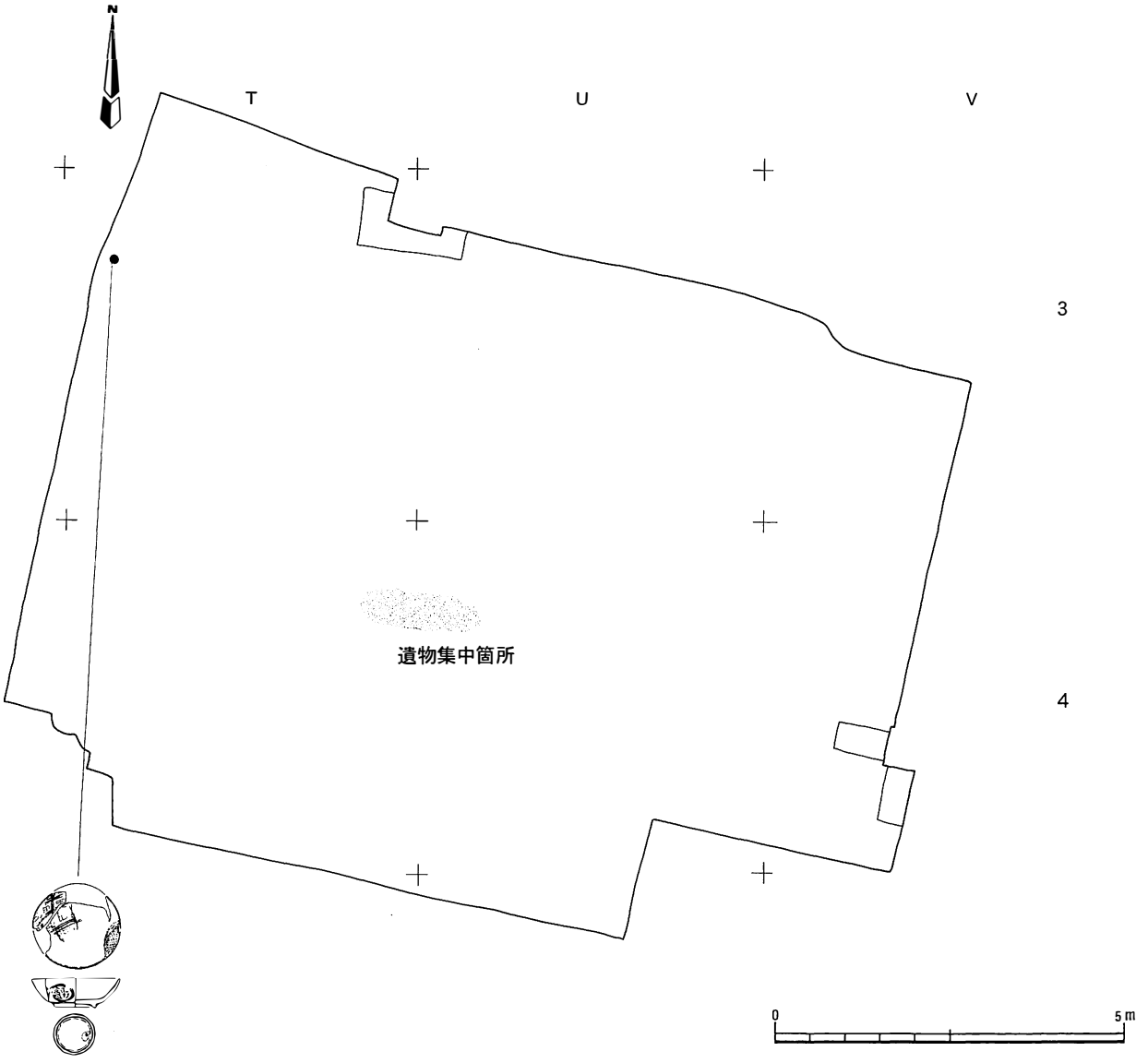
その結果、Ⅰ区で見られたような明確な水平堆積は見られなかった。また上面の茶褐色シルト層はⅠ区と同質であるもののそれより下の層については、Ⅰ区に対応するような土層は確認されなかった。

３．井戸の立会い調査

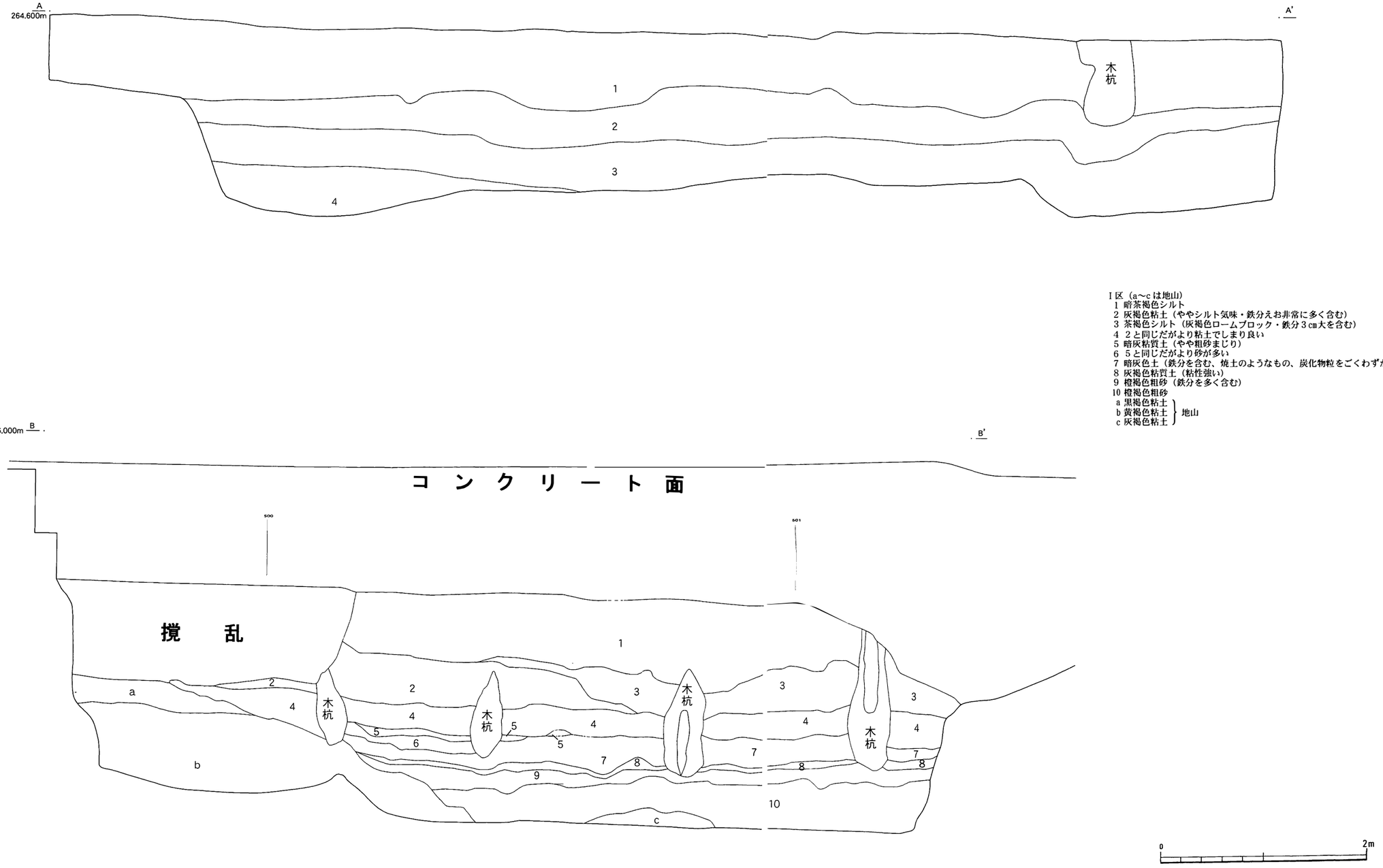
平成 19 年 6 月 8 日に実施した。井戸の木枠は底の１段のみが残っている状態で発見された。円形の木枠で直径 50㎝ほどである。底は水が溜まっているため確認できなかったが、砂礫層であることが想定される。井戸底の標高はおよそ 262.8 ｍである。遺物は確認できなかったため、時期は不明であるが、井戸枠の直径が小さいことから、明治時代以降の井戸である可能性もある。



第５図　Ｉ区　全体図、土層セクションポイント位置図

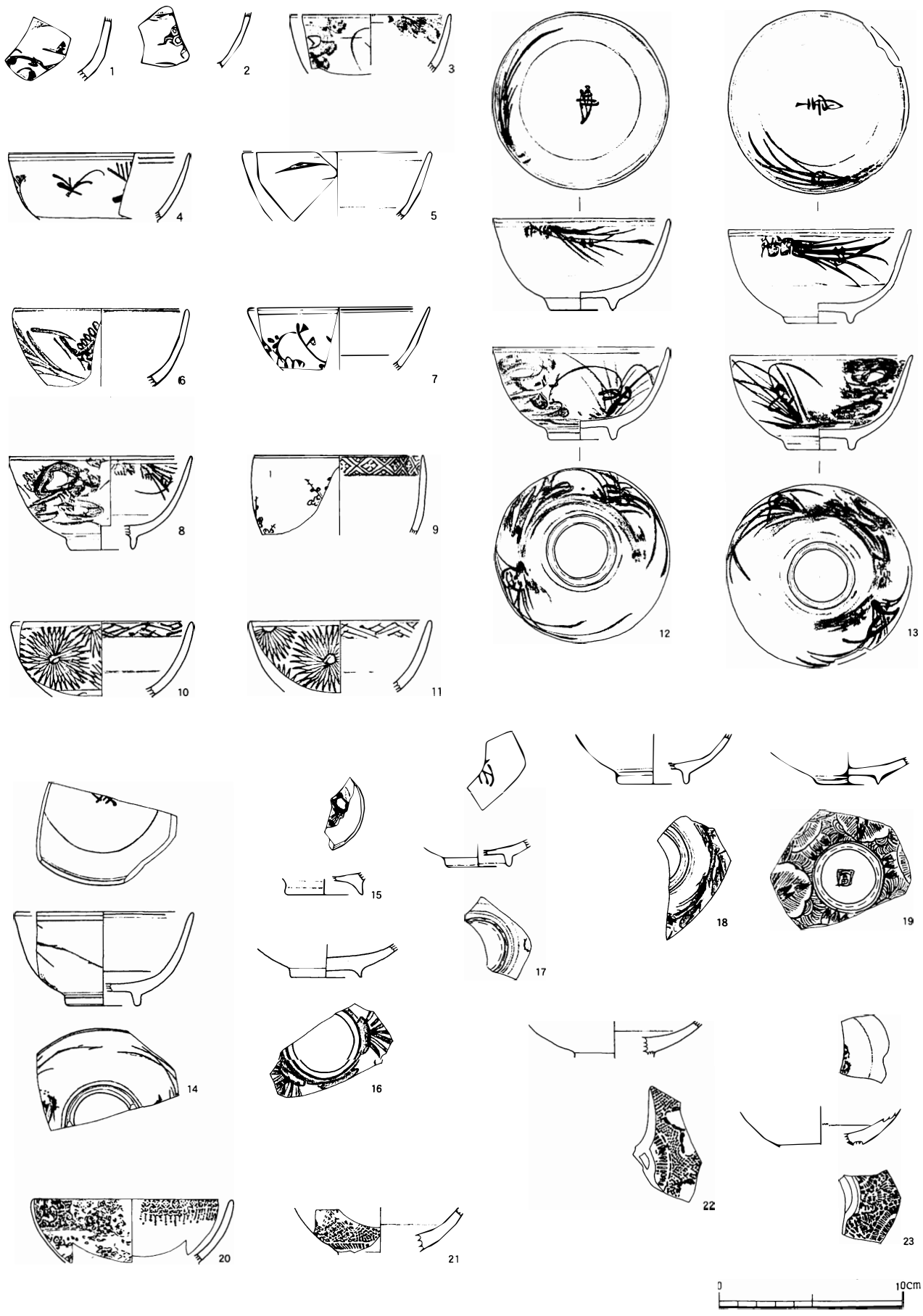


第６図　Ⅰ区　遺物出土位置図

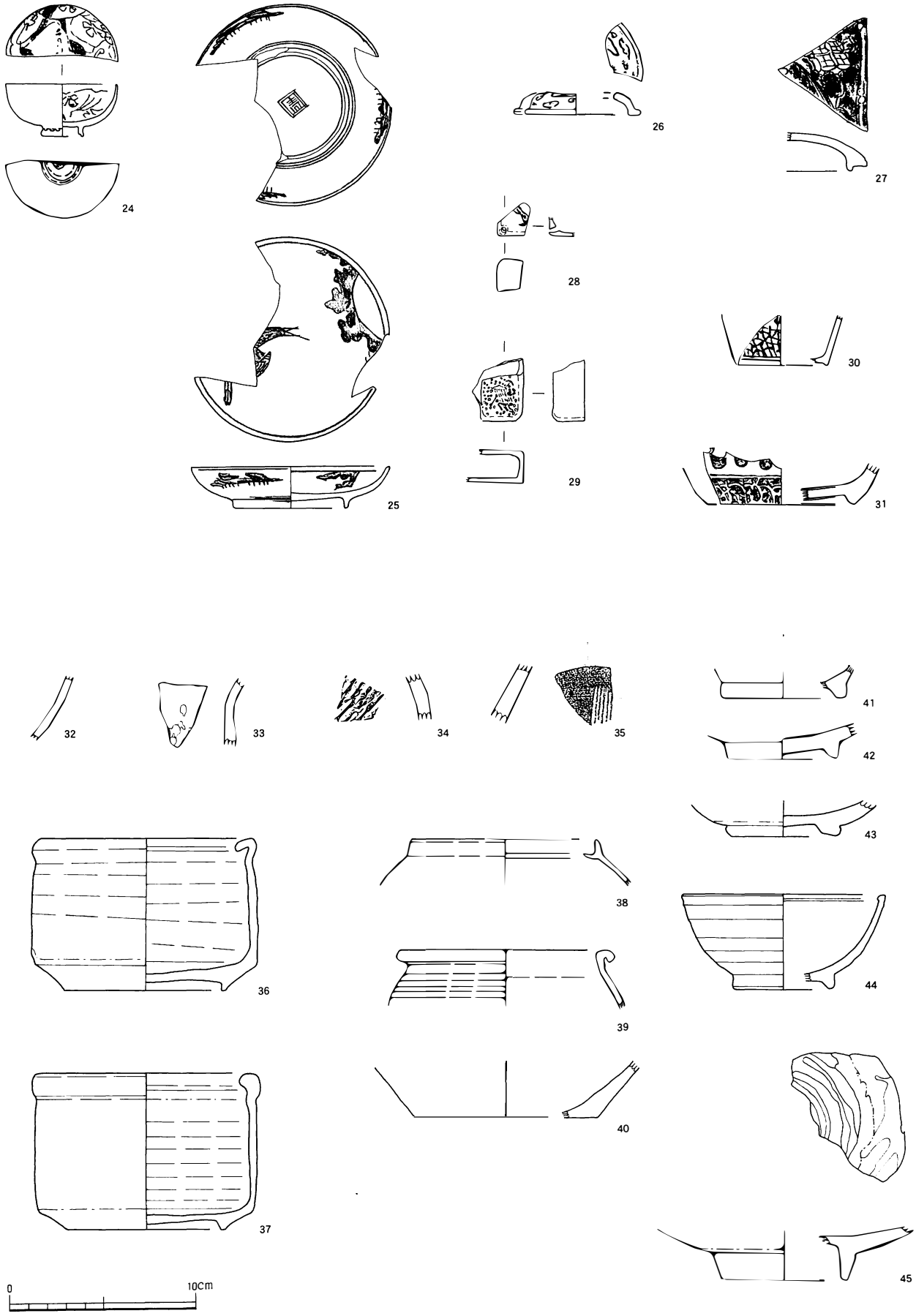


Ⅰ区（a～cは地山）
1 暗茶褐色シルト
2 灰褐色粘土（ややシルト気味・鉄分えお非常に多く含む）
3 茶褐色シルト（灰褐色ロームブロック・鉄分３㎝大を含む）
4 ２と同じだがより粘土でしまり良い
5 暗灰粘質土（やや粗砂まじり）
6 ５と同じだがより砂が多い
7 暗灰色土（鉄分を含む、焼土のようなもの、炭化物粒をごくわずかに含む）
8 灰褐色粘質土（粘性強い）
9 橙褐色粗砂（鉄分を多く含む）
10 橙褐色粗砂
a 黒褐色粘土
b 黄褐色粘土
c 灰褐色粘土
} 地山

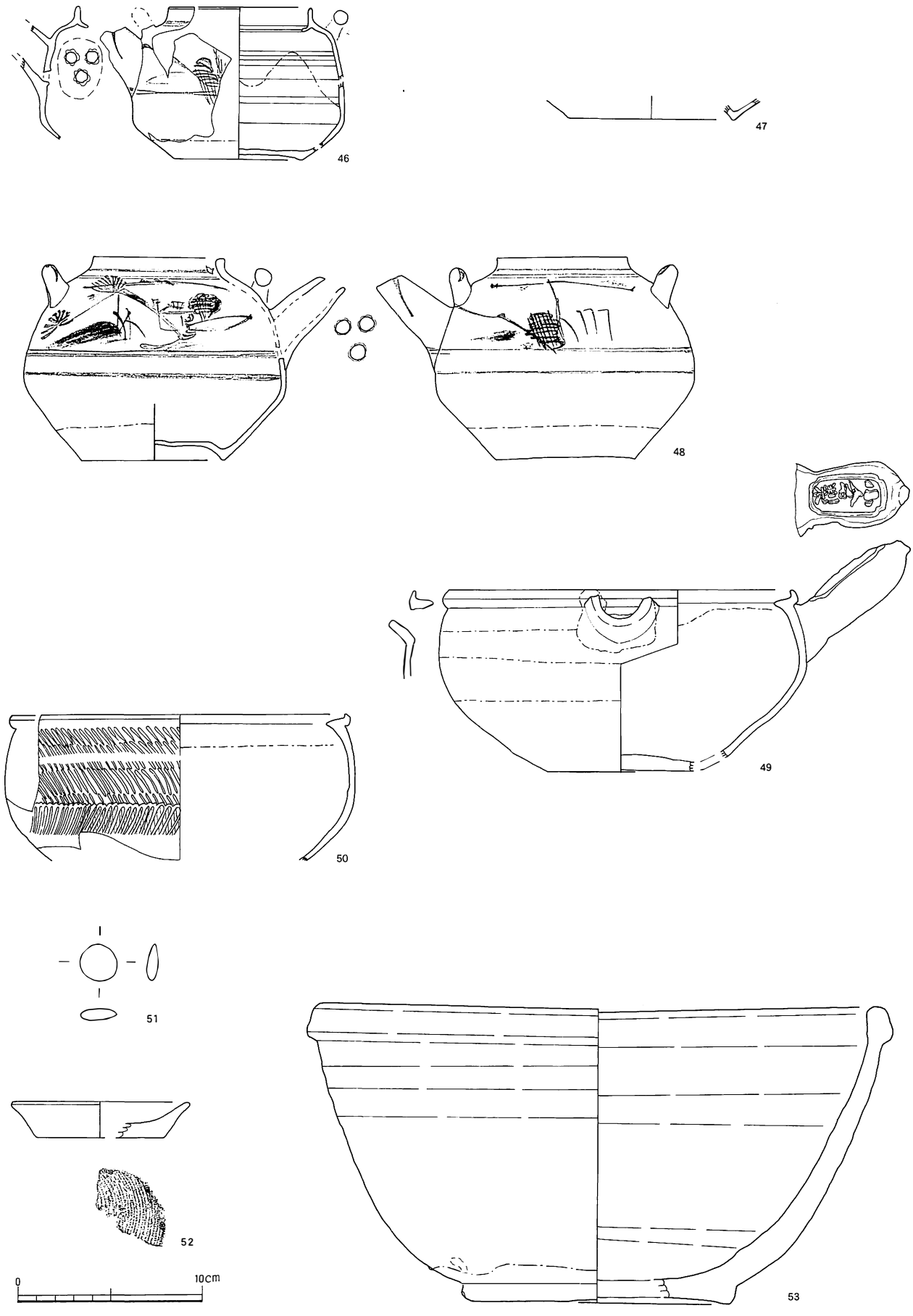
第７図　Ⅰ区　土層図



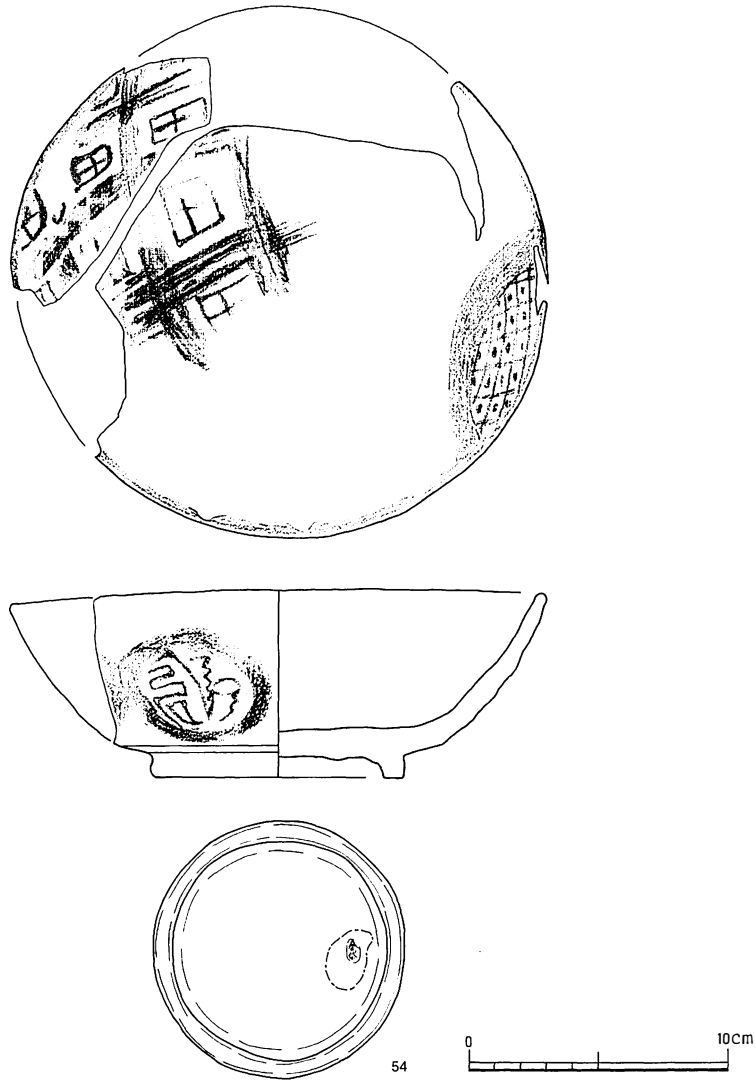
第８図　Ⅰ区　出土遺物（１）：遺物集中箇所



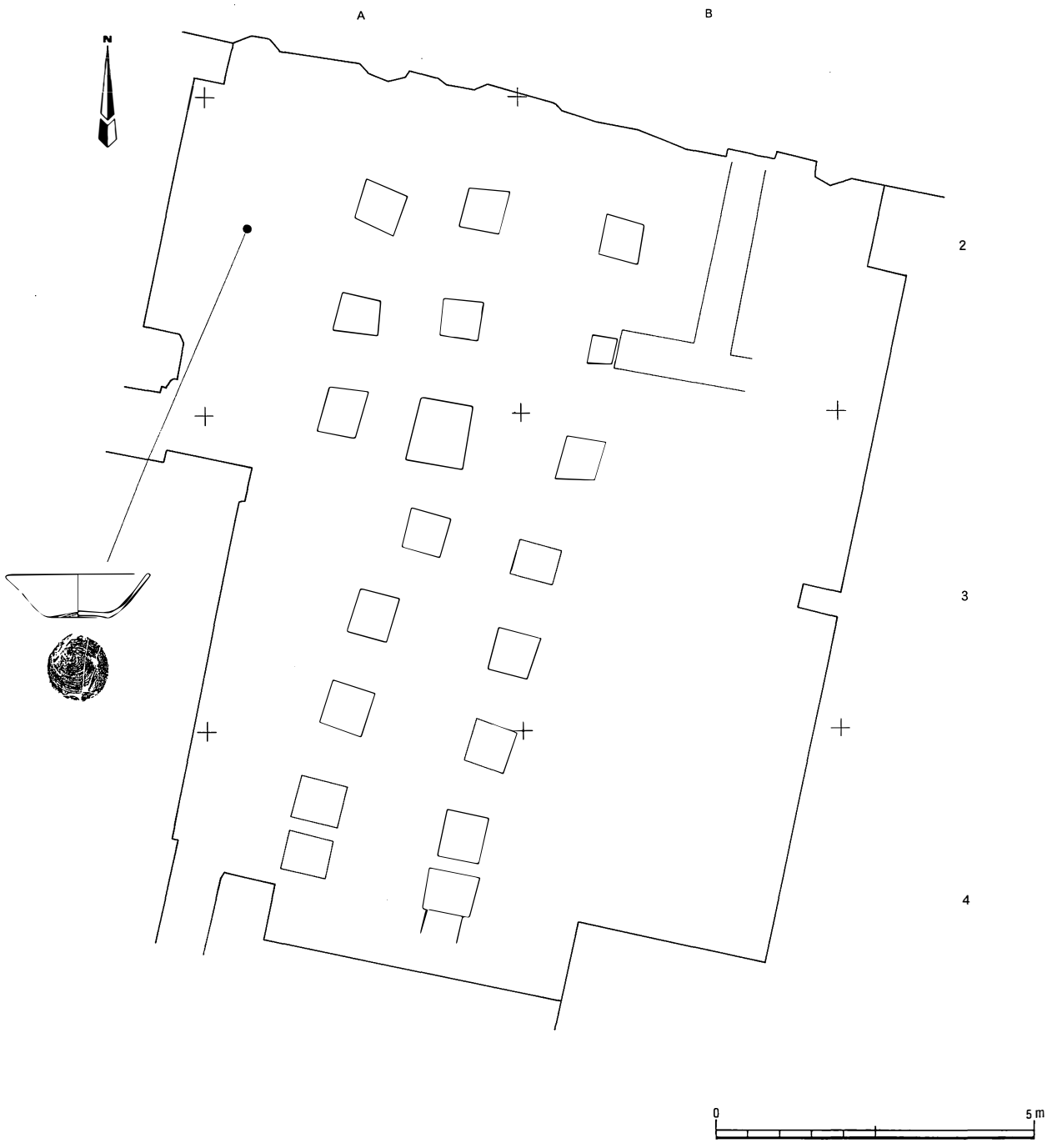
第９図　Ⅰ区　出土遺物（２）：遺物集中箇所



第10図　Ⅰ区　出土遺物（3）：遺物集中区

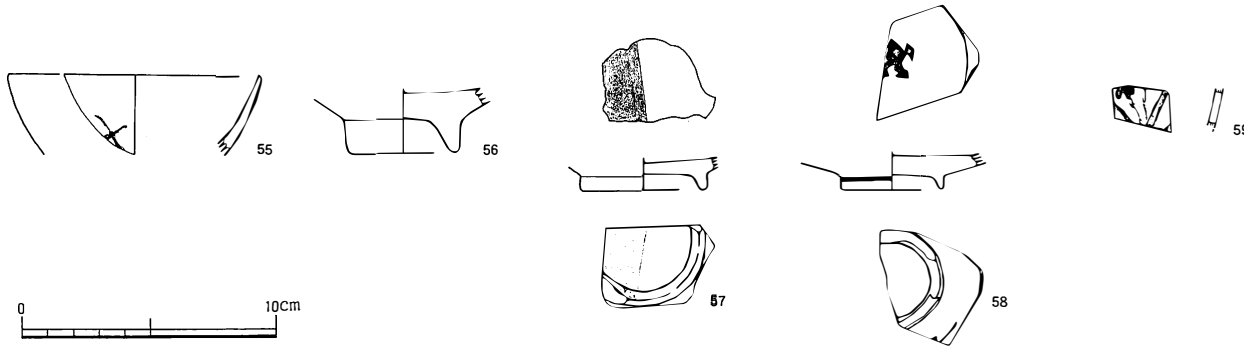


第11図　Ⅰ区　出土遺物（4）

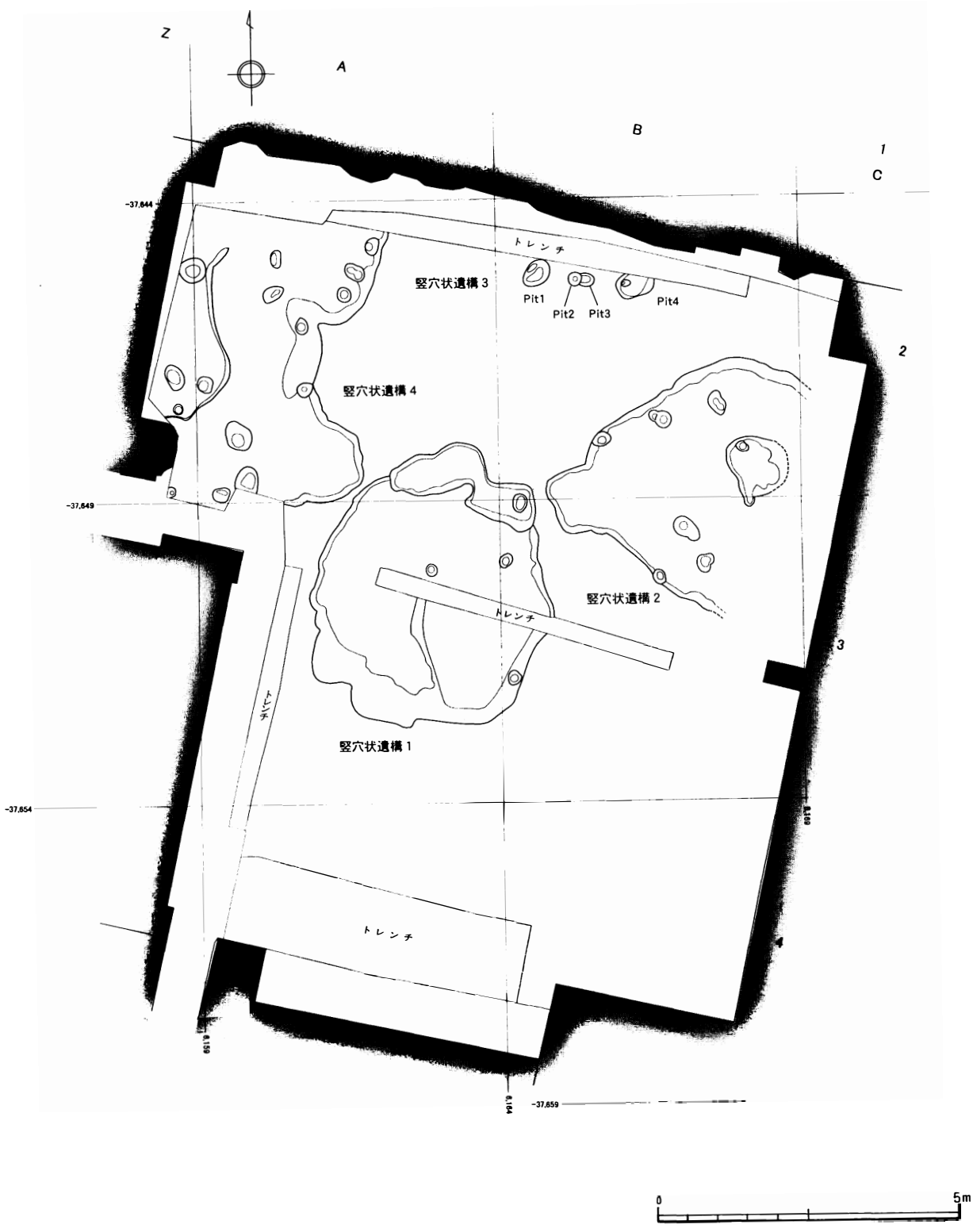


第12図　Ⅱ区　1面　全体図

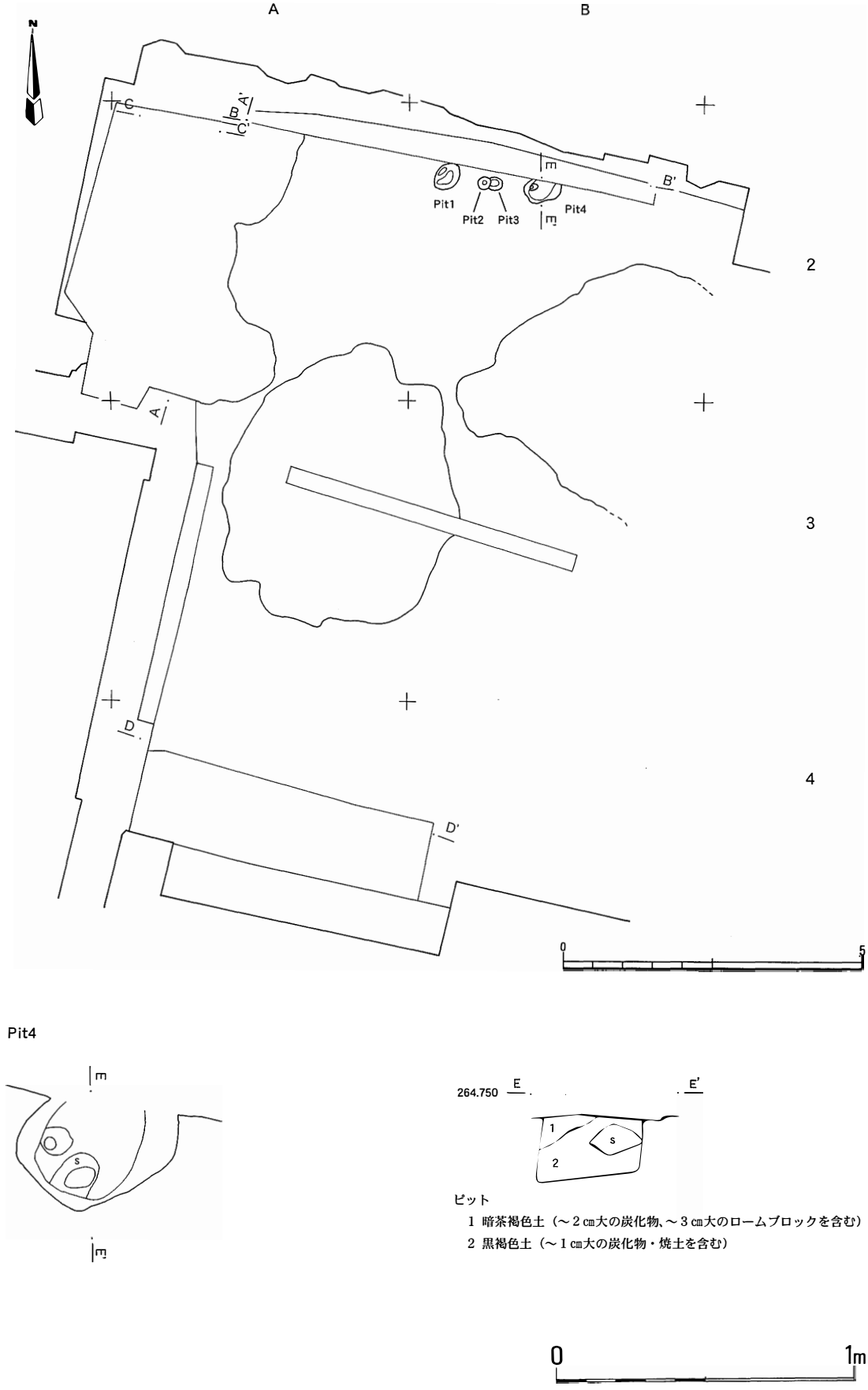
第13図　Ⅱ区　2面　全体図、遺物出土状況図



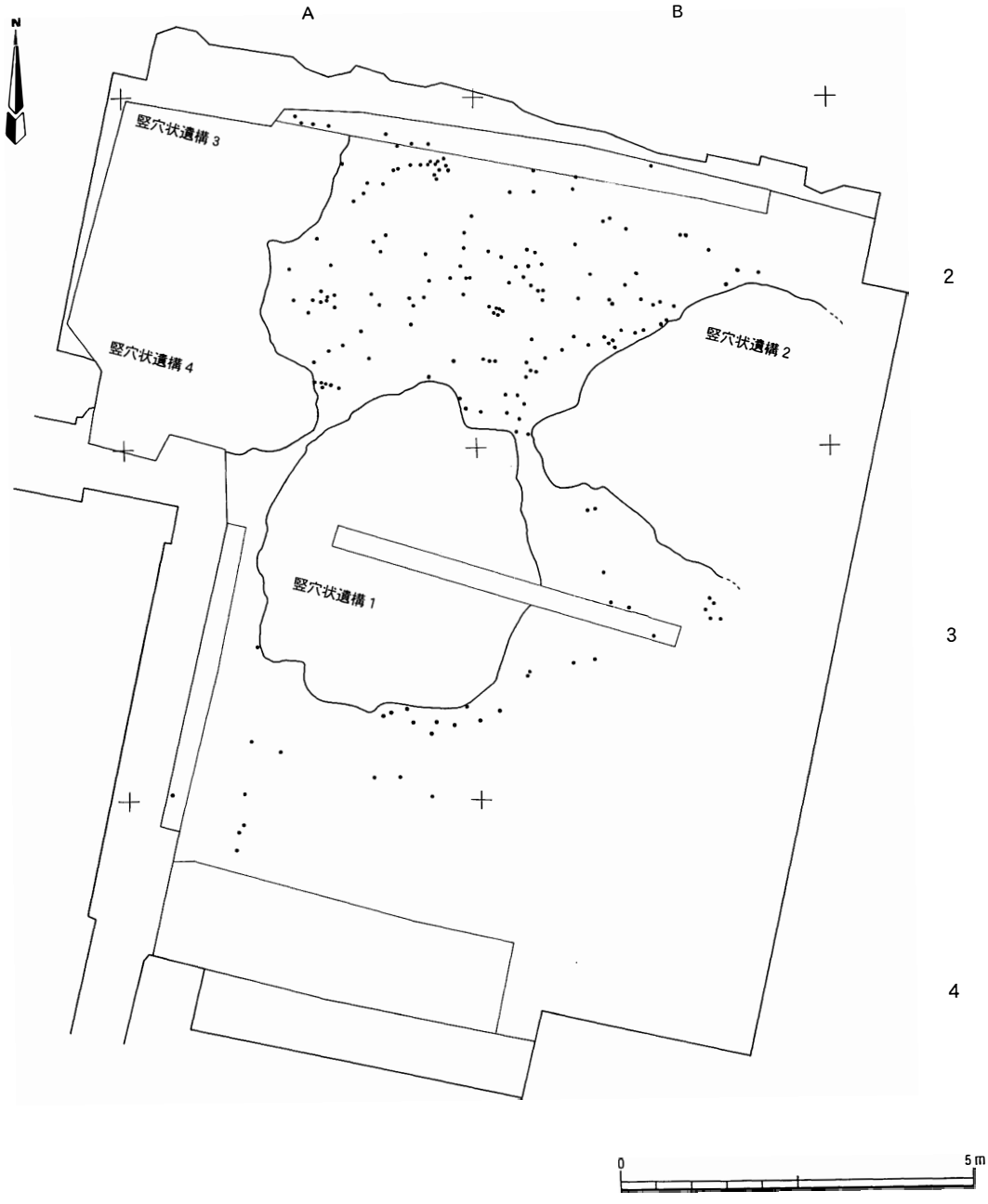
第14図　Ⅱ区　2面　溝　出土遺物（55~58　溝1、59　溝2）



第15図　Ⅱ区　3面　全体図

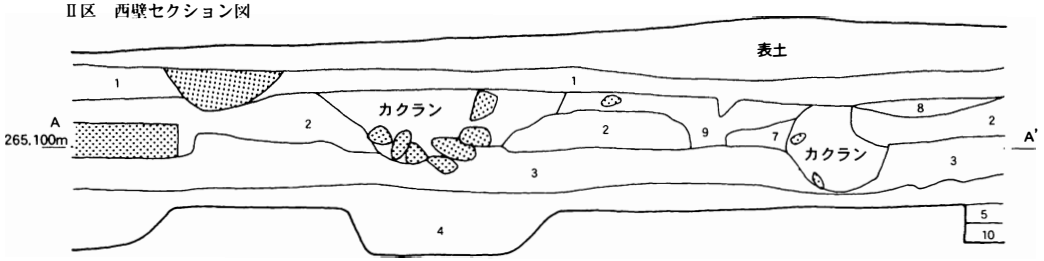


第16図　Ⅱ区　3面　ピット位置図・セクション図、セクションポイント位置図



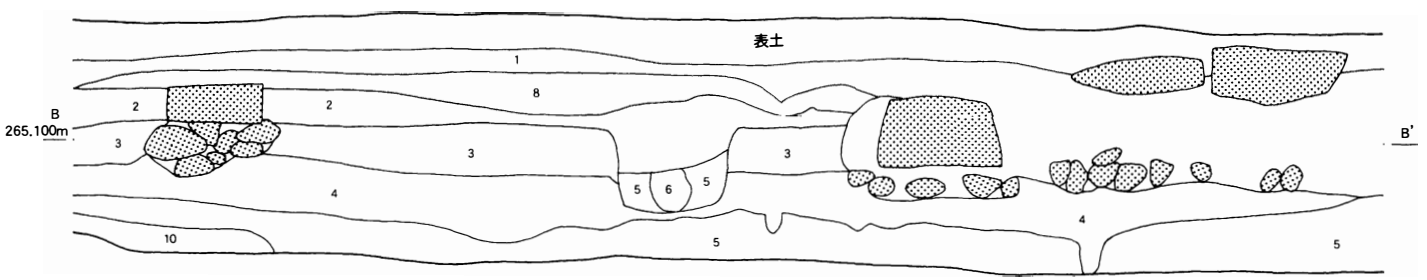
第 17 図　Ⅱ区　3 面　遺構外遺物出土状況図

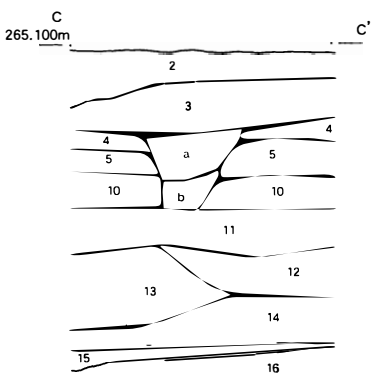
Ⅱ区　西壁セクション図



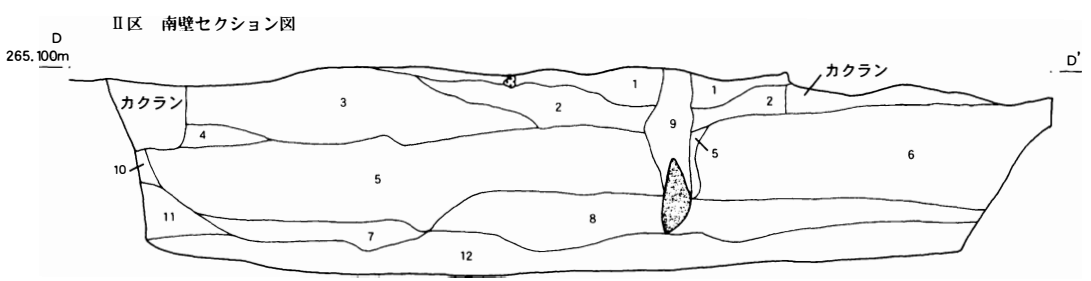
Ⅱ区基本土層
1 暗茶褐色土（3㎝大程度の小礫を少量含む）
2 黄褐色シルト（橙褐色シルトブロックを少量、5～10㎝大の礫を少量含む）
3 茶褐色土（ややシルト気味、焼土・炭化物粒を少量含む）←2面
4 黒褐色土（やや砂質気味、焼土・炭化物粒を少量含む）　←3面
5 橙褐色土（粗砂質を多く含む）
6 褐色シルト（橙褐色土粒をわずかに含む）
7 青灰褐色シルト（木質部・鉄分を含む）
8 暗茶褐色土（黄褐色土ブロックを含む）
9 暗褐色土（ややシルト混じり）
10 灰褐色シルト（ロームブロックを多く含む）
11 黒褐色粘質土（5㎜程度の砂・橙褐色粒・焼土粒・炭化物粒をごくわずかに含む）
12 橙褐色粘質土（粗砂を多く含む）
13 橙褐色粘質土（粗砂を少量含む）
14 暗褐色粘質土（橙褐色土粒を多く含む）
15 暗褐色粘質土（橙褐色土粒を非常に多く含む）
16 黒褐色土（しまり良い）
a 黒褐色土（微細な炭化物粒・焼土粒を含む）
b 暗茶褐色土（～1㎝大の炭化物、～3㎝大のロームブロックを含む）
※ 図中のスクリーントーンは石またはコンクリート

Ⅱ区　北壁セクション図

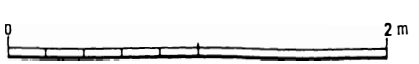




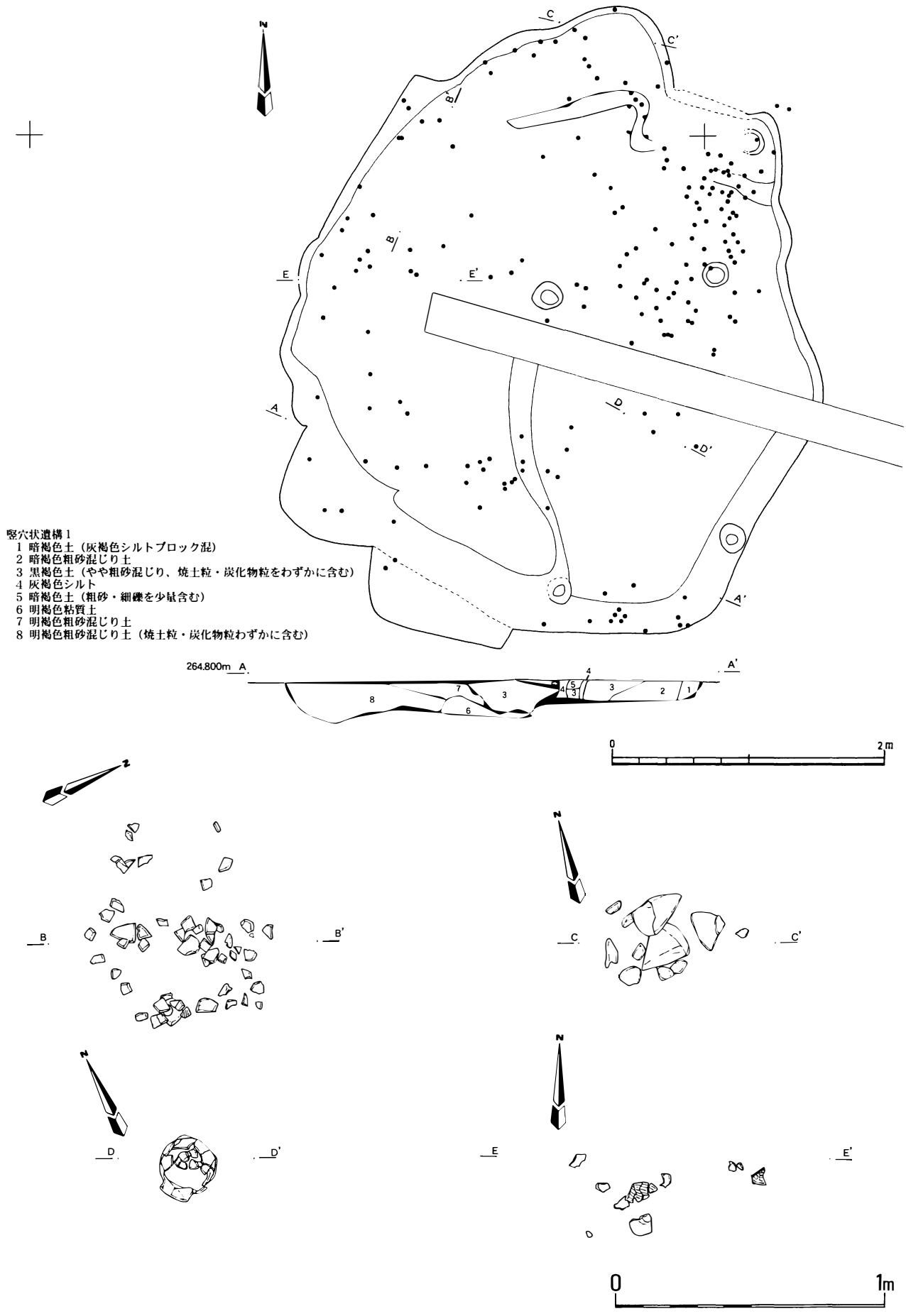
Ⅱ区　南壁セクション図



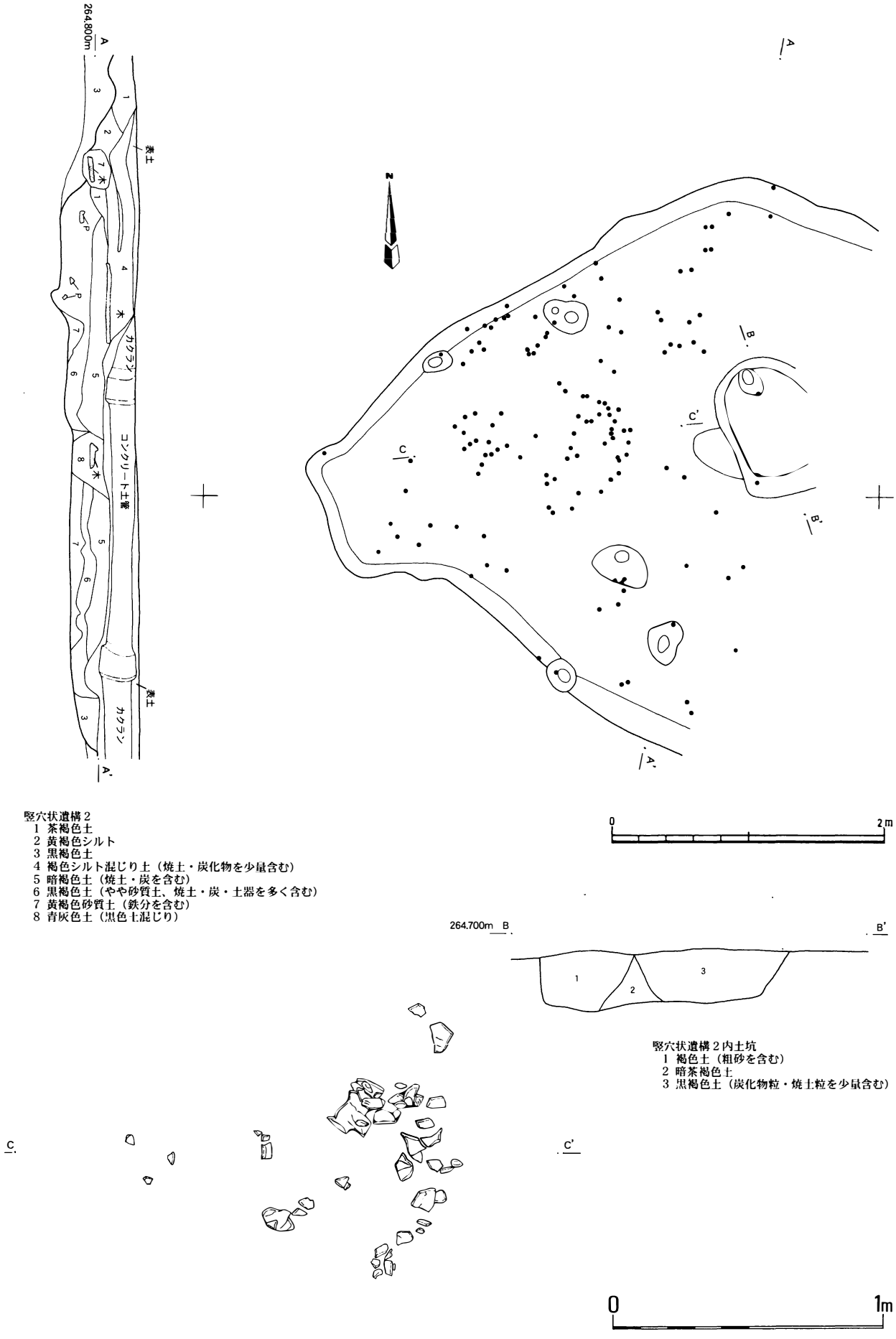
Ⅱ区南トレンチ
1 茶褐色シルト（赤褐色酸化粒を多く含む）
2 暗灰褐色シルト（～0.5㎜ 大の炭化物・赤褐色酸化粒を少量含む）
3 暗褐色シルト（赤褐色酸化粒をやや多く含む）
4 暗褐色シルト（赤褐色酸化粒をやや多く、1㎝大の細礫を少量含む）
5 黒褐色砂礫混じり土（赤褐色酸化粒を少量含む）
6 青灰褐色やや砂礫混じり土（橙褐色粗粒を含む）
7 青灰色砂
8 青灰色砂（橙褐色粗砂を含む）
9 黒褐色粘質土（上層で鉄分を多く含む）
10 青灰色粘質土
11 青灰色粘質土（しまり良）
12 暗青灰色粘質土（しまり非常に良）
※ 図中のスクリーントーンは旧庁舎建設時に穿たれた木杭



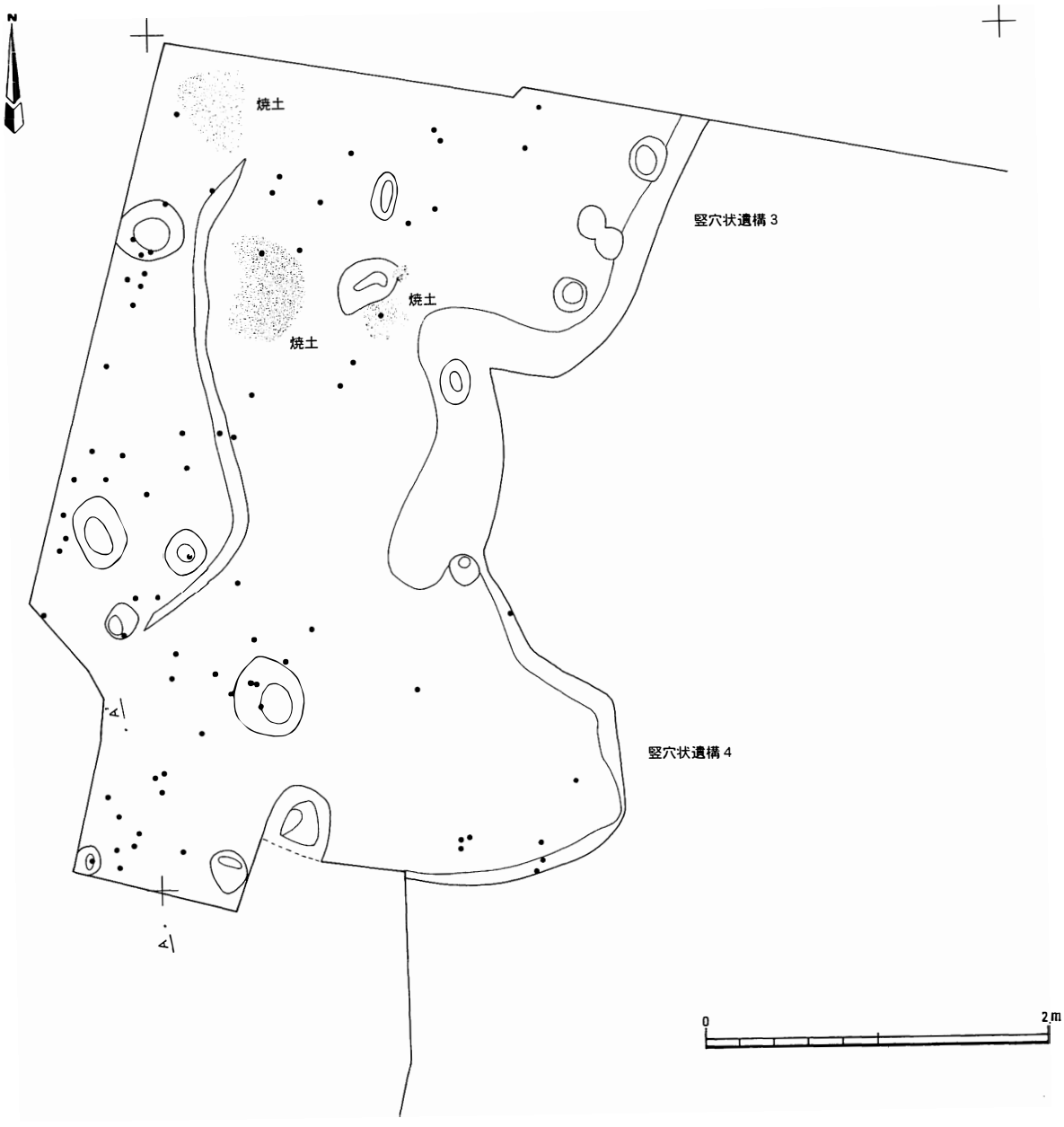
第18図　Ⅱ区　調査区壁　土層図

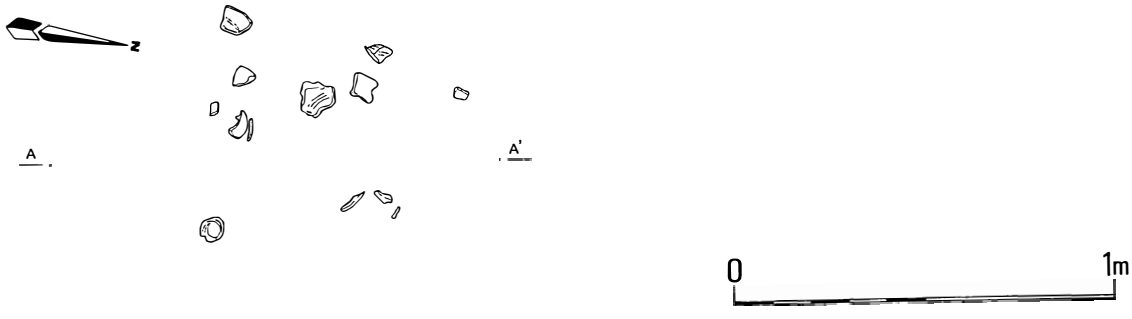


第19図　竪穴状遺構1　全体図、遺物出土状況図・セクション図

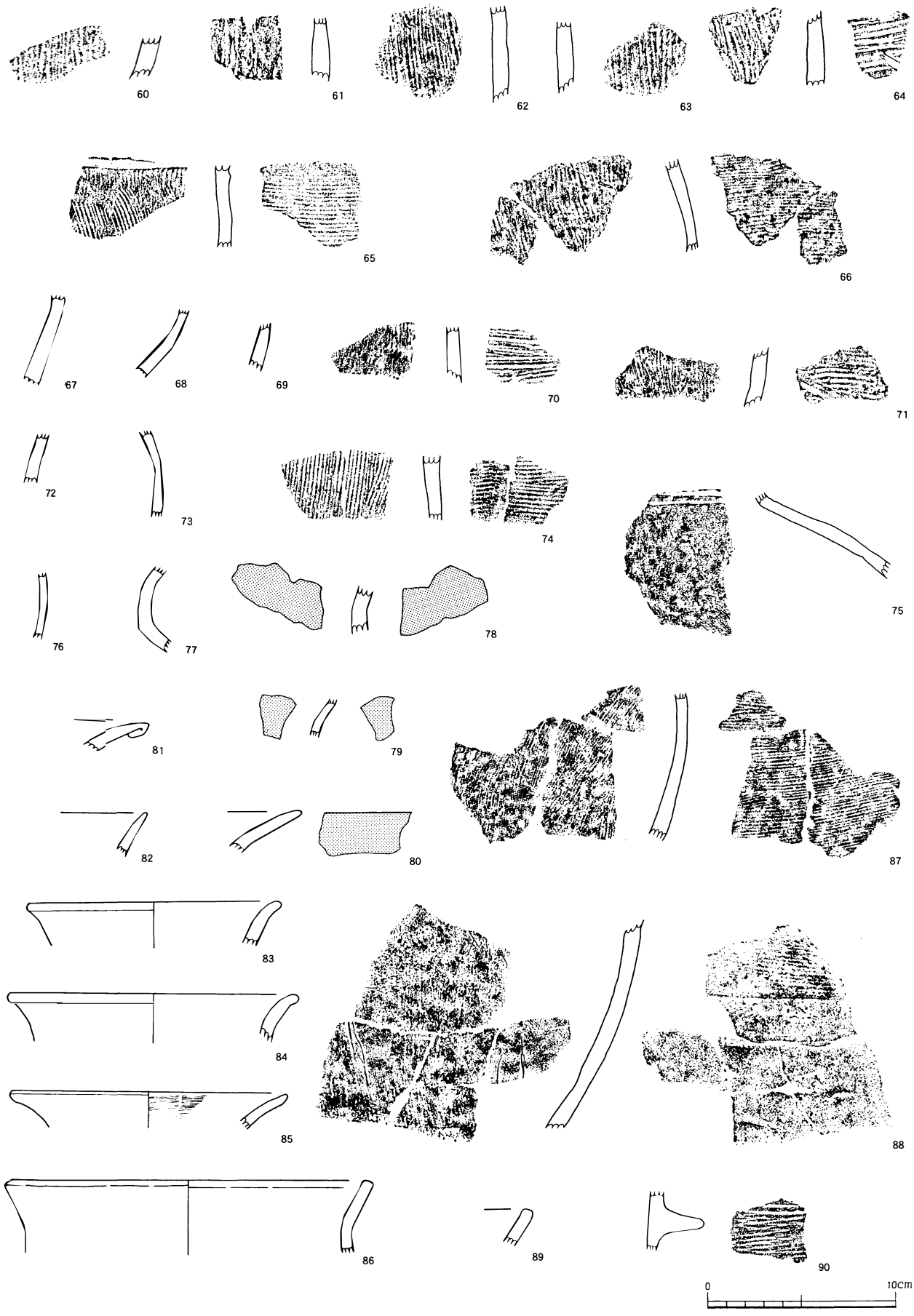


第 20 図　竪穴状遺構２　全体図、遺物出土状況図・セクション図

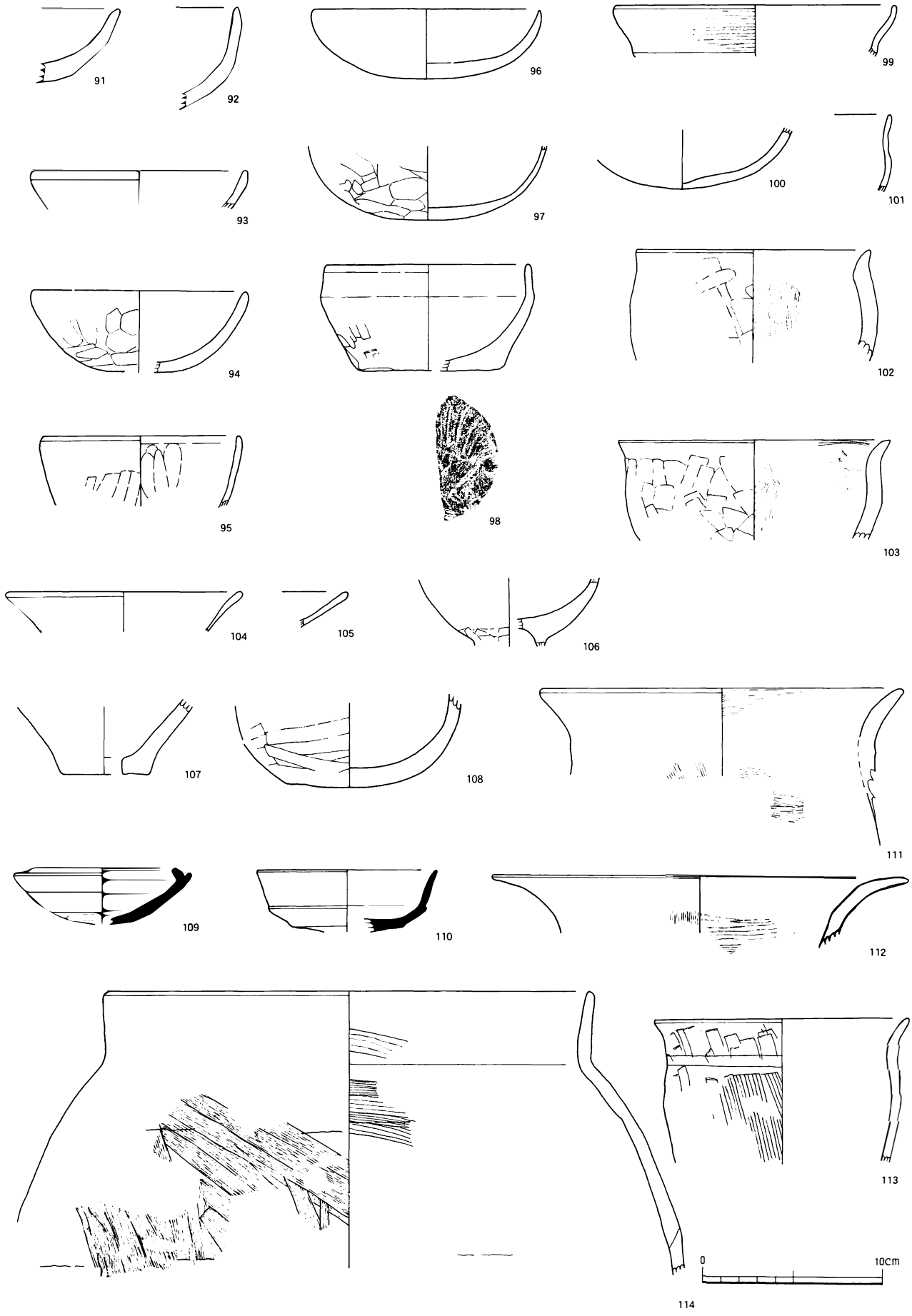




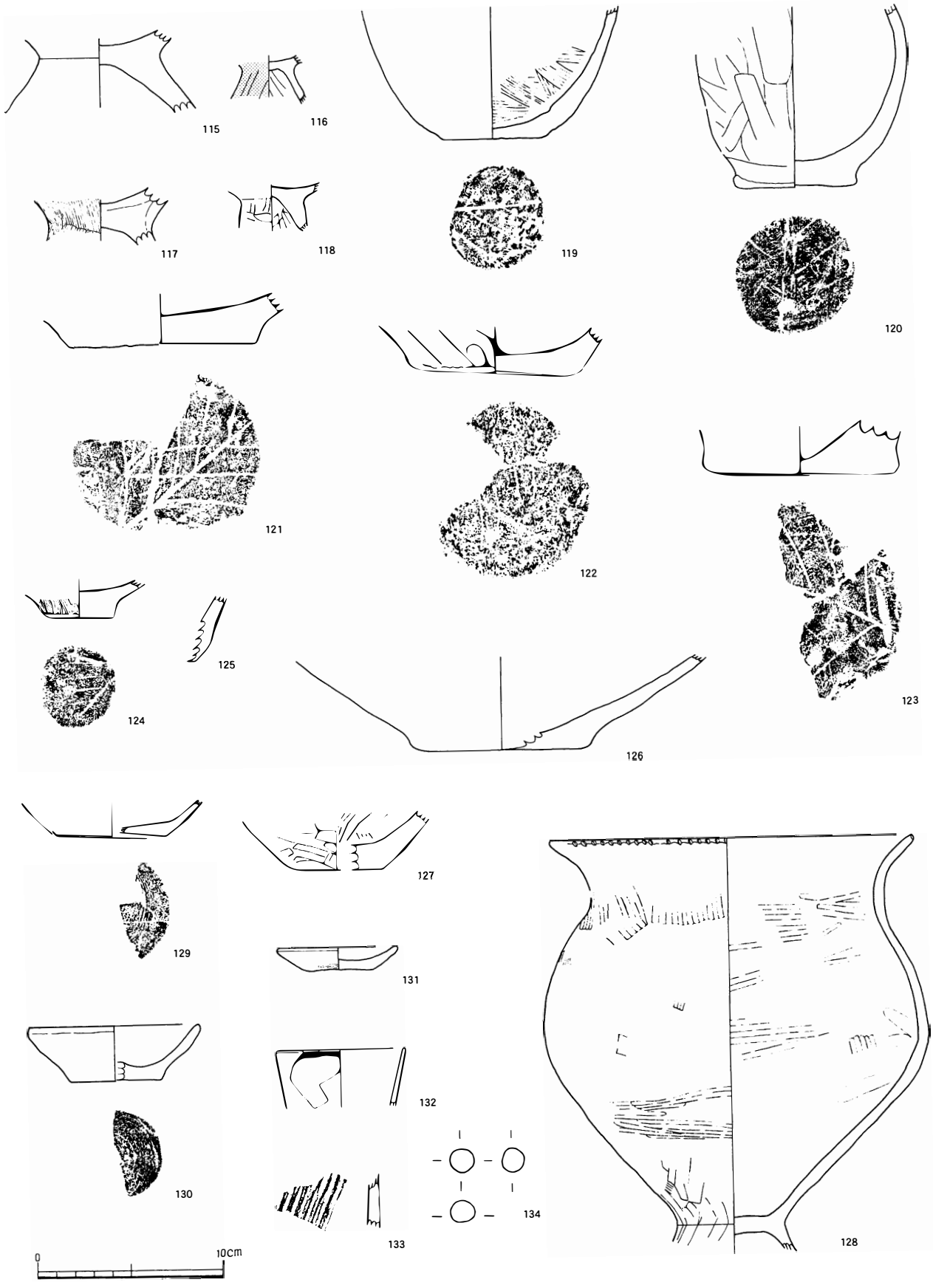
第 21 図　竪穴状遺構 3・4　全体図、遺物出土状況図



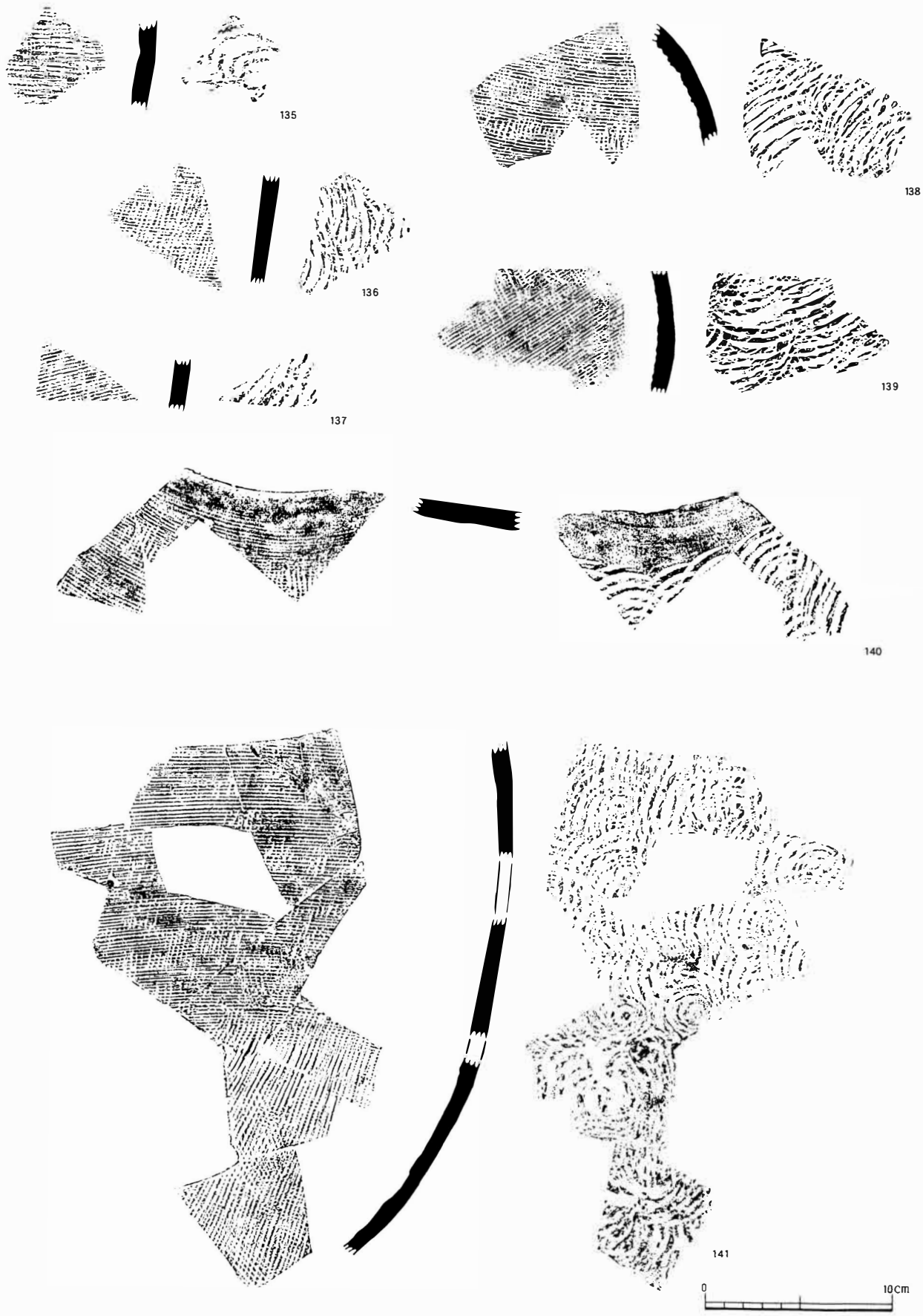
第22図　竪穴状遺構1　出土遺物（1）



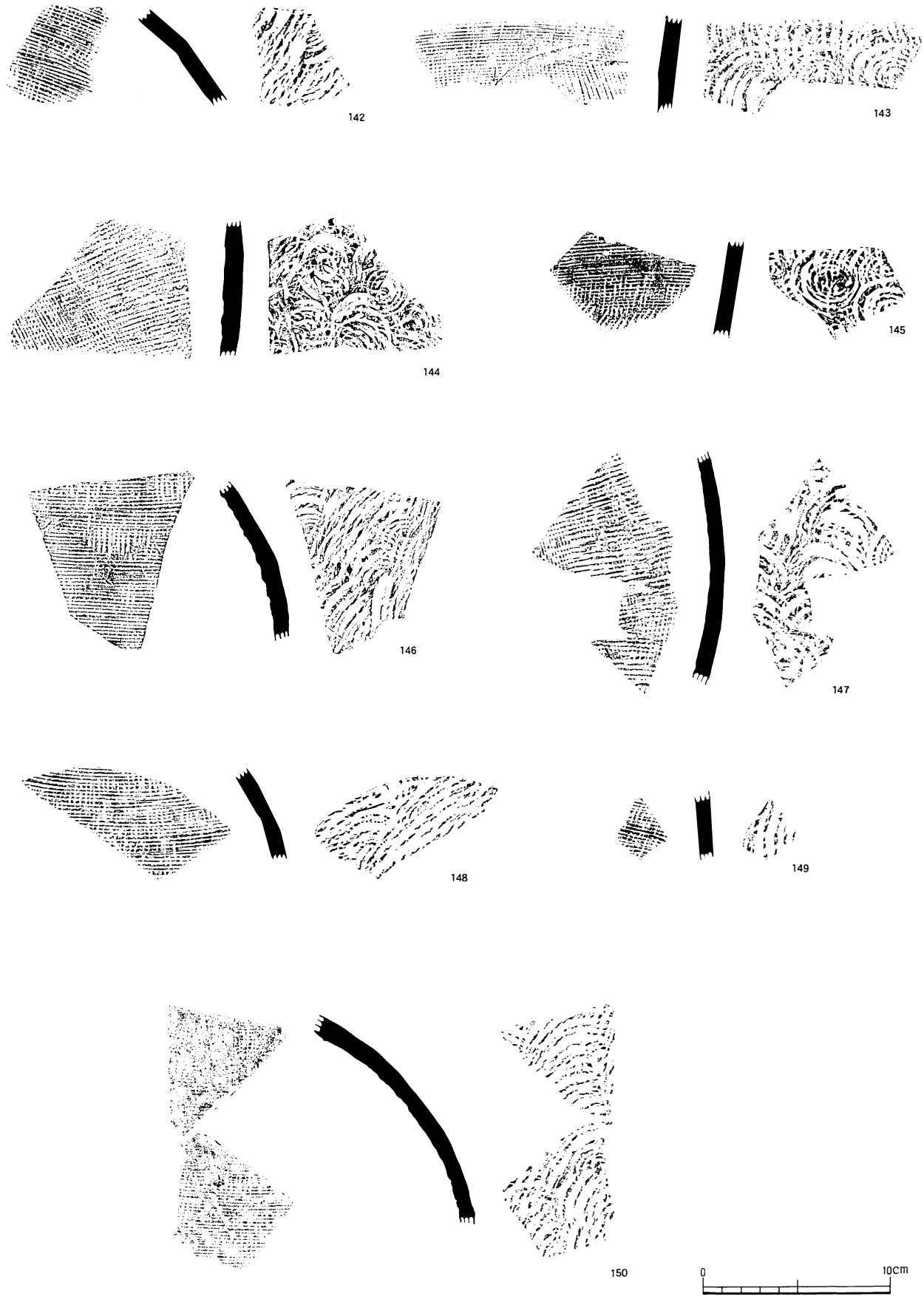
第23図　竪穴状遺構1　出土遺物（2）



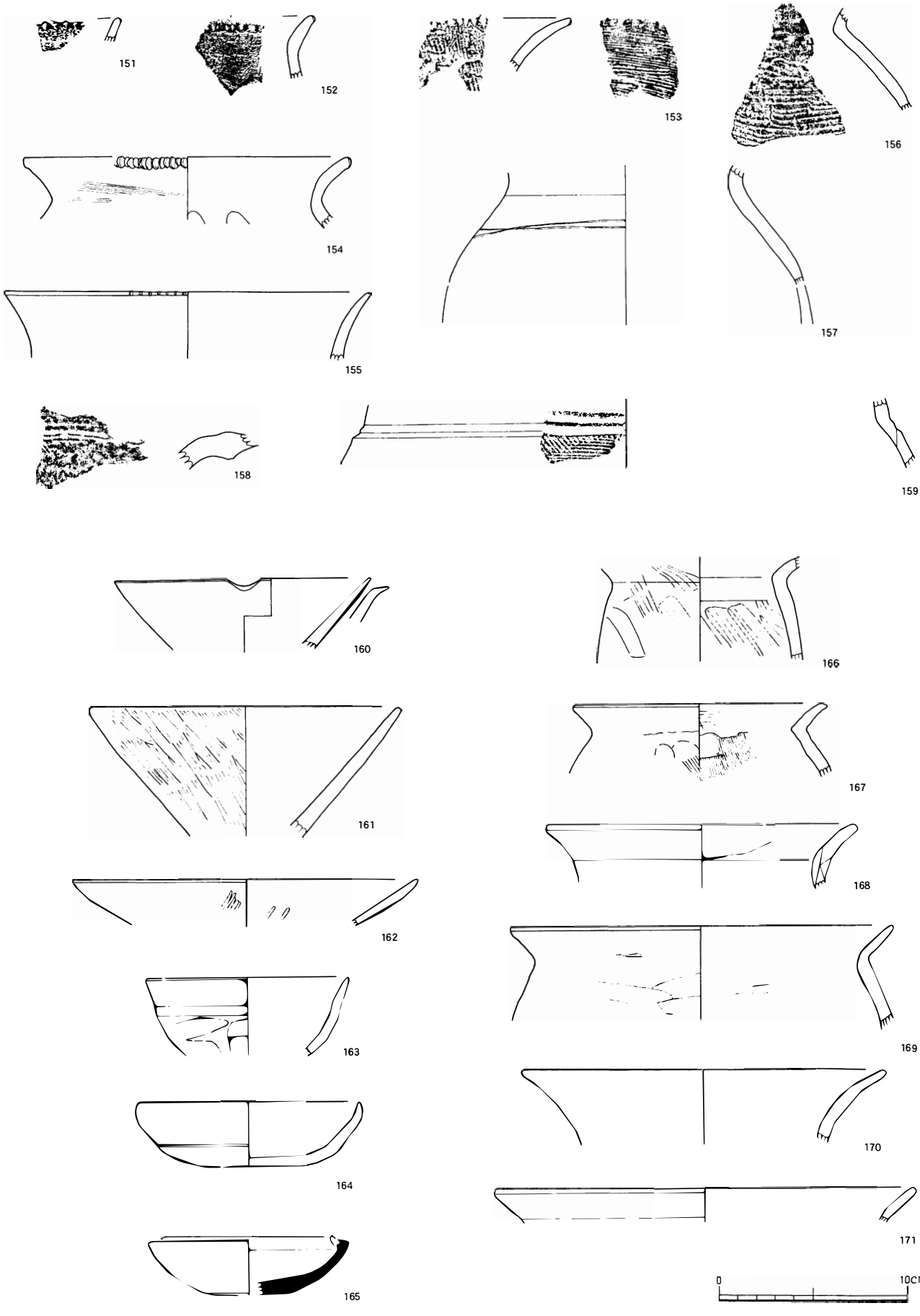
第24図　竪穴状遺構1　出土遺物（3）



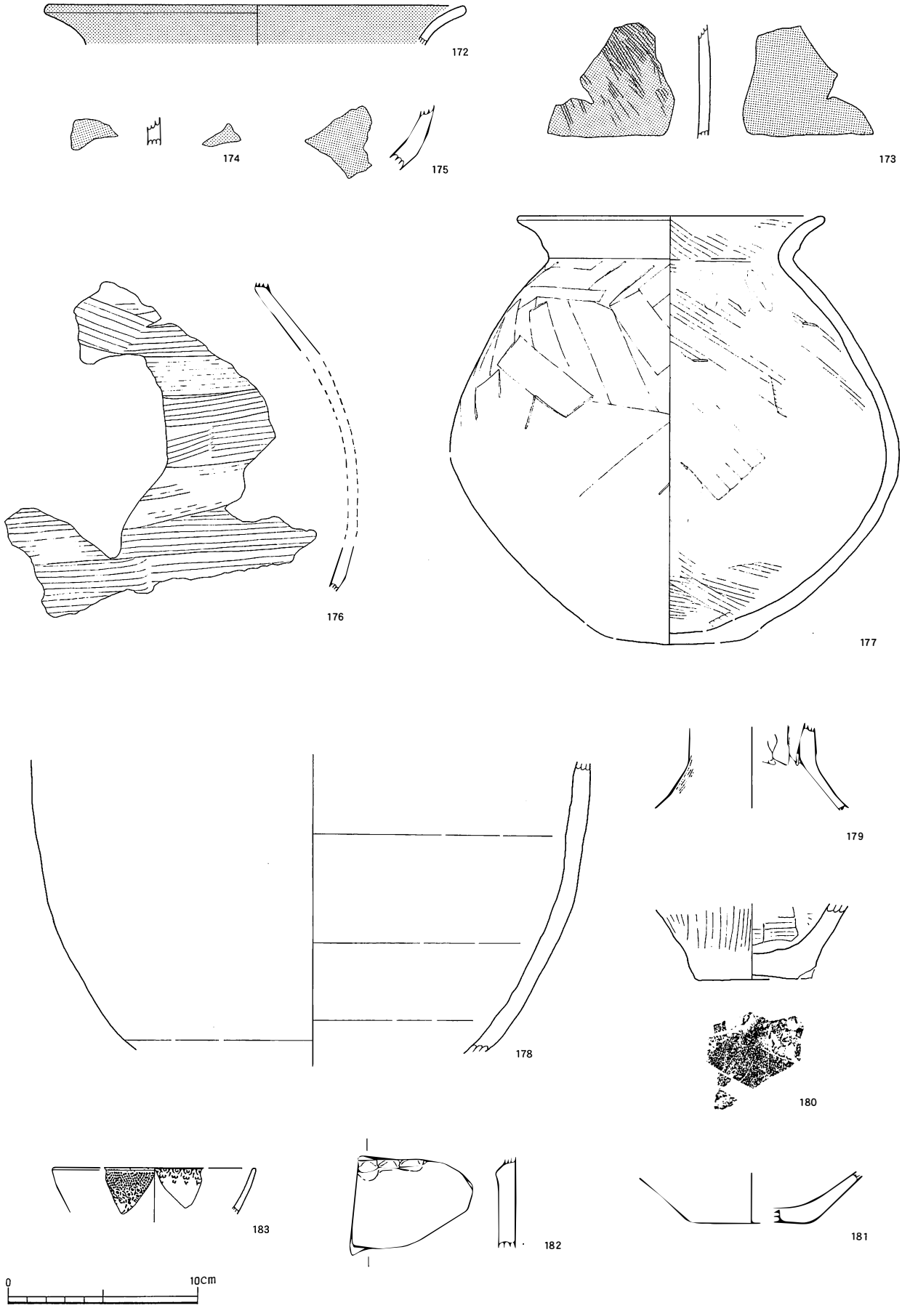
第25図　竪穴状遺構1　出土遺物（4）



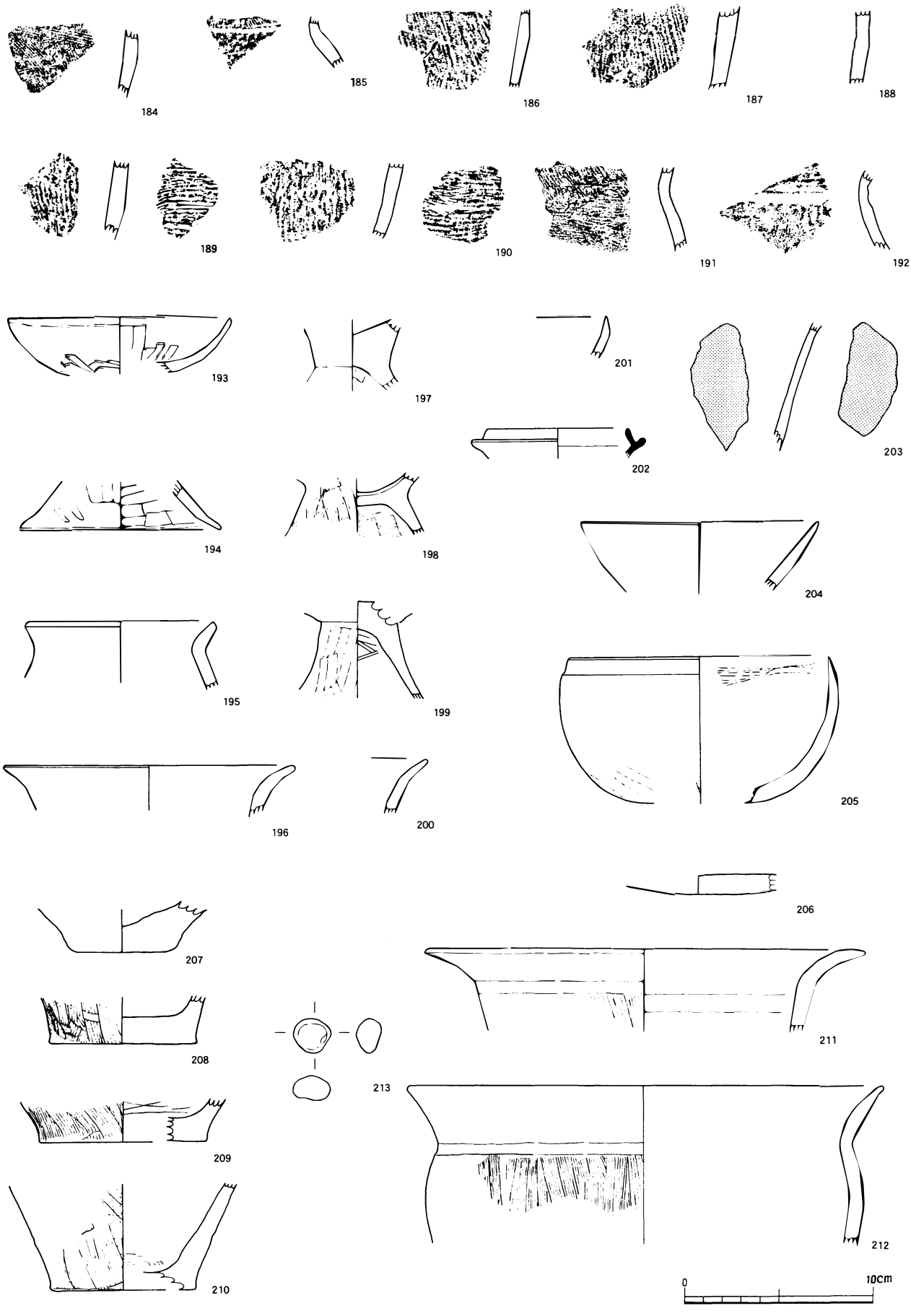
第 26 図　竪穴状遺構 1　出土遺物（5）



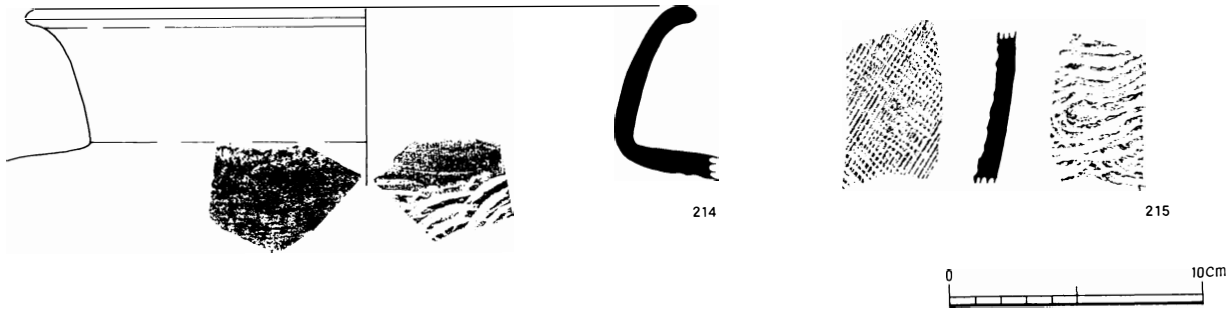
第 27 図　竪穴状遺構２　出土遺物（１）



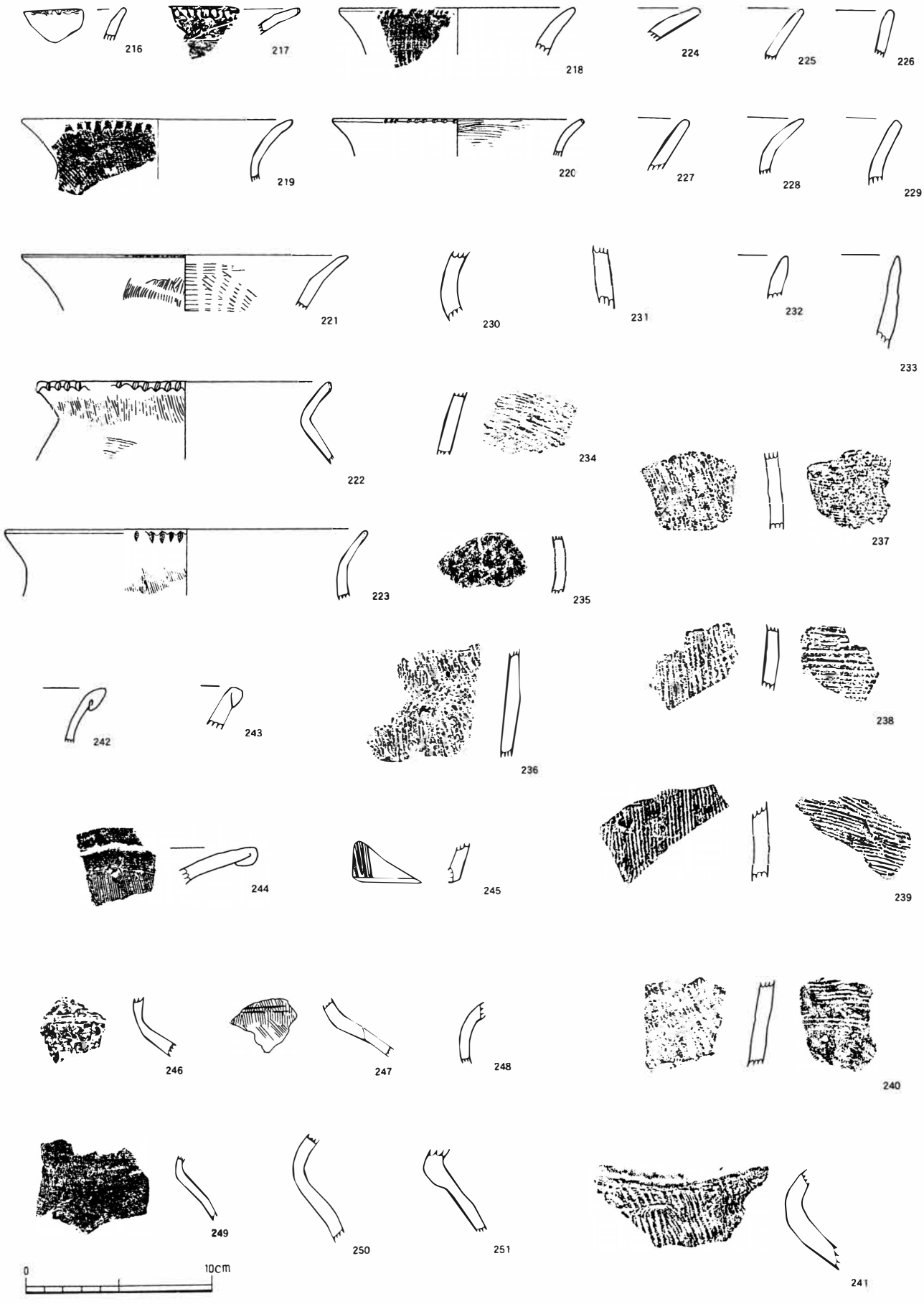
第28図　竪穴状遺構2　出土遺物（2）



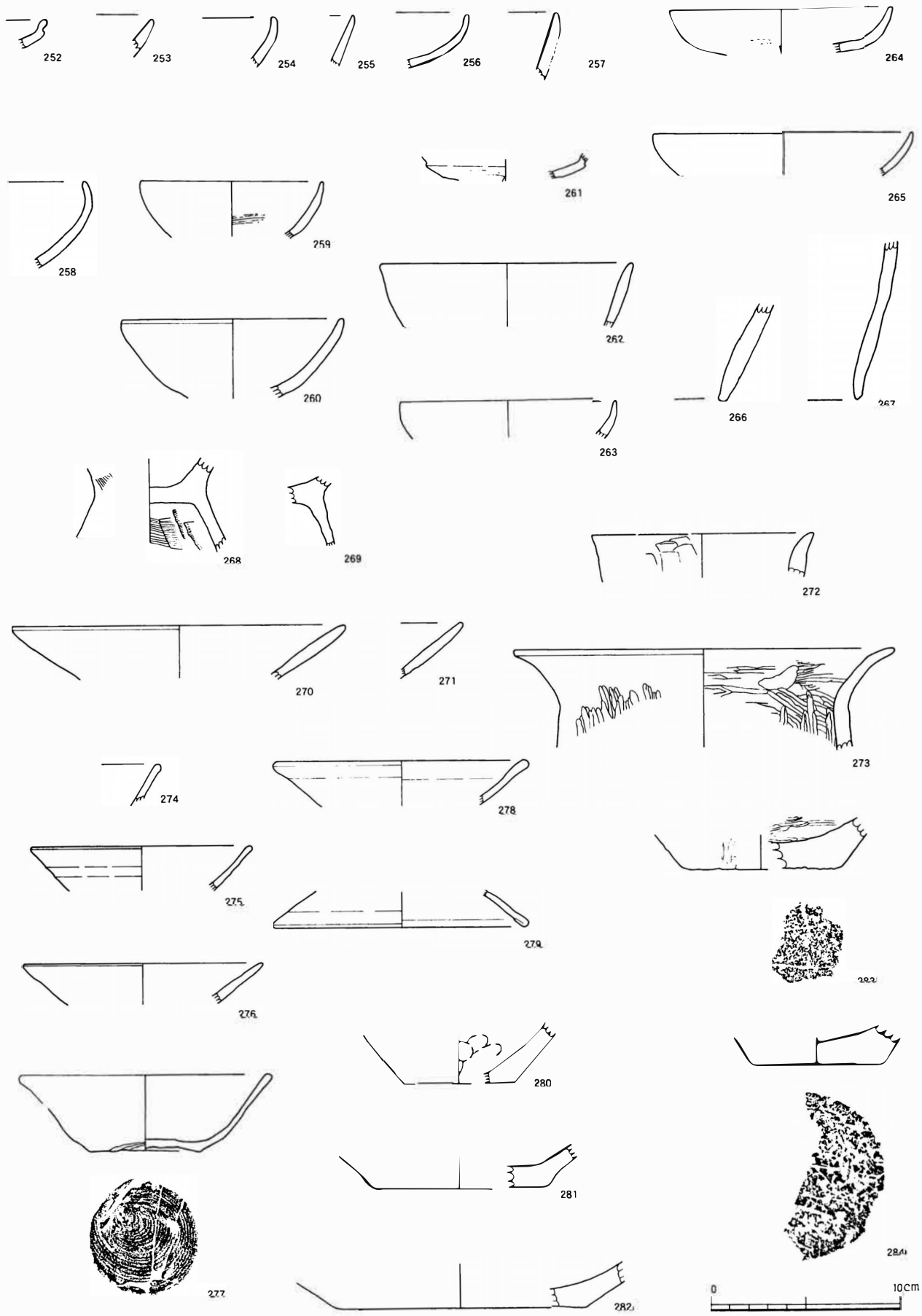
第29図　竪穴状遺構3・4　出土遺物（1）



第30図　竪穴状遺構3・4　出土遺物（2）

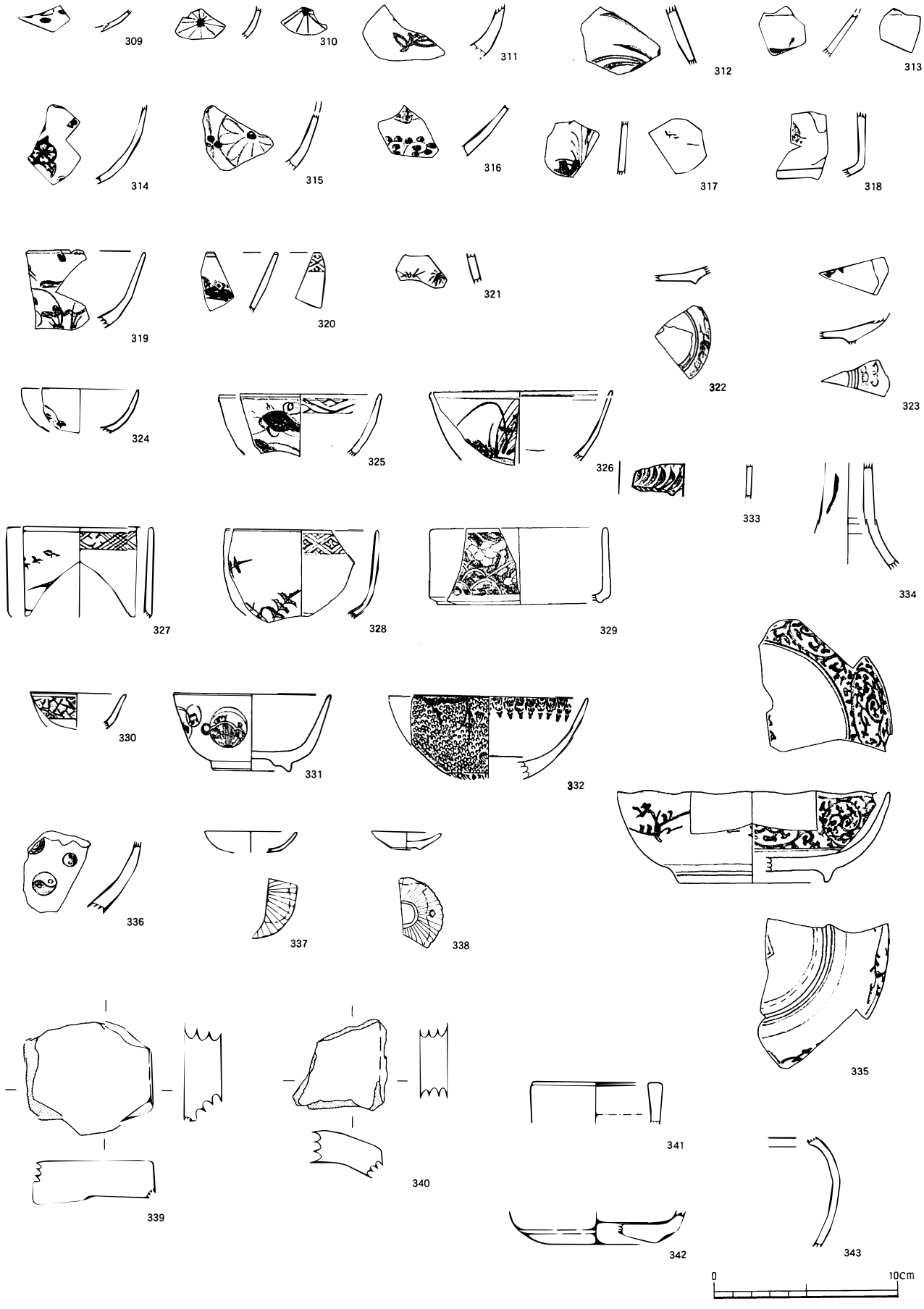


第31図　遺構外　出土遺物（1）

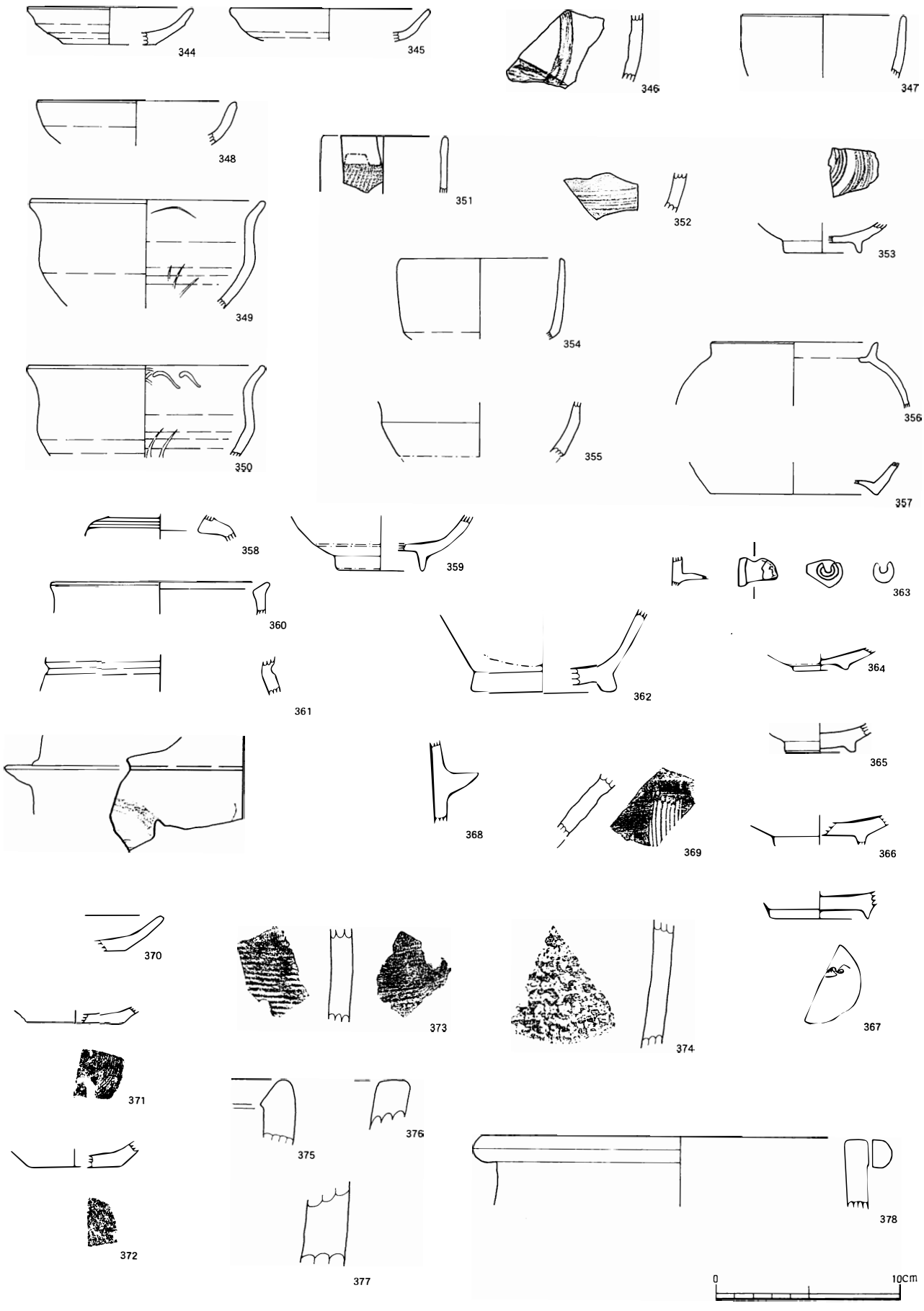


第32図　遺構外　出土遺物（2）

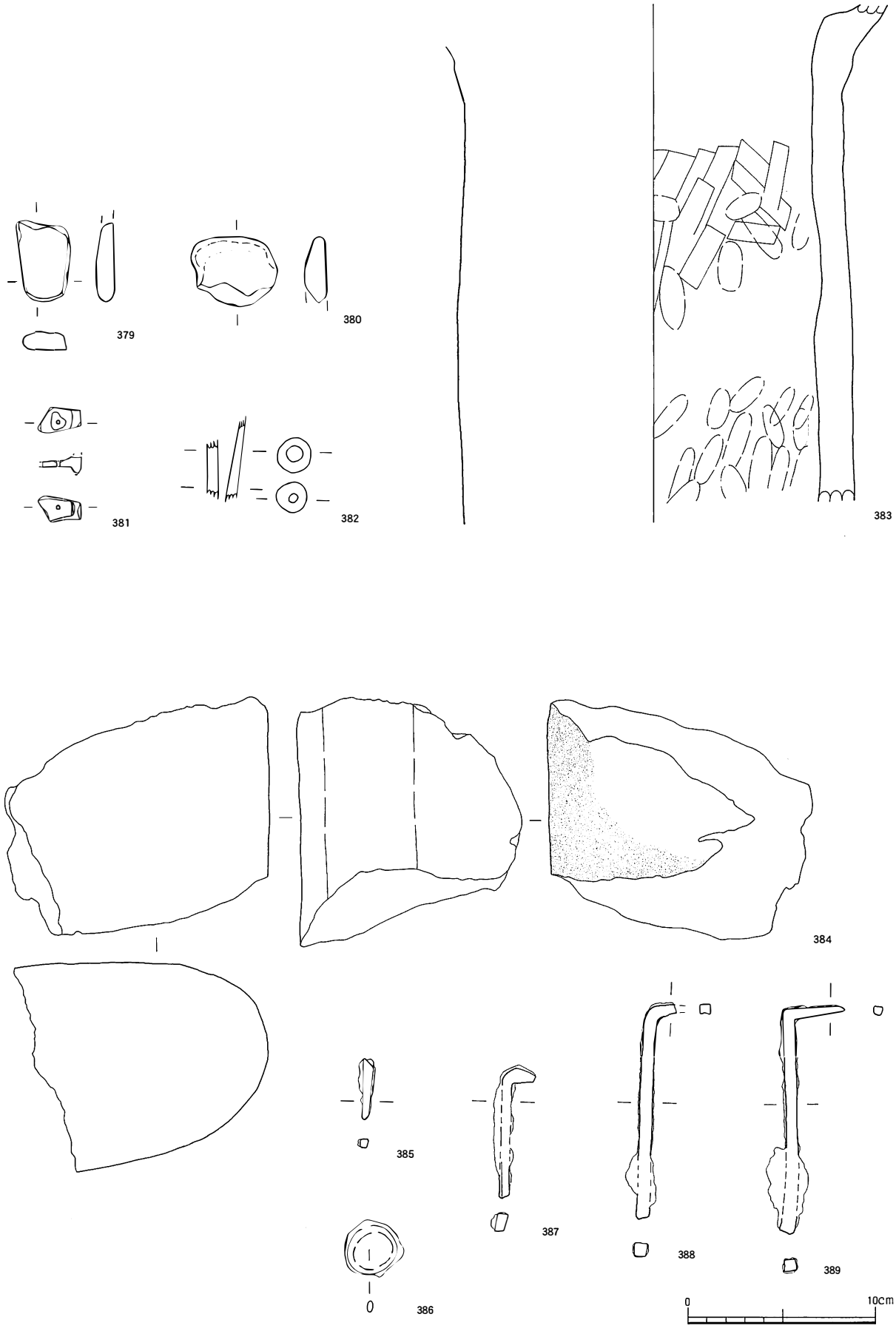
第33図　遺構外　出土遺物（3）



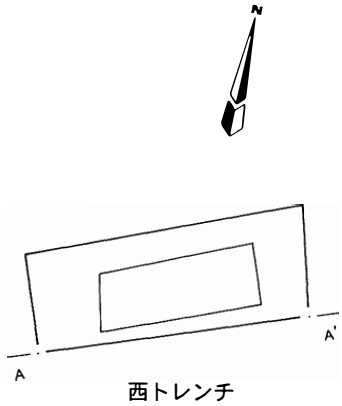
第34図　遺構外　出土遺物（4）



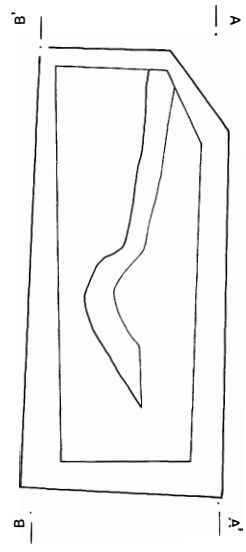
第35図　遺構外　出土遺物（5）



第 36 図　遺構外　出土遺物（6）

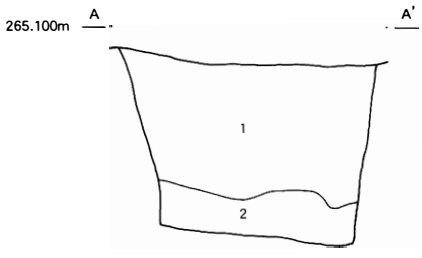


西トレンチ



東トレンチ

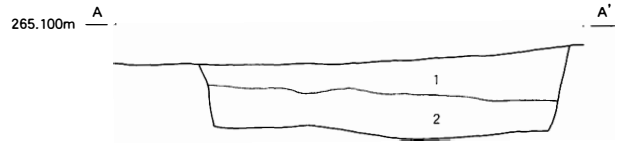
西トレンチセクション図

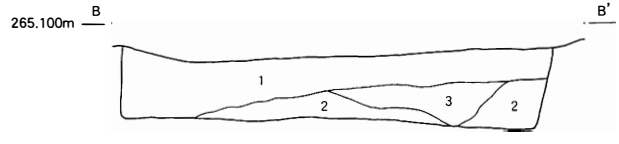


立会い調査　西トレンチ

1 茶褐色シルト（ごく上層に江戸時代の遺物を含む）

2 暗褐色シルト（粗砂を少量含む、しまり良）



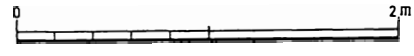


立会い調査　東トレンチ

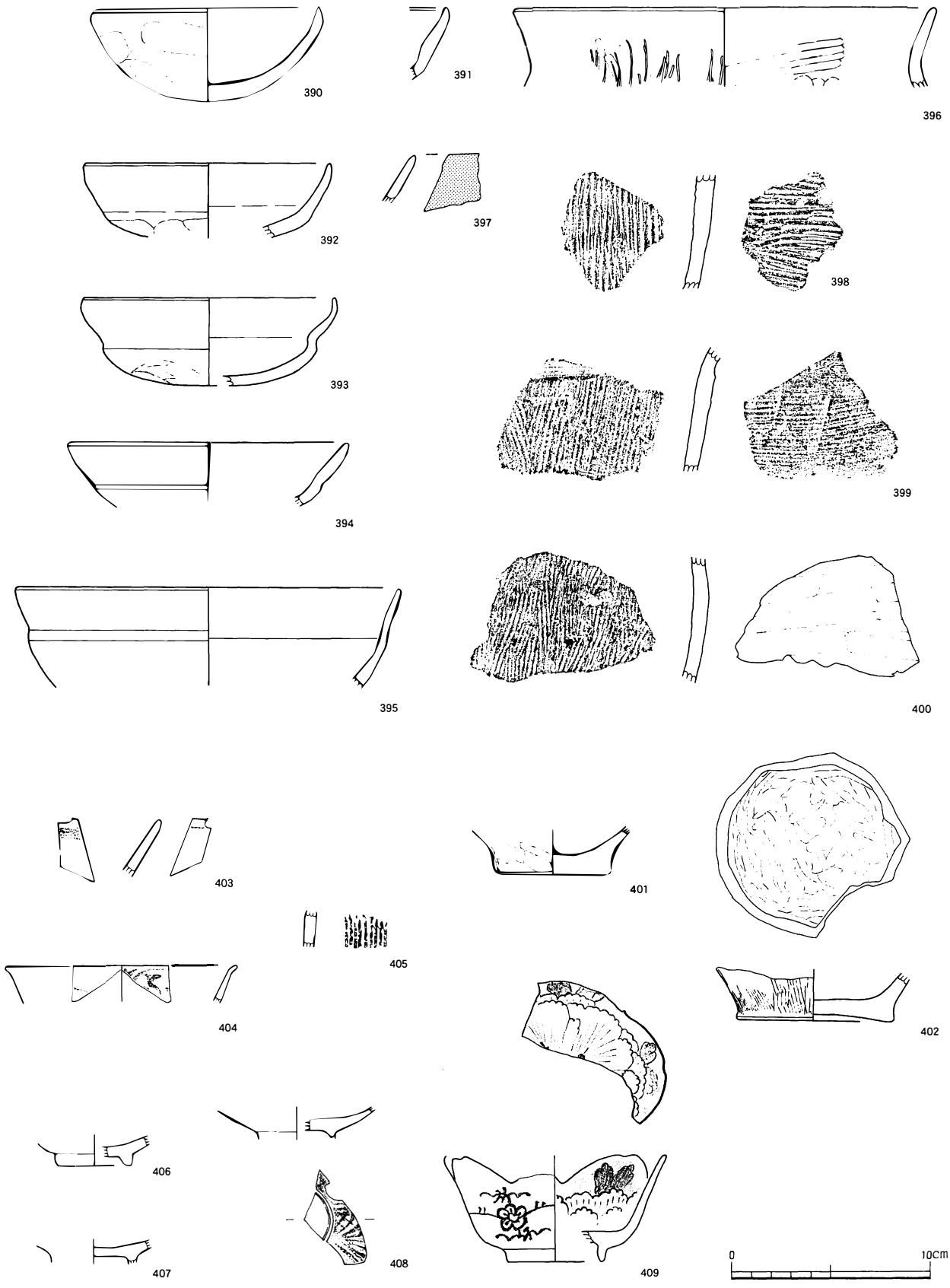
1 茶褐色土（焼土粒をわずかに含む）←Ⅱ面

2 黒褐色土（焼土粒・炭化物粒を多く含む、古墳時代の土器を多く含む）←Ⅲ面

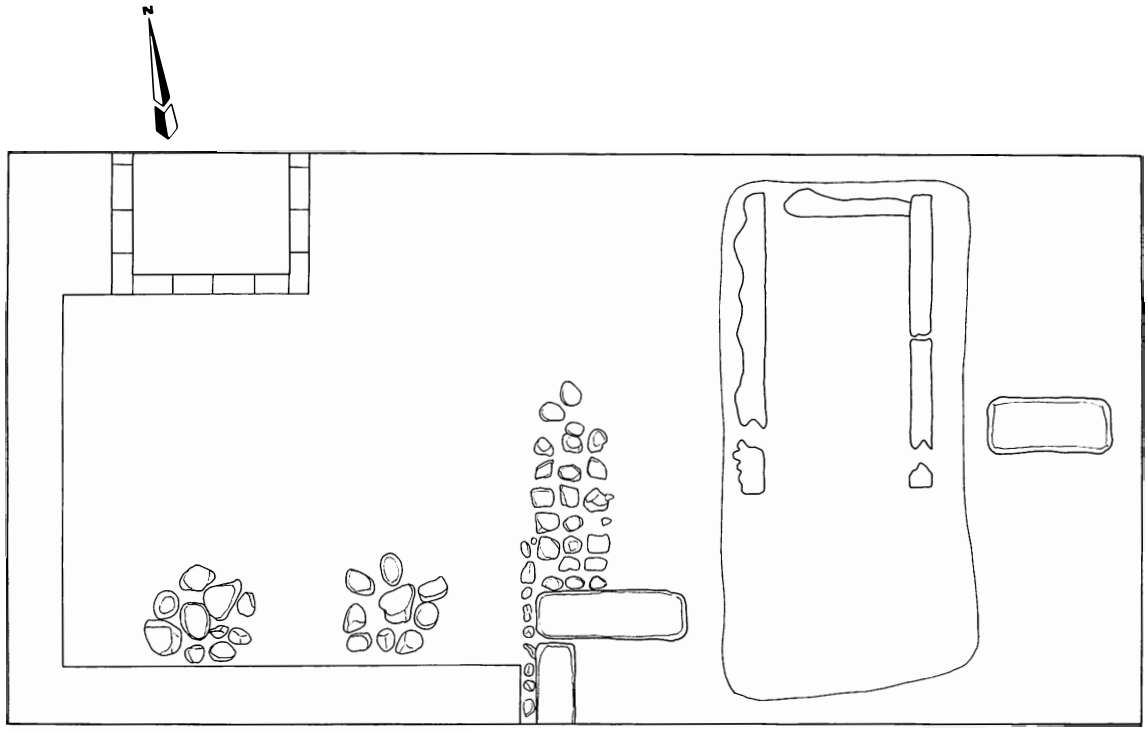
3 黒褐色土（1～5㎝大の茶褐色シルトブロックを多く含む）



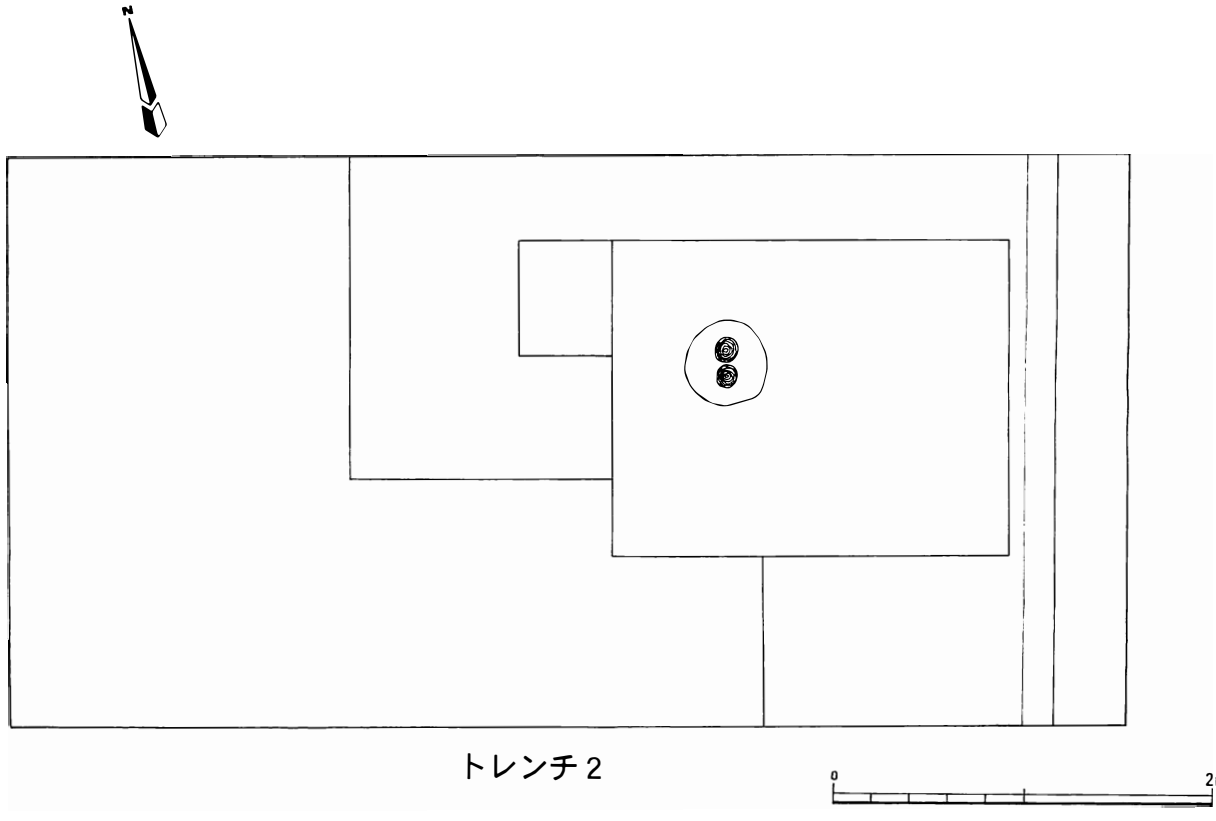
第37図　立会い調査　トレンチ平面図・セクション図



第38図　立会い調査　出土遺物

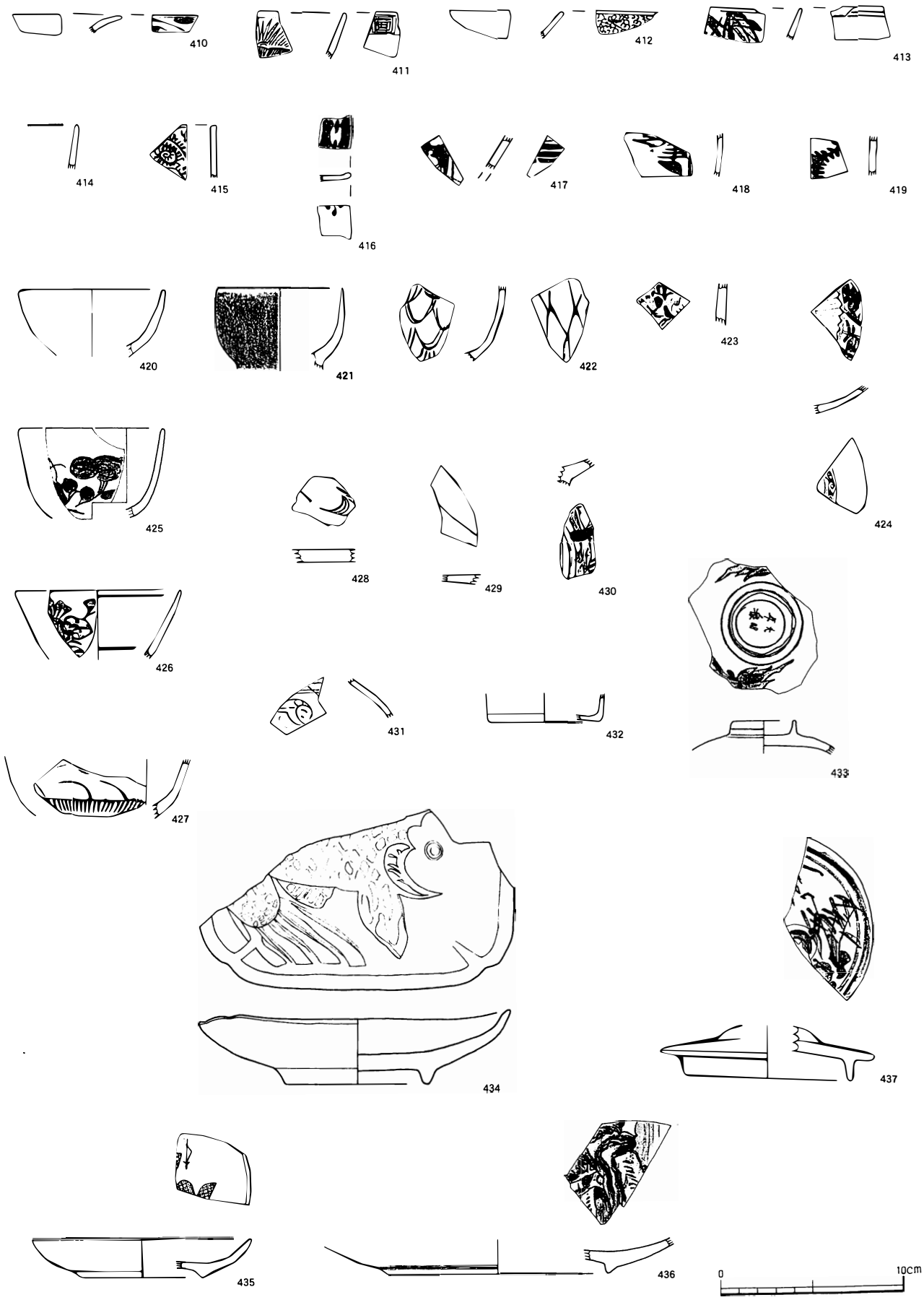


トレンチ１

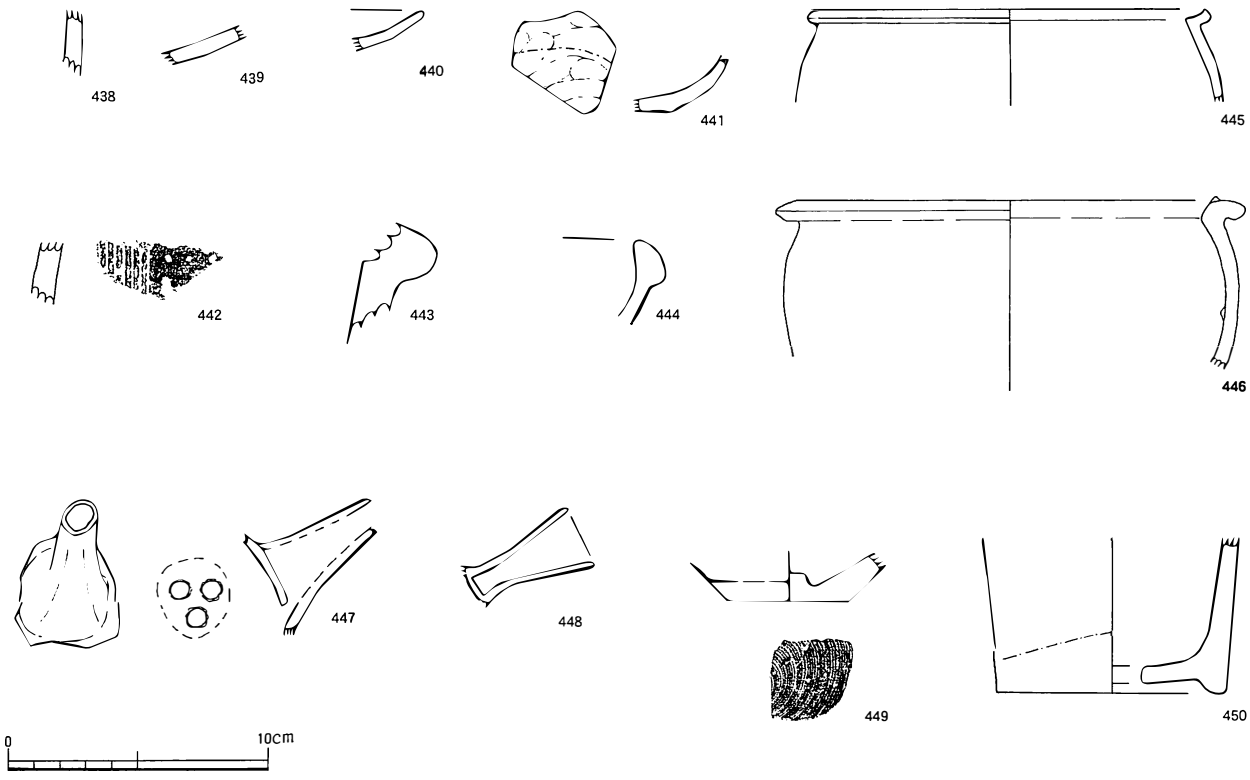


トレンチ２

第 39 図　試掘調査　トレンチ平面図



第40図　試掘調査　トレンチ1　出土遺物（1）



第41図　試掘調査　トレンチ1　出土遺物（2）

表２　陶磁器類遺物観察表

図版No.	報告No.	出土位置	遺物注記No.	実測No.	種別	器種等	法量（cm）［現存値］（推定値）			装飾技法			胎土	刻印・銘	備考
							口径	器高	底径	絵付・釉薬	装飾技法	文様			
8	1	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	399	磁器	碗	-	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	草？	白色、やや粗		
8	2	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	401	磁器	碗	-	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	草？	白色、やや密		
8	3	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	400	磁器	碗	(9.0)	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	草花文	白色、やや密		
8	4	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	390	磁器	碗	(10.0)	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	草花文	灰白、やや粗		
8	5	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	397	磁器	碗	(10.4)	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	草	白色、やや粗		
8	6	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	393	磁器	中碗	(9.8)	-	-	コバルト・透明釉	手描き	草花文	白色、やや粗		
8	7	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	391	磁器	碗	(10.0)	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	草花文	灰白色、やや粗		
8	8	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	389	磁器	碗	(10.0)	5.0	(3.4)	自然呉須・透明釉	手描き	草花文	白色、やや粗		
8	9	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	392	磁器	碗	(9.4)	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	梅花文	灰白、やや粗		
8	10	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	386	磁器	碗	(10.0)	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	菊花文	白色		
8	11	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	387	磁器	碗	(10.0)	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	菊花文	白色		
8	12	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	368	磁器	碗	9.6	5.0	3.8	自然呉須・透明釉	手描き	草花文	白色、やや粗		
8	13	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	369	磁器	碗	10.0	5.1	3.8	自然呉須・透明釉	手描き	草花文	白色、密		
8	14	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	388	磁器	碗	(9.8)	5.1	(4.0)	自然呉須・透明釉	手描き	草花文	白色		
8	15	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	403	磁器	碗	-	-	(4.2)	自然呉須・透明釉	手描き	内：花？	白色、やや粗		
8	16	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	396	磁器	碗	-	-	3.7	自然呉須・透明釉	手描き	草花文	灰白、やや粗		
8	17	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	398	磁器	碗	-	-	3.6	自然呉須・透明釉	手描き	-	白色		
8	18	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	395	磁器	碗	-	-	(3.8)	自然呉須・透明釉	手描き	草花文	灰白色、やや粗		
8	19	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	394	磁器	中碗	-	-	3.4	コバルト・透明釉	手描き	椿文	白色、やや粗		底面に「富」
8	20	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	410	磁器	碗	(10.1)	-	-	コバルト・透明釉	型紙刷り	外：鞠・福袋、 内：瓔珞	白色、やや粗		
8	21	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	411	磁器	碗	-	-	-	コバルト・透明釉	型紙刷り	外：桜	白色、やや粗		
8	22	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	412	磁器	碗	-	-	-	コバルト・透明釉	型紙刷り	-	白色		
8	23	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	413	磁器	碗	-	-	-	コバルト・透明釉	型紙刷り	外：- 内：環状松竹梅文	白色		
9	24	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	408	磁器	小坏	5.8	2.8	2.2	上絵付け・透明釉	手描き	内：人物（女性）	白色、密		底面に
9	25	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	370	磁器	皿	(10.6)	2.1	6.2	自然呉須・透明釉	手描き	鳥・草	白色、やや粗		底面に「寿」
9	26	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	404	磁器	蓋	-	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	-	白色、やや密		
9	27	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	405	磁器	合子蓋	-	-	-	コバルト・透明釉	手描き	風景？	白色、やや粗		
9	28	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	407	磁器	水滴	-	-	-	コバルト？・透明釉	型押し	-	白色		
9	29	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	406	磁器	水滴	-	-	-	透明釉	型押し	笠を被った人物	白色		
9	30	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	402	磁器	猪口	-	-	(5.0)	自然呉須・透明釉	手描き	氷裂文	白色、やや粗		
9	31	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	409	磁器	-	-	-	(8.0)	コバルト	型紙刷り	-	白色、やや粗		
9	32	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	384	陶器	土瓶	-	-	-	緑釉	-	-	褐色		
9	33	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	375	陶器		-	-	-	黒釉	-	-	褐色		
9	34	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	382	陶器	甕	-	-	-	-	タタキ目	-	褐色		
9	35	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	383	陶器	すり鉢	-	-	-	錆釉	-	-	淡褐色		スリ目あり
9	36	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	361	陶器	香炉	11.8	8.0	8.6	飴釉	-	-	灰茶褐色		
9	37	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	362	陶器	香炉	12.0	8.4	8.4	茶緑釉	-	-	灰茶褐色		
9	38	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	381	陶器	瓶	10.2	-	-	薄緑釉	-	-	濃茶色		
9	39	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	379	陶器	甕	12.0	-	-	鉄釉	-	-	暗灰褐色		
9	40	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	378	陶器	鉢	-	-	(10.0)	茶釉	-	-	橙色		
9	41	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	371	陶器	碗	-	-	(6.8)	天目釉	-	-	明褐色		
9	42	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	385	陶器	碗	-	-	6.0	灰釉	-	-	灰黄色		
9	43	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	376	陶器	碗	-	-	5.8	茶釉	-	-	橙色		
9	44	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	374	陶器	片口	11.0	5.1	(5.4)	白釉	-	-	白褐色		
9	45	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	377	陶器	皿	-	-	(7.0)	灰釉・白泥	白泥による刷毛目	-	橙褐色		
10	46	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	366	陶器	土瓶	7.8	8.2	7.0	絵付け＋透明釉	手描き	風景	灰白色		
10	47	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	380	陶器	瓶	-	-	(9.0)	内：茶釉	-	-	明褐色		
10	48	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	365	陶器	土瓶	13.2	11.0	7.6	絵付け＋透明釉	手描き	風景	白褐色		
10	49	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	363	陶器	行平	19.0	10.0	4.0	緑釉	-	-	赤茶褐色	把手に「小倉製」	小倉（こごえ）焼
10	50	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	364	陶器	行平	18.8	-	-	緑釉	飛び鉋	-	赤茶褐色		

図版No.	報告No.	出土位置	遺物注記No.	実測No.	種別	器種等	法量（cm）［現存値］（推定値）			装飾技法			胎土	刻印・銘	備考
							口径	器高	底径	絵付・釉薬	装飾技法	文様			
10	51	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	373	土製	碁石	-	-	-	-	-	-	明褐色		
10	52	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	372	土器	灯明皿	(9.6)	1.9	(7.0)	なし	-	-	明褐色		底面回転糸切痕
10	53	Ⅰ区遺物集中地点	06KJ チ　Ⅰ	360	陶器	擂鉢	32.0	15.8	15.0	緑釉	-	-	暗赤色		内面に目痕７カ所
11	54	Ⅰ区一括	06KJ チ　Ⅰ	367	陶器	鉢	21.4	7.4	10.0	絵付け＋紅志野	手描き	格子文ほか	白黄褐色	底面に「春信」銘	「加藤春信」作
14	55	Ⅱ区２面１号溝 p-8	06KJ チⅡ -2 1 ミゾ p-8	186	磁器	碗	(10.0)	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	草花文？	白色、やや密		
14	56	Ⅱ区２面１号溝 p-9	06KJ チⅡ -2 1 ミゾ p-9	184	陶器	碗	-	-	(4.2)	灰釉	-	-	灰褐色		
14	57	Ⅱ区２面１号溝 p-6	06KJ チⅡ -2 1 ミゾ p-6	185	陶器	碗	-	-	(5.0)	鉄釉、透明釉	掛け分け	-	白褐色		
14	58	Ⅱ区２面１号溝 p-2	06KJ チⅡ -2 1 ミゾ p-2	187	磁器	碗	-	-	(4.0)	自然呉須・透明釉	手描き、コンニャク印	内：五弁花	白色、やや粗		
14	59	Ⅱ区２面１号溝	06KJ チⅡ -2 2 ミゾ	188	磁器	碗	-	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	草花文	白色、やや粗		
24	132	Ⅱ区３面１竪	06KJ チⅡ -3 1 タテ	83	磁器	筒形碗	(7.0)	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	雨降柳	灰白色、密		
24	133	Ⅱ区３面１竪	06KJ チⅡ -3 1 タテ	191	陶器	甕	-	-	-	-	タタキ目	-	灰褐色、密		
28	183	Ⅱ区３面２号竪穴状遺構	06KJ チⅡ -3 2 タテ	179	磁器	碗	(11.0)	-	-	コバルト・透明釉	型紙刷り	内：瓔珞文	白、やや粗		
34	309	Ⅱ区３面 B-2	06KJ チⅡ -3 B-2	310	磁器	碗	-	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	-	灰白色、密		
34	310	Ⅱ区	06KJ チⅡ	314	磁器	碗	-	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	菊花文	白色、密		
34	311	Ⅱ区２面 A-3	06KJ チⅡ -2 A-3	311	磁器	碗	-	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	草花文	灰白色、密		
34	312	Ⅱ区	06KJ チⅡ	324	磁器	瓶	-	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	草花文	灰白色、密		
34	313	Ⅱ区	06KJ チⅡ	308	磁器	碗	-	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	草花文	白色、密		
34	314	Ⅱ区２面 A-3	06KJ チⅡ -2 A-3	312	磁器	碗	-	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	花卉文	白褐色、やや粗		焼継ぎ痕あり
34	315	Ⅱ区２面	06KJ チⅡ -2	307	磁器	碗	-	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	花卉文	灰白色、密		
34	316	Ⅱ区１面	06KJ チⅡ -1	309	磁器	碗	-	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	花卉文	白色、やや粗		
34	317	Ⅱ区	06KJ チⅡ	417	磁器	筒形碗	-	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	草花文	白色、密		
34	318	Ⅱ区	06KJ チⅡ	320	磁器	筒形碗	-	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	草花文	白色、密		
34	319	Ⅱ区２面 A-3	06KJ チⅡ -2 A-3	315	磁器	碗	-	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	草花文	灰白色、密		
34	320	Ⅱ区２面 A-4	06KJ チⅡ -2 A-4	316	磁器	碗	-	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	花卉文	白色、やや粗		
34	321	Ⅱ区２面	06KJ チⅡ -2	325	磁器	瓶	-	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	草花文	白色、やや粗		
34	322	Ⅱ区２面	06KJ チⅡ -2	321	磁器	碗	-	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	雲龍文	白色、やや粗		
34	323	Ⅱ区	06KJ チⅡ	319	磁器	碗	-	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	渦巻文？	白褐色、粗		
34	324	Ⅱ区	06KJ チⅡ	306	磁器	仏飯器	(6.4)	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	草花文	白色、やや粗		
34	325	Ⅱ区	06KJ チⅡ	305	磁器	碗	(9.0)	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	外：草花文 内：四方襷文	白色、密		
34	326	Ⅱ区	06KJ チⅡ	416	磁器	碗	(10.0)	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	外：草花文 内：二重圏線	白色、密		
34	327	Ⅱ区３面 p-94	06KJ チⅡ -3 p-94	414	磁器	筒形碗	(8.0)	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	外：草花文 内：四方襷文	白褐色、やや粗		
34	328	Ⅱ区	06KJ チⅡ	304	磁器	碗	(8.4)	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	外：草花文 内：四方襷文	白色、やや粗		
34	329	Ⅱ区	06KJ チⅡ	322	磁器	段重	(9.8)	-	(9.0)	自然呉須・透明釉	手描き	外：波文	白、やや粗		焼継ぎ痕あり
34	330	Ⅱ区	06KJ チⅡ	327	磁器	小坏	(5.2)	-	-	コバルト・透明釉	型押し	外：氷裂梅文	白、やや密		
34	331	Ⅱ区	06KJ チⅡ	329	磁器	碗	(8.5)	4.2	(4.2)	透明釉	銅板刷り	外：松竹梅文	白、やや密		
34	332	Ⅱ区	06KJ チⅡ	330	磁器	碗	(11.0)	-	-	コバルト・透明釉	型紙刷り	外：松、微塵唐草 内：瓔珞文	白		
34	333	Ⅱ区２面	06KJ チⅡ -2	317	磁器	碗	-	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	外：草花文	白、やや粗		
34	334	Ⅱ区	06KJ チⅡ	323	磁器	瓶	-	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	-	白、やや密		
34	335	Ⅱ区	06KJ チⅡ	318	磁器	鉢	(14.8)	(4.9)	(8.0)	自然呉須・透明釉	手描き	外：唐草文、口紅青 内：蛸唐草文	白、密		
34	336	Ⅱ区	06KJ チⅡ	328	磁器	碗	-	-	-	コバルト・透明釉	型紙刷り	勾玉文	白色		
34	337	Ⅱ区３面	06KJ チⅡ -3 p195	332	磁器	紅猪口	(5.0)	-	-	透明釉	型押し	-	白色		
34	338	Ⅱ区	06KJ チⅡ	331	磁器	紅猪口	(4.0)	(0.9)	(1.6)	透明釉	型押し	-	白色		
34	339	Ⅱ区３面	06KJ チⅡ -3	302	瓦質	軒平瓦	-	-	-	-	-	-	灰色		
34	340	Ⅱ区３面	06KJ チⅡ -3	301	瓦質	軒平瓦	-	-	-	-	-	-	灰色		
34	341	Ⅱ区１面	06KJ チⅡ -1	313	磁器	香炉	(7.2)	-	-	青磁	-	-	灰白色、密		摩滅
34	342	Ⅱ区２面　A-4	06KJ チⅡ -2 A-4	289	磁器	？	-	-	(6.4)	青磁	-	-	灰色		

図版No.	報告No.	出土位置	遺物注記No.	実測No.	種別	器種等	法量（cm）［現存値］（推定値）			装飾技法			胎土	刻印・銘	備考
							口径	器高	底径	絵付・釉薬	装飾技法	文様			
34	343	Ⅱ区	06KJ チⅡ	326	磁器	香炉	-	-	-	青磁	-	-	白色		
35	344	Ⅱ区２面 A-3	06KJ チⅡ -2 A-3	279	陶器	灯明皿	(9.0)	2.0	(5.0)	錆釉	-	-	灰色		底面、回転糸切痕
35	345	Ⅱ区２面 A-3	06KJ チⅡ -2 A-3	295	陶器	小皿	(11.0)	-	-	長石釉	-	-	黄褐色		
35	346	Ⅱ区１面	06KJ チⅡ -1	285	陶器	徳利	-	-	-	透明釉	手描き	文字？	灰色		
35	347	Ⅱ区北トレンチ西トレンチ	06KJ チⅡ北トレ西トレ	303	陶器	碗	(9.0)	-	-	灰釉	-	-	灰褐色		
35	348	Ⅱ区２面　p-7	06KJ チⅡ -2 p-7	282	陶器	小皿	(11.0)	-	-	灰釉	-	-	黄褐色		火を受けた痕跡？
35	349	Ⅱ区２面　p-a,p-b	06KJ チⅡ -2 p-a,p-b	278	陶器	腰高碗	(13.0)	-	-	黄瀬戸釉か	型押し	波状文？　草花文？	黄褐色		火を受けた痕跡？
35	350	Ⅱ区２面　p-c	06KJ チⅡ -2 p-c	277	陶器	腰高碗	(13.0)	-	-	黄瀬戸釉か	型押し	波状文？　草花文？	黄褐色		火を受けた痕跡？
35	351	Ⅱ区	06KJ チⅡ	291	陶器	筒形碗	(7.0)	-	-	鉄釉・透明釉	飛び鉋	-	灰色		
35	352	Ⅱ区２面	06KJ チⅡ -2	284	陶器	碗	-	-	-	白泥・透明釉	-	白泥による刷毛目	褐紫色		
35	353	Ⅱ区２面 A-3	06KJ チⅡ -2 A-3	298	陶器	碗	-	-	(4.0)	白泥・透明釉	-	白泥による刷毛目	褐紫色		
35	354	Ⅱ区 A-4	06KJ チⅡ A-4	281	陶器	筒形碗	(9.2)	-	-	天目釉	-	-	灰白色		
35	355	Ⅱ区２面	06KJ チⅡ -2	286	陶器	碗	-	-	-	天目釉	-	-	黄褐色		
35	356	Ⅱ区	06KJ チⅡ	276	陶器	土瓶	(9.0)	-	-	薄茶釉	-	-	褐色		
35	357	Ⅱ区１面	06KJ チⅡ -1	294	陶器	土瓶	(9.2)	-	-	灰釉	-	-	淡黄灰色		
35	358	Ⅱ区２面	06KJ チⅡ -2	297	陶器	壷	-	-	-	灰釉	-	-	灰色		
35	359	Ⅱ区	06KJ チⅡ	290	陶器	碗	-	-	(4.8)	透明釉	-	-	黄褐色		
35	360	Ⅱ区 A-4	06KJ チⅡ A-4	280	陶器	香炉	(12.0)	-	-	黄釉	-	-	黄褐色		火を受けた痕跡？
35	361	Ⅱ区３面 p-234	06KJ チⅡ -3 p-234	283	陶器	壷？	-	-	-	鉄釉	-	-	灰色		
35	362	Ⅱ区２面 A-2	06KJ チⅡ -2 A-2	300	陶器	瓶	-	-	(7.7)	灰釉	-	-	黄褐色		
35	363	Ⅱ区２面 A-2	06KJ チⅡ -2 A-2	299	陶器	？	-	-	-	-	-	-	橙褐色		把手部分か
35	364	Ⅱ区	06KJ チⅡ	287	陶器	碗	-	-	3.0	透明釉	-	-	白褐色		
35	365	Ⅱ区２面 A-2	06KJ チⅡ -2 A-2	288	陶器	碗	-	-	3.6	灰釉	-	-	黄褐色		
35	366	Ⅱ区２面 A-3	06KJ チⅡ -2 A-3	293	陶器	瓶？	-	-	(5.0)	灰釉	-	-	白褐色		
35	367	Ⅱ区	06KJ チⅡ	296	陶器	碗？	-	-	(5.2)	透明釉	-	-	黄褐色	底面に「清水」銘	
35	368	Ⅱ区	06KJ チⅡ	275	陶器	羽釜	-	-	-	透明釉	手描き	？	黄褐色		
35	369	Ⅱ区３面	06KJ チⅡ -3	292	陶器	擂鉢	-	-	-	-	-	-	橙褐色		擂り目８本単位
35	370	Ⅱ区３面 p-310	06KJ チⅡ -3 p-310	27	土器	かわらけ	-	-	-	-	-	-	橙褐色		胎土：白色粒子・金雲母含む
35	371	Ⅱ区	06KJ チⅡ	249	土器	かわらけ	-	-	-	-	-	-	橙褐色		底面、回転糸切痕
35	372	Ⅱ区３面 p-224	06KJ チⅡ -3 p-224	199	土器	かわらけ	-	-	-	-	-	-	橙褐色		底面、回転糸切痕
35	373	Ⅱ区３面 B-3	06KJ チⅡ -3 B-3	190	陶器	大甕	-	-	-	-	-	-	灰色		
35	374	Ⅱ区１面	06KJ チⅡ -1	216	土器	火鉢	-	-	-	-	-	-	橙褐色		
35	375	Ⅱ区２面 A-3	06KJ チⅡ -2 A-3	255	土器	火鉢	-	-	-	-	-	-	橙褐色		
35	376	Ⅱ区２面 A-3	06KJ チⅡ -2 A-2	256	土器	火鉢	-	-	-	-	-	-	橙褐色		胎土：金雲母多量
35	377	Ⅱ区	06KJ チⅡ	217	土器	火鉢	-	-	-	-	-	-	橙褐色		胎土：赤色粒子ごく少量
35	378	Ⅱ区３面	06KJ チⅡ -3	238	土器	七厘	(22.8)	-	-	-	-	-	橙褐色		胎土：白色粒子・金雲母少量
36	379	Ⅱ区３面 A-3	06KJ チⅡ -3 A-3	258	土製品	？	-	-	-	-	-	-	茶褐色		
36	380	Ⅱ区	06KJ チⅡ	257	土製品	？	-	-	-	-	-	-	褐色		
36	381	Ⅱ区２面	06KJ チⅡ -2	264	土器	碗？	-	-	-	-	-	-	赤褐色		焼成後、内面から打ち欠いている
36	382	Ⅱ区	06KJ チⅡ	333	ガラス製品	？	-	-	-	-	-	-	透明無色		
36	383	Ⅱ区３面 A-2	06KJ チⅡ -3 A-2	354	土製	土管	-	-	-	-	-	-	明橙褐色		
36	384	Ⅱ区３面、pit-a	06KJ チⅡ pit-a	415	石	-	-	-	-	-	-	-	-		火を受けている
36	385	Ⅱ区２面 B-3	06KJ チⅡ -2 B-3	358	鉄	-	-	-	-	-	-	-	-		
36	387	Ⅱ区２面 A-3	06KJ チⅡ -2 A-3	356	鉄	-	-	-	-	-	-	-	-		
36	388	Ⅱ区２面	06KJ チⅡ -2	355	鉄	-	-	-	-	-	-	-	-		
36	389	Ⅱ区２面 A-4	06KJ チⅡ -2 A-4	357	鉄	-	-	-	-	-	-	-	-		
36	386	Ⅱ区２面	06KJ チⅡ -2	359	鉄	-	-	-	-	-	-	-	-		
38	403	立会　西トレ	06KJ チ立会西トレ	352	磁器	碗	-	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	圏線	灰白、やや粗		
38	404	立会　西トレ	06KJ チ立会西トレ	353	磁器	端反碗	12.0	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	-	灰白色		
38	405	立会　東トレ２	06KJ チ立会東トレ２	346	陶器	擂鉢	-	-	-	-	-	-	橙色		スリ目あり
38	406	立会　西トレ	06KJ チ立会西トレ	349	陶器	碗（天目）	-	-	(3.8)	天目釉	-	-	灰白色		
38	407	立会　西トレ	06KJ チ立会西トレ	348	陶器	碗	-	-	-	鉄釉・灰釉	-	-	黄褐色		
38	408	立会　東トレ２	06KJ チ立会東トレ２	351	磁器	碗	-	-	(4.0)	自然呉須・透明釉	手描き	草	白、やや粗		
40	410	試掘１トレンチ	02KJ チ試１トレ	6	磁器	鉢	-	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	草花文	白色、密		焼継ぎ痕あり

図版No.	報告No.	出土位置	遺物注記No.	実測No.	種別	器種等	法量（cm）［現存値］（推定値）			装飾技法			胎土	刻印・銘	備考
							口径	器高	底径	絵付・釉薬	装飾技法	文様			
40	411	試掘１トレンチ	02KJ チ試１トレ	7	磁器	碗	-	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	内：雷文 外：草花文	白色、やや粗		
40	412	試掘１トレンチ	02KJ チ試１トレ	8	磁器	鉢	-	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	内：微塵唐草	白色、やや粗		
40	413	試掘１トレンチ	02KJ チ試１トレ	24	磁器	碗	-	-	-	コバルト・透明釉	手描き	内：圏線 外：草花文	灰白色、密		
40	414	試掘１トレンチ	02KJ チ試１トレ	26	磁器	碗	-	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	塗り	白色、やや粗		
40	415	試掘１トレンチ	02KJ チ試１トレ	22	磁器	筒形碗	-	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	蛸唐草文	白色、やや粗		
40	416	試掘１トレンチ	02KJ チ試１トレ	9	磁器	皿	-	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	内：？ 外：十字星	白色、やや粗		
40	417	試掘１トレンチ	02KJ チ試１トレ	10	磁器	皿	-	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	？	白色、密		
40	418	試掘１トレンチ	02KJ チ試１トレ	29	陶胎磁器	土瓶	-	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	外：草花文？	茶褐色		
40	419	試掘１トレンチ	02KJ チ試１トレ	25	磁器	鉢	-	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	外：蛸唐草文	白色、やや粗		
40	420	試掘１トレンチ	02KJ チ試１トレ	16	磁器	碗	(8.0)	-	-	透明釉	-	-	白色、密		
40	421	試掘１トレンチ	02KJ チ試１トレ	18	磁器	碗	(6.8)	-	-	コバルト・透明釉	-	塗り	白色、やや粗		
40	422	試掘１トレンチ	02KJ チ試１トレ	21	磁器	碗	-	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	内・外：二重網目文	灰白色、やや粗		
40	423	試掘１トレンチ	02KJ チ試１トレ	36	磁器	瓶	-	-	-	コバルト・透明釉	手描き	草花文	灰白色、密		
40	424	試掘１トレンチ	02KJ チ試１トレ	33	磁器	碗	-	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	内：渦巻繋 外：草花文	白色、密		
40	425	試掘１トレンチ	02KJ チ試１トレ	17	磁器	碗	(8.0)	-	-	コバルト・透明釉	手描き	草花文	白色、密		
40	426	試掘１トレンチ	02KJ チ試１トレ	19	磁器	碗	(9.0)	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	内：圏線　外：花文	白色、やや粗		
40	427	試掘１トレンチ	02KJ チ試１トレ	20	磁器	碗	-	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	？	白色、やや粗		
40	428	試掘１トレンチ	02KJ チ試１トレ	5	磁器	皿	-	-	-	コバルト釉	手描き	？	灰白色、密		
40	429	試掘１トレンチ	02KJ チ試１トレ	35	磁器	皿	-	-	-	自然釉・透明釉	手描き	内：圏線	灰色、密		
40	430	試掘１トレンチ	02KJ チ試１トレ	4	磁器	碗	-	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	外：草花文？	白色、密		摩滅著しい
40	431	試掘１トレンチ	02KJ チ試１トレ	28	陶器	瓶	-	-	-	自然呉須？	手描き	？	灰色		火を受けた痕跡あり
40	432	試掘１トレンチ	02KJ チ試１トレ	34	磁器	瓶	-	-	(6.0)	コバルト・透明釉	？	-	白色、密		
40	433	試掘１トレンチ	02KJ チ試１トレ	32	磁器	蓋	-	-	-	自然呉須・透明釉	手描き	？	白色、やや粗		「大明年製
40	434	試掘１トレンチ	02KJ チ試１トレ	1	青磁	皿	(17.2)	(4.0)	(8.0)	-	型押し	鯉	灰白色		
40	435	試掘１トレンチ	02KJ チ試１トレ	3	磁器	皿	(12.0)	2.1	(6.6)	コバルト・透明釉	プリント	？	白、密		
40	436	試掘１トレンチ	02KJ チ試１トレ	2	磁器	皿	-	-	(12.2)	自然呉須・透明釉	手描き	風景	白色、やや粗		
40	437	試掘１トレンチ	02KJ チ試１トレ	14	陶胎磁器	蓋	(9.0)	-	-	コバルト釉	手描き	草花文	淡褐色		
41	438	試掘１トレンチ	02KJ チ試１トレ	31	陶器	碗？	-	-	-	天目釉	-	-	灰白色		
41	439	試掘１トレンチ	02KJ チ試１トレ	40	陶器	鉢	-	-	-	灰釉	-	-	白色		
41	440	試掘１トレンチ	02KJ チ試１トレ	37	陶器	灯明皿	-	-	-	茶釉	-	-	灰褐白色		
41	441	試掘１トレンチ	02KJ チ試１トレ	39	陶器	碗？	-	-	-	外：鉄釉　内：灰釉	-	-	灰褐色		
41	442	試掘１トレンチ	02KJ チ試１トレ	11	陶器	擂鉢	-	-	-	錆釉	-	-	白色		
41	443	試掘１トレンチ	02KJ チ試１トレ	13	土器	火鉢	-	-	-	-	-	-	暗褐色		
41	444	試掘１トレンチ	02KJ チ試１トレ	30	陶器	捏鉢	-	-	-	緑釉	-	-	橙褐色		
41	445	試掘１トレンチ	02KJ チ試１トレ	41	陶器	土瓶？	(16.0)	-	-	灰釉	-	-	灰褐色		
41	446	試掘１トレンチ	02KJ チ試１トレ	38	陶器	小甕	(18.4)	-	-	黒釉	-	-	暗灰色		火を受けた痕跡
41	447	試掘１トレンチ	02KJ チ試１トレ	23	陶器	土瓶	-	-	-	緑釉	-	-	橙色		
41	448	試掘１トレンチ	02KJ チ試１トレ	27	陶器	土瓶	-	-	-	灰釉、白泥	-	-	灰褐色		
41	449	試掘１トレンチ	02KJ チ試１トレ	15	陶器	蓋	-	-	(4.8)	灰釉	-	-	灰褐色		
41	450	試掘１トレンチ	02KJ チ試１トレ	12	陶器	植木鉢	-	-	(8.8)	灰釉	-	-	白褐色		

表３　土器類遺物観察表

図版No.	報告No.	出土位置	遺物番号	実測番号	種別	器種	時期	口径	器高	底径	整形	色調	胎土	焼成	残存率	備考
22	60	Ⅱ区１竪	p558	88	土師器	甕	平安	-	-	-	外面：ハケ、内面：ナデ	橙褐色	白色粒子	良	破片	
22	61	Ⅱ区１竪	p642	95	土師器	甕	-	-	-	-	外面：ハケ、内面：摩滅	淡橙褐色	白色粒子ごく少量	良	破片	摩滅
22	62	Ⅱ区１竪	p439	84	土師器	甕	古墳後期	-	-	-	外・内面ともハケ	淡橙褐色	赤色・白色粒子ごく少量	良	破片	
22	63	Ⅱ区１竪	p190	86	土師器	甕	古墳後期	-	-	-	外面：ハケ、内面：ハケナデ	橙褐色	白色粒子ごく少量	良	破片	
22	64	Ⅱ区１竪	p442	92	土師器	甕	古墳	-	-	-	外面：ハケ、内面：ヨコハケ	淡橙褐色	白色粒子少量	良	破片	
22	65	Ⅱ区３面	p47	4	土師器	甕	古墳	-	-	-	外・内面ともにハケ	橙褐色	白色粒子・角閃石	良	破片	
22	66	Ⅱ区１竪	p263,367	96	土師器	甕	古墳	-	-	-	外・内面：ハケ	淡褐色	赤色・白色粒子ごく少量	やや軟	破片	摩滅
22	67	Ⅱ区１竪	p561	62	土師器	壷	古墳	-	-	-	外面：ハケナデ、内面ナデ	褐色	白色粒子を少量含む	やや軟	破片	摩滅
22	68	Ⅱ区２竪	p452	82	土師器	坏	古墳	-	-	-	外面：ケズリ、内面：ナデ	暗褐色	白色粒子ごく少量	良	破片	
22	69	Ⅱ区１竪	p204	87	土師器	甕	-	-	-	-	外面：ナデ?、内面：ハケ	橙褐色	白色粒子ごく少量	やや軟	破片	摩滅
22	70	Ⅱ区１竪	p445	90	土師器	甕	古墳後期	-	-	-	外・内面ともハケ	橙褐色	赤色・白色粒子少量	良	破片	
22	71	Ⅱ区１竪	p554	85	土師器	甕	平安	-	-	-	外・内面ともハケ	橙褐色	赤色・白色粒子少量	良	破片	
22	72	Ⅱ区１竪	p526,533	93	土師器	甕	古墳	-	-	-	外面：ハケ、内面：ヨコハケ	淡褐色	白色粒子・金雲母ごく少量	やや軟	破片	
22	73	Ⅱ区３面	p51	2	土師器	甕？	古墳	-	-	-	外・内面ともにナデ	暗橙褐色	白色粒子ごく少量	良	破片	
22	74	Ⅱ区２面	p40,41	6	土師器	甕	古墳	-	-	-	外・内面ともにハケ	暗橙褐色	白色粒子・角閃石少量	良	破片	
22	75	Ⅱ区１竪	p372	63	土師器	甕	弥生末～古墳	-	-	-	外面：ハケ、内面：ハケ	淡褐色	白色粒子・金雲母ごく少量	良	破片	
22	76	Ⅱ区１竪	p399	91	土師器	甕	-	-	-	-	外・内面とも摩滅著しく不明	淡褐色	白色粒子ごく少量	やや軟	破片	摩滅
22	77	Ⅱ区１竪	p479	58	土師器	甕	古墳	-	-	-	外面：ナデ、内面：ハケ	橙褐色	赤色・白色粒子少量	良好	破片	
22	78	Ⅱ区１竪	.	114	土師器	壷？	古墳	-	-	-	外面：ミガキか	淡褐色	白色粒子少量	良	破片	内外面ともに赤彩
22	79	Ⅱ区１竪	.	117	土師器	坩	古墳	-	-	-	外・内面とも摩滅著しく不明	淡褐色	密	良	破片	内外面ともに赤彩
22	80	Ⅱ区１竪	p491	222	土師器	壷	古墳	-	-	-	内面：ミガキ	淡橙褐色	赤色・白色粒子少量	良	破片	内面：赤彩、外面には鉄分付着
22	81	Ⅱ区	p2	16	土師器	壷	弥生末～古墳	-	-	-	口縁部：折り返し口縁	淡橙褐色	白色粒子・角閃石	良	破片	
22	82	Ⅱ区２面	p33	198	土師器	坏	平安	-	-	-	外・内面ともにナデ	淡橙褐色	密	やや軟	破片	
22	83	Ⅱ区１竪	p275	55	土師器	甕	古墳後期	(13.8)	-	-	外・内面：ナデ	橙褐色	赤色粒子・長石少量	良	破片	
22	84	Ⅱ区１竪	p620	54	土師器	甕	古墳後期	(15.8)	-	-	外・内面：ナデ	淡橙褐色	赤色粒子・石英多量	やや軟	破片	摩滅
22	85	Ⅱ区１竪	４土p4	182	土師器	甕	古墳	(15.0)	-	-	外・内面：ナデ	淡橙褐色	白色粒子	良好	破片	
22	86	Ⅱ区１竪	p480	56	土師器	甕（駿東型）	平安	(20.0)	-	-	外面：ナデ、内面：ナデ・口唇部内面肥厚	橙褐色	赤色・白色粒子少量	良好	破片	
22	87	Ⅱ区１竪・２竪	p57,298,398	81	土師器	甕	古墳	-	-	-	外面：ハケ、内面：ヨコハケ	淡褐色	赤・白色粒子少量	良	破片	
22	88	Ⅱ区１竪	p356～358	64	土師器	甕	古墳	-	-	-	外・内面：ハケナデ	褐色	白色粒子少量	良	破片	
22	89	Ⅱ区３面	p92	197	土師器	甕（駿東型）	平安	-	-	-	口唇部内面肥厚	暗橙色	赤色・白色粒子をごく少量	良好	破片	
22	90	Ⅱ区１竪	p547	67	土師器	羽釜	平安	-	-	-	内面：ハケ	橙褐色	赤色・白色・黒色粒子少量	やや軟	破片	摩滅
23	91	Ⅱ区１竪	p417	42	土師器	坏	古墳後期	-	-	-	外面：粗いヘラ削り、内面：ヨコナデ	灰褐色	白色粒子、赤色粒子・金雲母少量	良	破片	
23	92	Ⅱ区１竪	p125	41	土師器	坏	古墳後期	-	-	-	外面：口縁端部強いナデ・ヘラ削り、内面：ナデ	明褐色	白色粒子少量	良	破片	
23	93	Ⅱ区１竪	p352	50	土師器	坏	古墳後期	(12.0)	-	-	外面：口縁端部強いナデ・ヘラ削り、内面：ナデ	橙褐色	金雲母微量、赤色・白色粒子少量	良	破片	
23	94	Ⅱ区１竪	p271	43	土師器	坏	古墳後期	(12.0)	(4.4)	-	外面：口縁端部強いナデ・ヘラ削り、内面：ナデ	淡橙褐色	赤色・白色粒子少量	良	破片	
23	95	Ⅱ区１竪	p423	52	土師器	坏	平安	(12.0)	-	-	外面・内面：ナデ	橙褐色	赤色・白色粒子少量	良好	破片	
23	96	Ⅱ区１竪	p351,383,384,380,381,562	48	土師器	坏	古墳後期	(13.0)	-	-	外面：口縁端部強いナデ・ヘラ削り、内面：ナデ	橙褐色	赤色・白色粒子少量、雲母微量	良	60%	
23	97	Ⅱ区１竪	p197,424,426	47	土師器	坏	古墳後期	-	-	-	外面：ヘラ削り、内面：ナデ	橙褐色	赤色・白色粒子少量	良	30%	
23	98	Ⅱ区１竪	p418,422	44	土師器	鉢	古墳後期	(11.6)	(5.7)	(8.0)	外面：口縁端部強いナデ・ヘラ削り、内面：ナデ	褐色	赤色粒子・白色粒子少量	良	30%	
23	99	Ⅱ区１竪	p198	53	土師器	坏	古墳後期	(15.6)	-	-	外面：ナデミガキ、内面：ナデ	橙褐色	赤色粒子・金雲母少量	良	破片	
23	100	Ⅱ区１竪	p264	49	土師器	坏	古墳後期	-	-	-	内面：ナデ	褐色	金雲母微量、赤色・白色粒子少量	良	破片	摩滅
23	101	Ⅱ区１竪	p567	51	土師器	坩	古墳後期	-	-	-	外面・内面：ナデ	橙褐色	赤色粒子微量	良	破片	摩滅
23	102	Ⅱ区１竪	p125	40	土師器	小甕	古墳後期	(13.0)	-	-	外面：ヘラナデ、内面：ハケ	褐色	白色粒子少量	良	破片	
23	103	Ⅱ区１竪、Ⅱ区２面	p243,403	39	土師器	小甕	古墳後期	(15.0)	-	-	外面：ヘラ削り、内面：ヘラナデ	橙褐色	石英・白色粒子少量	良	破片	
23	104	Ⅱ区１竪	p487	46	土師器	坏	平安	(13.0)	-	-	外面：ナデ、内面：口縁部：ミガキ	橙褐色	赤色・白色粒子少量	良	破片	摩滅
23	105	Ⅱ区１面	.	21	土師器	坏	平安	-	-	-	外・内面ともに摩滅著しく不明	淡褐色	密	良	破片	摩滅
23	106	Ⅱ区１竪	p165,447	66	土師器	高坏	古墳	-	-	-	外・内面：ナデミガキ？	橙褐色	赤色粒子ごく少量	良	破片	摩滅
23	107	Ⅱ区１竪		183	土師器	底部穿孔鉢	古墳	-	-	(5.0)	外・内面ともに摩滅著しく不明	橙褐色	白色粒子・金雲母少量	良	破片	摩滅
23	109	Ⅱ区３面	p72	189	須恵器	坏身	古墳後期	(8.0)	-	-	外面：回転ヘラケズリ、内面：回転ナデ	灰色	密	良好	破片	
23	110	Ⅱ区１竪	p353	110	須恵器	無蓋高坏	古墳後期	10.0	-	-	外面：回転ヘラケズリ・ナデ、内面：ナデ	暗青灰色	密	良	40%	
23	111	Ⅱ区１竪	p372	59	土師器	甕	古墳後期	-	-	-	外面：ナデ・ハケ、内面：ハケ	淡褐色	白色粒子・金雲母少量	良	破片	
23	112	Ⅱ区１竪	.	57	土師器	甕	古墳後期	(23.0)	-	-	外面：ナデ、内面：ナデ・ハケ	淡橙褐色	金雲母微量、白色粒子少量	良	破片	口縁部と胴部の接合部分にヨコハケみられる

図版No.	報告No.	出土位置	遺物番号	実測番号	種別	器種	時期	口径	器高	底径	整形	色調	胎土	焼成	残存率	備考
23	113	Ⅱ区1竪	4土 p2.5	181	土師器	小甕	平安	(14.0)	-	-	外面：ハケナデ、内面：ナデ	橙褐色	白色粒子・金雲母少量	良好	破片	
23 23	114	Ⅱ区1竪	p355,356,366,374,375,377,385,386,388,389,395,396,560	60 61	土師器	甕	古墳後期	(26.4)	-	-	外・内面：ハケ	淡褐色	白色粒子・金雲母少量	良	破片	
24	115	Ⅱ区1竪	p268	69	土師器	台付甕	古墳	-	-	-	外・内面：ハケナデ？	橙褐色	白色粒子少量	良	破片	摩滅
24	116	Ⅱ区1竪	p292	115	土師器	高坏	古墳	-	-	-	外面：ナデミガキ	橙褐色	密	良	破片	外面赤彩
24	117	Ⅱ区1竪	p542	68	土師器	台付甕	古墳	-	-	-	外面：ハケ	橙褐色	白色粒子	良	破片	摩滅、接合痕あり
24	118	Ⅱ区1竪	p552	65	土師器	高坏	古墳	-	-	-	外・内面：ナデミガキ？	黒褐色	白色粒子ごく少量	良	破片	摩滅
24	119	Ⅱ区1竪	p205,538,540	73	土師器	甕？	古墳	-	-	(5.5)	外面：ハケナデ？、内面：ハケ	橙褐色	白色粒子少量	やや軟	30%	摩滅
24	120	Ⅱ区1竪	p126,196,203,413	80	土師器	壺	古墳	-	-	6.8	外面：横ナデ後ケズリ 内面：ナデ	明褐色	白色粒子多量	良	40%	
24	121	Ⅱ区1竪	p237	75	土師器	甕？	古墳	-	-	(10.0)	外面：ハケ、内面：ナデ、底部：木葉痕	橙褐色	赤色・白色粒子少量	良	破片	
24	122	Ⅱ区1竪	p407,425	72	土師器	-	古墳	-	-	(9.6)	外・内面：ハケナデ？、底部：木葉痕	淡橙褐色	白色粒子多量	やや軟	破片	摩滅
24	123	Ⅱ区1竪	p535,536	71	土師器	-	古墳	-	-	(10.0)	底面：木葉痕	赤褐色	白色・赤色粒子少量	良	破片	
24	124	Ⅱ区1竪	p616	79	土師器	-	古墳	-	-	(3.8)	底面：木葉痕					
24	125	Ⅱ区1竪	p193	89	土師器	甕	古墳	-	-	-	外面：ハケ（底部に近い部分：ヨコナデ）、内面：ナデ	暗橙褐色	白色粒子多量	良	破片	
24	126	Ⅱ区1竪	p650	70	土師器	壺	弥生	-	-	(9.6)	外・内面：ハケナデ	淡褐色	白色粒子	やや軟	破片	摩滅、集石とともに出土
24	127	Ⅱ区1竪	p551	77	土師器	鉢	古墳後期	-	-	(5.0)	外面：ケズリ、内面：ハケナデ	橙褐色	赤色・白色・黒色粒子少量	良	破片	
24	128	Ⅱ区1竪	p569	111	土師器	台付甕	古墳時代初頭	(20.0)	-	-	外面：ハケ・口唇部：刻み目、内面：ハケナデ	褐色	白・赤色粒子・金雲母多	良	80%	肩部分にコゲあり
24	129	Ⅱ区1竪	p273	112	土師器	坏	平安？	-	-	(6.0)	外・内面とも摩滅著しく不明、底部：糸切り痕	橙色	白・黒・赤色粒子多	やや軟	破片	
24	130	Ⅱ区1竪	p485,486	45	土師器	かわらけ	江戸？	(9.0)	(2.9)	(4.8)	外面・内面：ナデ、底面：糸切り痕	明褐色	黒色粒子・赤色粒子・金雲母少量	良	破片	
24	131	Ⅱ区1竪	p60	26	土師器	かわらけ	江戸	(6.6)	1.2	(3.6)	外面・内面：ナデ、底面：糸切り痕	橙褐色	白・赤色粒子多量、雲母少量	良	破片	
24	132	別表		83	磁器	別表										
24	133	別表		191	陶器	別表										
24	134	Ⅱ区1竪	p602	204	土製品	土玉		-	-	-	-	暗褐色	やや密	良	100%	
25	135	Ⅱ区1竪	p472	104	須恵器	大甕	古墳後期	-	-	-	外面：タタキ、内面：タタキ	灰色	密	良	破片	
25	136	Ⅱ区1竪	p483	101	須恵器	大甕	古墳後期	-	-	-	外面：タタキ、内面：タタキ	灰色	密	良	破片	
25	137	Ⅱ区1竪	p475	105	須恵器	大甕	古墳後期	-	-	-	外面：タタキ、内面：タタキ	灰色	密	良	破片	摩滅
25	138	Ⅱ区1竪	p254,258	113	須恵器	大甕	古墳後期	-	-	-	外面：タタキ、内面：タタキ	灰色	密	良	破片	
25	139	Ⅱ区1竪	p566	107	須恵器	大甕	古墳後期	-	-	-	外面：タタキ、内面：タタキ	灰色	密	良	破片	
25	140	Ⅱ区1竪	p55,477,518	102 268	須恵器	大甕	古墳後期	-	-	-	外面：タタキ、内面：タタキ	灰色	密	良	破片	
25	141	Ⅱ区1竪	p354,442,473,541	99 272	須恵器	大甕	古墳後期	-	-	-	外面：タタキ、内面：タタキ	灰色	密	良	破片	
26	142	Ⅱ区1竪	p565	108	須恵器	大甕	古墳後期	-	-	-	外面：タタキ、内面：タタキ	灰色	密	良	破片	
26	143	Ⅱ区1竪	p481,530	106	須恵器	大甕	古墳後期	-	-	-	外面：タタキ、内面：タタキ	灰色	密	良	破片	
26	144	Ⅱ区1竪	p478	109	須恵器	大甕	古墳後期	-	-	-	外面：タタキ、内面：タタキ	灰色	密	良	破片	
26	145	Ⅱ区1竪	p474	103	須恵器	大甕	古墳後期	-	-	-	外面：タタキ、内面：タタキ	灰色	密	良	破片	
26	146	Ⅱ区3面	p522	273	須恵器	大甕	古墳後期	-	-	-	外内面ともにタタキ	灰色	密	良好	破片	
26	147	Ⅱ区3面	p526	269	須恵器	大甕	古墳後期	-	-	-	外内面ともにタタキ	灰色	密	良好	破片	
26	148	Ⅱ区3面	p534	270	須恵器	大甕	古墳後期	-	-	-	外内面ともにタタキ	灰色	密	良好	破片	
26	149	Ⅱ区3面	p47	38	須恵器	大甕	古墳後期	-	-	-	外内面ともにタタキ	灰色	密	良好	破片	
26	150	Ⅱ区1竪	p256	100	須恵器	大甕	古墳後期	-	-	-	外面：タタキ、内面：タタキ	灰色	密	良	破片	
27	151	Ⅱ区2竪	-	125	土師器	甕	古墳初頭	-	-	-	外・内面：ナデ、口唇部：貝殻刻み目	褐色	白色粒子ごく少量	良	破片	
27	152	Ⅱ区2竪	p36	124	土師器	甕	古墳初頭	-	-	-	口唇部：刻み目	橙褐色	白色粒子ごく少量	良	破片	
27	153	Ⅱ区2竪	p60	126	土師器	甕	古墳初頭	-	-	-	外・内面ともにハケ、口唇部：刻み目	淡橙褐色	白色粒子・金雲母ごく少量	良	破片	
27	154	Ⅱ区2竪	p453	123	土師器	甕	古墳初頭	(18.0)	-	-	外・内面ともにナデ、口唇部：刻み目	淡橙褐色	白色粒子・金雲母ごく少量	良	破片	
27	155	Ⅱ区2竪	p452	122	土師器	甕	古墳初頭	(20.0)	-	-	口唇部：刻み目	橙褐色	白色粒子ごく少量	良	破片	
27	157	Ⅱ区2竪	p67,76,77,80	132	土師器	壺	古墳	-	-	-	外面：沈線文、内面：ナデ	橙褐色	白色粒子	やや軟	破片	
27	158	Ⅱ区3面	p83	5	土師器	有段口縁壺？	古墳	-	-	-	有段部：沈線文	橙褐色	白色粒子	良	破片	
27	159	Ⅱ区2竪	p4	136	土師器	壺	古墳	-	-	-	外面：削り出し隆帯・沈線文、内面：ハケナデ	褐色	白色粒子少量	良	破片	
27	160	Ⅱ区2竪	p43,72	120	土師器	鉢（片口）	古墳	(14.0)	-	-	外・内面とも摩滅著しく不明	橙褐色	白色粒子・金雲母ごく少量	やや軟	30%	
27	161	Ⅱ区2竪	p34	119	土師器	坩	古墳	(17.0)	-	-	外面：ハケナデ、内面：ナデ	橙褐色	白色粒子・金雲母少量	良	破片	
27	162	Ⅱ区2竪	p16	173	土師器	高坏	古墳	(18.8)	-	-	外・内面ともにミガキ	橙褐色	赤色・白色粒子少量	良	破片	摩滅著しい
27	163	Ⅱ区2竪	p88	129	土師器	坏	古墳後期	(11.0)	-	-	外面：口縁部ヨコナデ・体部ケズリ、内面：ナデ	褐色	密	良	破片	

図版No.	報告No.	出土位置	遺物番号	実測番号	種別	器種	時期	口径	器高	底径	整形	色調	胎土	焼成	残存率	備考
27	164	Ⅱ区２竪	p12,13,28	137	土師器	坏	古墳後期	(22.4)	3.5	-	外面：口縁部ヨコナデ・体部ケズリ、内面：ナデ	褐色	赤色・白色粒子少量	良	50%	
27	165	Ⅱ区２竪	p92	178	須恵器	坏身	古墳後期	(9.2)	3.2	-	外面：回転ヘラケズリ、内面：回転ヨコナデ	灰色	密	良好	30%	
27	166	Ⅱ区２竪	p325	133	土師器	甕	古墳	-	-	-	外面：ケズリ、内面：ハケナデ	褐色	白色粒子少量	良	破片	
27	167	Ⅱ区２竪	p33	127	土師器	甕	古墳	(14.0)	-	-	外面：口縁部ヨコナデ・体部ケズリ、内面：ハケナデ	暗褐色	白色粒子少量	良好	破片	
27	168	Ⅱ区２竪	p89	130	土師器	甕	古墳	(17.0)	-	-	外・内面とも摩滅著しく不明	褐色	白色粒子少量	軟	破片	表面に鉄分付着
27	169	Ⅱ区２竪	p98	121	土師器	甕	古墳	(21.0)	-	-	外面：口縁部ヨコナデ・体部ケズリ、内面：ナデ	橙褐色	白色粒子少量	良	破片	
27	170	Ⅱ区２竪	p342	118	土師器	甕	古墳	(20.0)	-	-	外面：摩滅、内面：ナデ	橙褐色	白色粒子少量	やや軟	破片	
27	171	Ⅱ区２竪	p5	131	土師器	甕	古墳	(23.0)	-	-	外・内面ともナデ	橙褐色	白色粒子	良好	破片	
28	172	Ⅱ区２竪	p64	176	土師器	壺	古墳	(23.0)	-	-	外・内面ともナデ？	橙褐色	白色粒子少量	良	破片	内外面ともに赤彩
28	173	Ⅱ区２竪	p85,101	175	土師器	坩？	古墳	-	-	-	外面：ハケ痕、内面：ナデ	褐色	白色粒子ごく少量	良	破片	内外面ともに赤彩
28	174	Ⅱ区２竪	-	174	土師器	壺？	古墳	-	-	-	外・内面とも摩滅著しく不明	橙褐色	白色粒子ごく少量	やや軟	破片	内外面ともに赤彩
28	175	Ⅱ区２竪	p88	223	土師器	？	古墳	-	-	-	外面：ケズリ？、内面：ナデ	褐色	密	良	破片	外面：赤彩
28	176	Ⅱ区２竪	p30,62,303,312,317	134	土師器	甕	古墳前期	-	-	-	外面：ケズリ、内面：ハケナデ	褐色	赤色・白色粒子	良	破片	
28	177	Ⅱ区２竪	p13,17,44,47～50,52,53,69,70	180	土師器	甕	古墳前期	(16.8)	22.9	(8.0)	外面：ヘラケズリ、内面：ハケ・オサエ	褐色	赤色・白色粒子、金雲母少量	良	70%	
28	178	Ⅱ区２竪	p39～41、74	135	土師器	壺	古墳	-	-	-	外・内面ともナデ	淡褐色	白色粒子・金雲母少量	やや軟	破片	
28	179	Ⅱ区２竪	p299	32	土師器	高坏	古墳	-	-	-	外・内面ともに摩滅著しく不明	橙褐色	密	やや軟	破片	
28	180	Ⅱ区２竪	p91,217,219	138	土師器	甕	古墳	-	-	(6.4)	外面：ハケ、内面：ハケナデ、底面：木葉痕	淡橙褐色	白色・黒色粒子	良	破片	
28	181	Ⅱ区２竪	p79,344	139	土師器	壺？	古墳	-	-	(6.6)	外・内面ともナデ	橙褐色	白色・黒色粒子、金雲母少量	良	破片	
28	182	Ⅱ区２竪	p87	177	土師器	？	？	-	-	-	外面：押し引き文・ナデ、内面：ナデ	暗褐色	密	良	破片	
28	183	別表		179	磁器	別表										
29	184	Ⅱ区４竪	p514	148	土師器	甕	古墳	-	-	-	外面：ハケ、内面：ナデ	橙褐色	白色粒子を少量	良	破片	
29	185	Ⅱ区４竪	p577	147	土師器	甕	古墳	-	-	-	外面：ハケ、内面：ハケ、ナデ	橙褐色	白色粒子を少量	良	破片	
29	186	Ⅱ区４竪	p494,495	146	土師器	甕	古墳	-	-	-	外面：ハケ、内面：ナデ	褐色	白色・黒色粒子を少量	良	破片	
29	187	Ⅱ区４竪	p588	149	土師器	甕	古墳	-	-	-	外面：ハケ、内面：オサエ・ナデ	淡橙褐色	白色粒子を少量	良	破片	
29	188	Ⅱ区４竪	p589	142	土師器	甕	古墳	-	-	-	外・内面：ナデ	暗橙褐色	白色粒子を少量	良	破片	
29	189	Ⅱ区４竪	p586	145	土師器	甕	古墳	-	-	-	外面：ナデ、内面：ヨコハケ	橙褐色	白色粒子をごく少量	良	破片	
29	190	Ⅱ区４竪	p504	150	土師器	甕	古墳	-	-	-	外面：ハケ、内面：ヨコハケ	橙褐色	赤色・白色粒子少量	良	破片	
29	191	Ⅱ区４竪	p571	144	土師器	甕	弥生後期	-	-	-	外面：ハケ、内面：ハケ、ナデ	橙褐色	白色粒子ごく少量	良	破片	スス付着
29	192	Ⅱ区４竪	p503	143	土師器	壺？	古墳	-	-	-	外面：ハケ、内面：ナデ	褐色	白色粒子・角閃石少量	良	破片	
29	193	Ⅱ区４竪	p603	165	土師器	坏	古墳後期	(12.2)	-	-	外面：口唇部ヨコナデ、内面：ナデ・黒色処理	暗褐色	密	良好	破片	
29	194	Ⅱ区４竪	p499	161	土師器	高坏	古墳	-	-	(10.1)	外面：ナデ、内面：ケズリ	暗褐色	密	良	破片	
29	195	Ⅱ区４竪	p505	162	土師器	甕	古墳	-	-	-	外・内面ともに摩滅著しく不明	淡橙褐色	白色粒子多量	軟	破片	摩滅
29	196	Ⅱ区４竪	p626	166	土師器	甕	古墳	(20.0)	-	-	外・内面ともにナデ	暗橙褐色	赤色・白色粒子少量	良	破片	
29	197	Ⅱ区４竪	p621	155	土師器	高坏	古墳	-	-	-	外・内面：ナデミガキ？	橙褐色	赤色粒子少量	やや軟	破片	摩滅
29	198	Ⅱ区４竪	p603	163	土師器	台付甕	古墳	-	-	-	外・内面ともにハケ	橙褐色	赤色・白色粒子少量	やや軟	破片	摩滅
29	199	Ⅱ区４竪	p500	154	土師器	高坏	古墳	-	-	-	外・内面ともに摩滅著しく不明	褐色	白色粒子ごく少量	良	破片	
29	200	Ⅱ区３面	p149	11	土師器	甕	古墳	-	-	-	外・内面ともにナデ	淡橙褐色	白色粒子ごく少量	良	破片	
29	201	Ⅱ区４竪	p606	156	土師器	坏	古墳後期	-	-	-	外：ケズリ・口縁端部強いナデ、内面：ナデ	淡褐色	密	良	破片	
29	202	Ⅱ区３・４竪	-	167	須恵器	坏身	古墳後期	(7.8)	-	-	外面：ケズリ、内面：ヨコナデ	灰色	密	良	破片	
29	203	Ⅱ区３・４竪	p191,192	170	土師器	高坏	古墳	-	-	-	外・内面：ミガキ	淡褐色	白色粒子ごく少量	良	破片	
29	204	Ⅱ区４竪	p627	157	土師器	坩	古墳	(13.0)	-	-	外・内面：ミガキ	淡褐色	密	良	破片	摩滅
29	205	Ⅱ区４竪	p510,515,604	168	土師器	埦	古墳後期	(14.2)	-	-	外面：口唇部ヨコナデ・体部：ケズリ、内面：ナデ	淡橙褐色	赤色・白色粒子少量	良	破片	
29	206	Ⅱ区４竪	p611	152	土師器	坩？	古墳	-	-	-	外面：ケズリ、内面：ナデ？	橙褐色	赤色・白色粒子ごく少量	良	破片	
29	207	Ⅱ区４竪	p506	158	土師器	甕？	古墳	-	-	(6.0)	外面：ハケナデ？、内面：ケズリ、底面：木葉痕	橙褐色	白色粒子ごく少量	良	破片	
29	209	Ⅱ区４竪	一括	160	土師器	甕	古墳	-	-	(9.2)	外：ハケ、内面：ナデ	橙褐色	赤色・白色粒子少量	良	破片	
29	210	Ⅱ区４竪	p322	159	土師器	甕	古墳	-	-	(8.0)	外面：ハケ、内面：ナデ	橙褐色	赤色・白色粒子少量	良	破片	
29	211	Ⅱ区３・４竪	p615	164	土師器	甕	古墳	(24.0)	-	-	頸部：強いヨコナデ	橙褐色	赤色・白色粒子少量	良	破片	
29	212	Ⅱ区４竪	p501	151	土師器	甕	古墳後期	(26.0)	-	-	頸部：強いヨコナデ、体部：ハケ、内面：ナデ	淡橙褐色	赤色・白色粒子・金雲母少量	良	破片	
29	213	Ⅱ区４竪	p624	171	土製	土玉	古墳	-	-	-	-	淡褐色	白色粒子を少量	やや軟	-	摩滅
30	214	Ⅱ区３面	p528,587	265	須恵器	大甕	古墳後期	(26.4)	-	-	外面：回転ナデ・タタキ、内面：タタキ	灰色	密	良好	破片	
30	215	Ⅱ区３・４竪	p629	169	須恵器	大甕	古墳後期	-	-	-	外面：タタキ、内面：タタキ	灰色	密	良	破片	
31	216	Ⅱ区	-	262	土師器	甕	弥生末～古墳初頭	-	-	-	口縁部：刻み目	褐色	白色粒子少量	良	破片	
31	217	Ⅱ区２面	-	251	土師器	甕	弥生末～古墳初頭	-	-	-	口縁部：刻み目	暗褐色	白色粒子ごく少量	良	破片	
31	218	Ⅱ区３面	-	247	土師器	甕	弥生末～古墳初頭	-	-	-	口縁部：刻み目	暗橙褐色	白色粒子ごく少量	良	破片	

図版No.	報告No.	出土位置	遺物番号	実測番号	種別	器種	時期	口径	器高	底径	整形	色調	胎土	焼成	残存率	備考
31	219	Ⅱ区3面	p464	202	土師器	甕	弥生末～古墳初頭	(15.0)	-	-	口縁部：刻み目、外・内面ともにハケ	淡橙褐色	白色粒子ごく少量	良	破片	
31	220	Ⅱ区3面A-2	-	244	土師器	甕	弥生末～古墳初頭	(14.0)	-	-	口縁部：刻み目	橙褐色	白色粒子ごく少量	良	破片	
31	221	Ⅱ区3面B-4	-	250	土師器	甕	弥生末～古墳初頭	(18.0)	-	-	口縁部：刻み目、外・内面ともにハケ	淡橙褐色	白色粒子ごく少量	良	破片	
31	222	Ⅱ区3面	-	239	土師器	甕	弥生末～古墳初頭	(16.2)	-	-	口縁部：刻み目、外面：ハケ	橙褐色	白色粒子ごく少量	良	破片	
31	223	Ⅱ区3面	p636	200	土師器	甕	弥生末～古墳初頭	(20.0)	-	-	口縁部：貝殻状刻み目	淡橙褐色	白色粒子ごく少量	良	破片	
31	224	Ⅱ区3面B-3	-	211	土師器	甕	-	-	-	-	外・内面ともにナデ	橙褐色	白色粒子ごく少量	良	破片	
31	225	Ⅱ区3面A-3		213	土師器	甕	-	-	-	-	外・内面ともにナデ	淡橙褐色	白色粒子ごく少量	良	破片	
31	226	Ⅱ区3面	-	210	土師器	甕	-	-	-	-	外・内面ともにナデ	橙褐色	白色粒子ごく少量	良	破片	
31	227	Ⅱ区	-	241	土師器	甕	古墳	-	-	-	外・内面ともにナデ	淡褐色	白色粒子ごく少量	良	破片	
31	228	Ⅱ区2面	p15	195	土師器	壺	古墳	-	-	-	外・内面ともにナデ	淡褐色	密	良	破片	
31	229	Ⅱ区3面A-3	-	240	土師器	甕	-	-	-	-	外・内面ともにナデ	淡橙褐色	白色粒子ごく少量	良	破片	
31	230	Ⅱ区	p238	98	土師器	甕	-	-	-	-	外・内面：ハケナデ	橙褐色	赤色粒子	良	破片	
31	231	Ⅱ区3面	p251	1	土師器	甕	古墳	-	-	-	外面：ナデ、内面：ハケ	橙褐色	赤色・白色粒子ごく少量	良	破片	
31	232	Ⅱ区3面	p100	14	土師器	甕	古墳	-	-	-	外・内面ともにナデ	橙褐色	白色粒子	良	破片	
31	233	Ⅱ区3面	p297	13	土師器	埦	古墳	-	-	-	口縁端部：ヨコナデ、体部：ケズリ、内面：ヨコナデ	橙褐色	赤色・白色粒子ごく少量	良	破片	
31	234	Ⅱ区2面	-	140	土師器	甕	-	-	-	-	外・内面：ハケ	褐色	白色粒子・金雲母ごく少量	やや軟	破片	
31	235	Ⅱ区3面	p648	28	土師器	甕	弥生末～古墳初頭	-	-	-	外面：ハケ、内面：ナデ	淡橙褐色	赤色・白色粒子ごく少量	良	破片	
31	236	Ⅱ区	p214	29	土師器	甕	平安	-	-	-	外面：ハケ、内面：ナデ	橙褐色	白色粒子少量	良	破片	
31	237	Ⅱ区3面	p208	3	土師器	甕	古墳後期	-	-	-	外・内面ともにハケ	橙褐色	白色粒子・角閃石少量	良	破片	
31	238	Ⅱ区2面A-4	-	212	土師器	甕	古墳	-	-	-	外・内面ともにハケ	暗橙褐色	白色粒子ごく少量	良	破片	
31	239	Ⅱ区3面A-3	-	224	土師器	甕	古墳	-	-	-	外・内面ともにハケ	淡橙褐色	赤色粒子少量	良	破片	
31	240	Ⅱ区1竪，遺構外	p6	94	土師器	甕	-	-	-	-	外・内面：ハケナデ	淡橙褐色	白色粒子	良	破片	
31	241	Ⅱ区3面	p454	9	土師器	甕	平安	-	-	-	外面：ハケ、内面：ナデ	暗褐色	白色粒子・金雲母ごく少量	良	破片	
31	242	Ⅱ区3面	p67	18	土師器	壺	古墳	-	-	-	口縁部：折り返し口縁	暗褐色	白色粒子	良	破片	
31	243	Ⅱ区3面A-3	-	263	土師器	壺	古墳	-	-	-	口縁部：折り返し口縁	橙褐色	白色粒子ごく少量	良	破片	
31	244	-	p637	12	土師器	壺	弥生末～古墳初頭	-	-	-	外面：ハケ、口縁端部：折り返し口縁	橙褐色	白色粒子ごく少量	良	破片	
31	245	Ⅱ区3面A-2	-	261	土師器	有段口縁壺	弥生末～古墳	-	-	-	有段部：沈線文	淡橙褐色	白色粒子少量	良	破片	
31	246	Ⅱ区3面	-	141	土師器	甕？	-	-	-	-	頸部：強いヨコナデ	橙褐色	白色粒子ごく少量	良	破片	
31	247	Ⅱ区3面A-2	-	206	土師器	甕	古墳	-	-	-	外面：ハケ、内面：ハケナデ	暗橙褐色	白色粒子・金雲母ごく少量	良	破片	
31	248	Ⅱ区3面A-3	-	259	土師器	有段口縁壺	古墳	-	-	-	外・内面ともにナデ	淡褐色	密	良	破片	
31	249	Ⅱ区3面	p640	15	土師器	甕	弥生末～古墳初頭	-	-	-	外面：ハケ、内面：ハケナデ	淡橙褐色	白色粒子・金雲母ごく少量	良	破片	
31	250	Ⅱ区3面	p285	10	土師器	壺	古墳後期	-	-	-	口縁部：強いヨコナデ、内面：ナデ	橙褐色	白色粒子少量	良	破片	
31	251	Ⅱ区3面	p252	17	土師器	壺	古墳	-	-	-	内面：ハケナデ	淡褐色	白色粒子・金雲母ごく少量	良	破片	
32	252	Ⅱ区3面B-3	-	253	土師器	鉢？	？	-	-	-	外・内面ともに摩滅著しく不明	暗褐色	白色粒子・角閃石	軟	破片	摩滅
32	253	Ⅱ区3面A-3	-	214	土師器	坏	古墳後期	-	-	-	外・内面ともにナデ	淡橙褐色	白色粒子ごく少量	良	破片	
32	254	Ⅱ区3面	p71	22	土師器	坏	古墳後期	-	-	-	外・内面ともにナデ	淡褐色	白色粒子・金雲母少量	良	破片	
32	255	Ⅱ区2面	-	207	土師器	坏	古墳後期	-	-	-	外・内面ともにナデ	淡い褐色	密	良	破片	
32	256	Ⅱ区3面	p318	25	土師器	坏	古墳後期	-	-	-	口縁端部：強いナデ、体部：ケズリ	淡橙褐色	金雲母・角閃石ごく少量	良	破片	
32	257	Ⅱ区3面	p652	24	土師器	坏	古墳後期	-	-	-	口縁端部：強いナデ、体部：ケズリ	黒褐色	白色粒子ごく少量	良	破片	内外面：黒色処理
32	258	Ⅱ区3面	p218	23	土師器	坏	古墳後期	-	-	-	口縁端部：強いナデ、体部：ケズリ、内面：ナデ	淡褐色	白色粒子ごく少量	良	破片	
32	259	Ⅱ区2面	p-cl	194	土師器	坏	古墳後期	(10.0)	-	-	口縁端部：強いナデ、体部：ケズリ、内面：ナデ	橙褐色	赤色・白色粒子ごく少量	良	破片	内面：黒色処理
32	260	Ⅱ区2面A-3	-	243	土師器	坏	古墳後期	(12.0)	-	-	口縁端部：強いナデ、体部：ケズリ、内面：ナデ	橙褐色	白色粒子少量	良	破片	
32	261	Ⅱ区3面B-2	-	252	土師器	坏	古墳後期	-	-	-	体部：ケズリ、内面：ナデ	淡褐色	密	良	破片	外面：黒色処理
32	262	Ⅱ区3面	p230	203	土師器	埦	古墳	(14.0)	-	-	外・内面ともに摩滅著しく不明	橙褐色	白色粒子ごく少量	良	破片	
32	264	Ⅱ区3面	-	248	土師器	坏	古墳後期	(12.0)	-	(2.4)	口縁端部：強いナデ、体部：ケズリ、内面：ナデ	淡褐色	密	良	破片	
32	265	Ⅱ区3面A-3	-	260	土師器	坏	古墳後期	(14.0)	-	-	口縁端部：強いナデ、体部：ケズリ、内面：ナデ	淡橙色	白色粒子ごく少量	良	破片	
32	266	Ⅱ区2面	p22	30	土師器	甑	古墳	-	-	-	外・内面ともにナデ	淡橙色	赤色・白色粒子をごく少量	良	破片	
32	267	Ⅱ区3面	p466	7	土師器	甑	古墳	-	-	-	外・内面ともにナデ	淡橙褐色	赤色・白色粒子をごく少量	良	破片	
32	268	Ⅱ区3面	p253	192	土師器	台付甕	古墳	-	-	-	外・内面ともに摩滅著しく不明	橙褐色	白色粒子ごく少量	やや軟	破片	
32	269	Ⅱ区2面	p13	31	土師器	台付甕	古墳	-	-	-	外・内面ともに摩滅著しく不明	淡橙褐色	白色粒子ごく少量	やや軟	破片	
32	270	Ⅱ区3面	p296	201	土師器	高坏	古墳	(18.2)	-	-	外・内面ともに摩滅著しく不明	淡橙褐色	密	良	破片	摩滅
32	271	Ⅱ区3面	p56	20	土師器	高坏？	古墳	-	-	-	外・内面ともにナデ	橙褐色	密	良	破片	
32	272	Ⅱ区3面B-3	-	254	土師器	甕	古墳	-	-	-	外・内面ともにナデ	淡褐色	白色粒子ごく少量	良	破片	
32	273	Ⅱ区3面	p283,284	8	土師器	甕	古墳後期	(20.8)	-	-	外面口縁部：ナデ、内面・体部：ハケ	橙褐色	白色粒子少量	良	破片	
32	274	Ⅱ区3面A-3	-	215	土師器	坏	平安	-	-	-	外・内面ともにナデ	暗橙褐色	赤色・白色粒子ごく少量	良	破片	

図版No.	報告No.	出土位置	遺物番号	実測番号	種別	器種	時期	口径	器高	底径	整形	色調	胎土	焼成	残存率	備考
32	275	Ⅱ区	-	246	土師器	坏	平安	(12.0)	-	-	外・内面ともにナデ	橙褐色	赤色粒子少量	良好	破片	
32	276	Ⅱ区3面 A-3	-	242	土師器	坏	平安	(13.0)	-	-	外・内面ともにナデ	橙褐色	赤色・白色粒子ごく少量	良	破片	
32	277	Ⅱ区1面	p9	19	土師器	坏	平安	(13.6)	(4.2)	(6.0)	外・内面：ナデ、底部：回転糸切り痕	橙褐色	密	良	破片	
32	278	Ⅱ区3面 B-4	-	209	土師器	坏	平安	(14.0)	-	-	外・内面ともにナデ	橙褐色	赤色・白色粒子ごく少量	やや軟	破片	摩滅
32	279	Ⅱ区3面 B-4	-	208	土師器	蓋	平安	(14.0)	-	-	外・内面ともにナデ	橙褐色	赤色・白色粒子ごく少量	良	破片	
32	280	Ⅱ区3面	p519	193	土師器	甕	古墳	-	-	(6.0)	外・内面ともに摩滅著しく不明	淡褐色	白色粒子ごく少量	良	破片	
32	281	Ⅱ区2面	p170	36	土師器	甕？	-	-	-	(10.0)	外・内面ともに摩滅著しく不明	淡褐色	白色粒子ごく少量	良	破片	
32	282	Ⅱ区2面 A-2	-	205	土師器	甕	-	-	-	(14.0)	外・内面ともに摩滅著しく不明	淡橙褐色	白色粒子ごく少量	良	破片	
32	283	Ⅱ区3面	p320	37	土師器	甕	-	-	-	(8.6)	外面：ハケ、内面：ナデ、底面：木葉痕	橙褐色	白色粒子少量	良	破片	
32	284	Ⅱ区2面	p31	34	土師器	壺	-	-	-	(7.0)	底面：木葉痕	淡褐色	白色粒子ごく少量	良	破片	
33	285	Ⅱ区3面	p119	33	土師器	？	-	-	-	-	底面：木葉痕	淡橙褐色	赤色・白色粒子少量	良	破片	
33	286	Ⅱ区2面	-	35	土師器	？	-	-	-	(7.6)	底面：木葉痕	橙褐色	赤色・白色粒子少量	良	破片	
33	287	Ⅱ区1竪、遺構外	p492	78	土師器	壺	弥生～古墳	-	-	(10.0)	外面：ハケナデ、内面ナデ、底部：ハケ目	淡橙褐色	白色・黒色粒子少量	良	破片	
33	288	Ⅱ区1竪、遺構外	p469	76	土師器	-	-	-	-	(8.0)	外・内面：ハケナデ？	橙褐色	白色粒子少量	良	破片	摩滅
33	289	Ⅱ区3面 B-3	-	228	土師器	？	-	-	-	-	外内面ともに摩滅著しく不明	橙褐色	白色粒子ごく少量	軟	破片	外面：赤彩
33	290	Ⅱ区	-	231	土師器	？	-	-	-	-	外内面ともに摩滅著しく不明	橙褐色	密	良	破片	内外面ともに赤彩
33	291	Ⅱ区3面 A-3	-	235	土師器	？	-	-	-	-	外内面ともに摩滅著しく不明	淡褐色	密	軟	破片	内面：赤彩
33	292	Ⅱ区3面 B-3	-	234	土師器	？	-	-	-	-	外内面ともに摩滅著しく不明	淡橙褐色	密	軟	破片	内面：赤彩
33	293	Ⅱ区2面	-	227	土師器	？	-	-	-	-	外内面ともに摩滅著しく不明	淡褐色	密	やや軟	破片	内外面ともに赤彩
33	294	Ⅱ区2面	-	236	土師器	？	-	-	-	-	外内面ともに摩滅著しく不明	褐色	密	良	破片	内面：赤彩
33	295	Ⅱ区3面	p383	230	土師器	？	-	-	-	-	外面：ハケ？	淡褐色	白色粒子ごく少量	軟	破片	外面：赤彩
33	296	Ⅱ区3面	p392	229	土師器	？	-	-	-	-	外面：ハケ	淡褐色	密	良	破片	外面：赤彩
33	297	Ⅱ区3面 B-3	-	225	土師器	？	-	-	-	-	外面：ハケ	淡橙褐色	白色粒子ごく少量	軟	破片	外面：赤彩
33	298	Ⅱ区3面 A-2	-	232	土師器	？	-	-	-	-	外面：ミガキ	橙褐色	密	良	破片	内外面ともに赤彩
33	299	Ⅱ区	p6	226	土師器	？	-	-	-	-	外内面ともに摩滅著しく不明	橙褐色	白色粒子少量	良	破片	内外面ともに赤彩
33	300	Ⅱ区2面	p163	220	土師器	坏	古墳	(10.6)	-	-	口縁部：ヨコナデ、体部：ケズリ、内面：ナデ	橙褐色	赤色粒子少量	良	破片	外面：赤彩
33	301	Ⅱ区3面	p317	218	土師器	高坏	-	-	-	-	外内面ともに摩滅著しく不明	淡橙褐色	密	良	破片	内外面ともに赤彩
33	302	Ⅱ区3面	p321	221	土師器	坩	-	-	-	-	外面：ミガキ？	淡橙褐色	白色粒子をごく少量	良	破片	内外面ともに赤彩
33	303	Ⅱ区3面 A-3	-	245	土師器	埦	-	-	-	-	外内面ともにヨコナデ	橙褐色	密	良	破片	内外面ともに赤彩
33	304	Ⅱ区3面	p213	219	土師器	甕	-	-	-	(5.0)	外面：ハケ？	褐色	白色粒子ごく少量	良	破片	内面：赤彩
33	305	Ⅱ区3面	p229	271	須恵器	大甕	古墳後期	-	-	-	外内面ともにタタキ	灰色	密	良好	破片	
33	306	Ⅱ区3面	p521	266	須恵器	大甕	古墳後期	-	-	-	外内面ともにタタキ	灰色	密	良好	破片	
33	307	Ⅱ区3面	p462	267	須恵器	大甕	古墳後期	-	-	-	外内面ともにタタキ	灰色	密	良好	破片	
33	308	Ⅱ区3面	p527	274	須恵器	大甕	古墳後期	-	-	-	外内面ともにタタキ	灰色	密	良好	破片	
38	390	立会い東トレンチ	-	334	土師器	坏	古墳後期	(12.0)	(9.4)	-	口縁端部：強いナデ、体部：ケズリ、内面：ナデ	褐色	赤色粒子ごく少量	良	70%	
38	391	立会い東トレンチ	-	338	土師器	坏	古墳後期	-	-	-	外面：ナデ・ケズリ、内面：ナデ	暗褐色	赤色粒子ごく少量	良	破片	内面：黒色処理
38	392	立会い東トレンチ	-	337	土師器	坏	古墳後期	(13.0)	-	-	外面：ナデ・ケズリ、内面：ナデ	淡褐色	白色粒子少量	良	破片	
38	393	立会い東トレンチ	-	335	土師器	坏	古墳後期	(13.2)	(9.0)	-	口縁部：強いナデ、体部：ケズリ、内面：ナデ	淡褐色	赤色粒子・金雲母ごく少量	良好	40%	内面：黒色処理
38	394	立会い東トレンチ	-	339	土師器	坏	古墳後期	(14.6)	-	-	口縁部：強いナデ、体部：ケズリ、内面：ナデ	淡橙褐色	赤色粒子	やや軟	破片	
38	395	立会い東トレンチ	-	336	土師器	坏	古墳後期	(20.0)	-	-	口縁部：強いナデ、体部：ケズリ、内面：ナデ	暗褐色	赤色・白色粒子少量	良	破片	
38	396	立会い東トレンチ	-	347	土師器	？	-	-	-	-	外・内面ともに摩滅著しく不明	橙褐色	白色粒子・角閃石少量	良	破片	内面：赤彩
38	397	立会い東トレンチ	-	341	土師器	甕	古墳	(22.0)	-	-	口縁端部：ナデ、体部：ハケナデ、内面：ナデ	橙褐色	赤色・白色粒子少量	良	破片	
38	398	立会い東トレンチ	-	344	土師器	甕	古墳後期	-	-	-	外・内面ともにハケ	橙褐色	赤色・白色粒子少量	良好	破片	
38	400	立会い東トレンチ	-	343	土師器	甕	古墳後期	-	-	-	外面：ハケナデ、内面：ナデ	暗橙褐色	赤色・白色粒子ごく少量	良	破片	
38	401	立会い東トレンチ	-	342	土師器	甕？	-	-	-	(6.0)	外・内面ともに摩滅著しく不明	橙褐色	白色粒子・金雲母ごく少量	やや軟	破片	
38	402	立会い東トレンチ	-	340	土師器	甕	-	-	-	(8.2)	外面：ハケ、内面：ナデ	淡橙褐色	白色粒子・角閃石ごく少量	良好	破片	
38	403	別表		352	磁器	別表										
38	404	別表		353	磁器	別表										
38	405	別表		346	陶器	別表										
38	406	別表		349	陶器	別表										
38	407	別表		348	磁器	別表										
38	408	別表		351	磁器	別表										
38	409	別表		350	磁器	別表										

第３章　自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

甲府城下町遺跡（甲府地方裁判所地点）は、山梨県甲府市中央に所在し、後背の丘陵地から流下する相川が形成した扇状地扇端付近に立地している。本遺跡ではⅠ・Ⅱ区の２箇所で発掘調査が実施され、Ⅰ区では地山とされる堆積物の削剥と、その上位に水平堆積する堆積物が確認された。当地区は、甲府城二の堀の一部に該当する可能性も指摘されるため、上位に堆積する土層の年代や当時の古環境の検証が課題とされた。

本報告では、Ⅰ区で確認された堆積物の年代観および古植生復元、Ⅱ区の深堀で確認された泥炭とされる黒色の泥質土堆積時の古植生復元を目的として、放射性炭素年代測定および花粉分析を実施する。

第１節　放射性炭素年代測定および花粉分析

１．試料

試料は、Ⅰ区1･7層、Ⅱ区6･11層から採取された土壌４点である。これらの試料の肉眼観察では、Ⅰ区１層は褐色砂質土、同７層は酸化鉄が発達する暗褐色を呈する泥質土、Ⅱ区11層は酸化鉄が発達する黒褐色を呈する泥質土、同16層は団粒化が認められる黒色を呈する泥質土である。なお、Ⅱ区の土壌試料は、深堀トレンチに認められた堆積物である（図１）。発掘調査所見によれば、下位より16～１層に分層され、最下位の16層は黒色粘土、15層は暗褐色粘質土、14層は暗褐色粘質土、13層は粗粒砂を少量含む橙褐色粘質土、12層は橙褐色粗粒砂混じり粘質土、11層は細礫、橙褐色土粒、焼土粒、炭化物粒をわずかに含む黒褐色粘質土、10層は灰褐色シルト質土、５層は橙褐色粗粒砂、４層は黒褐色砂質土とされており、４層からは古墳時代の遺物が出土している。

分析調査は、上記の試料のうちⅠ区７層より抽出した炭化物２試料について放射性炭素年代測定を、Ⅰ区1･7層、Ⅱ区16層を対象に花粉分析を行う。なお、Ⅰ区１層については、試料の観察所見から微化石類の産状は不良と判断されたため、追加試料としてⅡ区11層も花粉分析試料に供している。

２．分析方法

(1) 放射性炭素年代測定

本分析では、堆積物の年代観の検証が目的とされたことから、放射性炭素年代測定の対象試料候補とされたⅠ区７層、Ⅱ区11･16層より有機物（炭化物や植物遺体など）の抽出を行った。各試料の肉眼観察結果では、炭化物や植物遺体を確認できなかったため、各試料500cc（Ⅰ区７層：911.1g、Ⅱ区11層：885.78g、同16層：829.1g）について水洗選別法による試料の抽出を行った。その結果、Ⅰ区７層から炭化物･不明炭化植物遺体0.05g、Ⅱ区11層から炭化物0.03g、Ⅱ区16層から炭化物0.89gが確認されことから、調査担当者と打合せ結果に基づき、Ⅰ区７層炭化物（炭化材、不明炭化植物遺体）を放射性炭素年代測定試料に供した。

試料は、超音波煮沸洗浄と酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム1N, 塩酸1.2N）により、不純物を取り除いたあと、グラファイトを合成し、測定用試料とする。測定機器は、NEC製コンパクトAMS･1.5SDHを用いる。放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1,950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.0(Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer)を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。

(2) 花粉分析

試料約10gについて、水酸化ナトリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛, 比重2.3）による有機物の分離、フッ

化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス（無水酢酸 9:濃硫酸 1 の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、400 倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。

3．結果

(1) 放射性炭素年代測定

同位体効果による補正を行った測定結果（補正年代）は、I 区 7 層炭化物（炭化材）は 955 ± 20BP、同試料炭化物（炭化植物遺体）は 930 ± 20BP を示す（表 1)。また、暦年較正結果（測定誤差σ）は、炭化物（炭化材）は calAD 1,029-1,149、炭化物（炭化植物遺体）は calAD 1,042-1,117 である（表 2)。

なお、暦年較正とは、大気中の 14C 濃度が一定で半減期が 5,568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の 14C 濃度の変動、及び半減期の違い（14C の半減期 5,730 ± 40 年）を較正することである。暦年較正に関しては、本来 10 年単位での表記が通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、本報告では 1 年単位で表記している。暦年較正結果は、測定誤差σ、2σ双方の値を計算する。σは統計的に真の値が 68%の確率で存在する範囲、2σは真の値が 95%の確率で存在する範囲である。表中の相対比とは、σ、2σの範囲をそれぞれ 1 とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

(2) 花粉分析

結果を表 3 に示す。表中で複数の種類をハイフォンで結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。いずれの試料も検出される花粉化石は少なく、定量分析に有効な個体数は得られなかった。また、わずかに検出された花粉化石の保存状態も不良であり、大部分は花粉外膜が破損・溶解している状態であった。以下に、各試料の産状を示す。

I 区 7・1 層は、イネ科がわずかに 1 個体ずつ検出されたのみである。II 区 16 層は、木本花粉ではツガ属やマツ属、スギ属が、草本花粉ではイネ科、ヨモギ属、タンポポ亜科が 1 ～ 3 個体検出されるのみである。II 区 11 層は、木本花粉ではモミ属やツガ属、スギ属、ニレ属－ケヤキ属が、草本花粉ではイネ科、ナデシコ科、ヨモギ属、キク亜科が 1 ～ 7 個体検出される。

表 1.　放射性炭素年代測定結果

地区名	層位	試料の質	補正年代 BP	δ 13 C (‰)	Code No.	測定機関番号
I 区	7 層	炭化材	955 ± 20	-26.69 ± 0.16	9713-1	PLD-8638
		炭化物	930 ± 20	-26.59 ± 0.17	9713-2	PLD-8639

1) 年代値の算出には、Libby の半減期 5,568 年を使用。
2)BP 年代値は、1,950 年を基点として何年前であるかを示す。
3) 付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の 68%が入る範囲）を年代値に換算した値。

表 2.　暦年較正結果

地区名	層位	補正年代 (BP)		暦年較正年代（cal）	相対比	相対比	Code No.
I 区	7 層	953 ± 18	σ	cal AD 1,029 - cal AD 1,047	cal BP 921 - 903	0.294	9713-1
				cal AD 1,089 - cal AD 1,121	cal BP 861 - 829	0.550	
				cal AD 1,139 - cal AD 1,149	cal BP 811 - 801	0.156	
			2σ	cal AD 1,023 - cal AD 1,057	cal BP 927 - 893	0.298	
				cal AD 1,076 - cal AD 1,154	cal BP 874 - 796	0.702	
		931 ± 18	σ	cal AD 1,042 - cal AD 1,054	cal BP 908 - 896	0.153	9713-2
				cal AD 1,078 - cal AD 1,107	cal BP 872 - 843	0.375	
				cal AD 1,117 - cal AD 1,117	cal BP 833 - 833	0.472	
			2σ	cal AD 1,036 - cal AD 1,156	cal BP 914 - 794	1.000	

1) 計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02（Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer）を使用
2) 計算には表に示した丸める前の値を使用している。

4．考察

I区7層から抽出された炭化物は、いずれも11～12世紀中頃の年代を示した。本分析結果を参考とすると、7層より下位に認められた地山はそれ以前の堆積物と推定される。

花粉分析の結果、11～12世紀頃の堆積物と考えられるI区7層を含む4試料は、いずれも花粉化石の産出状況は不良であり、古植生推定のための定量解析を行うことができなかった。

花粉化石・シダ類胞子の産出状況が悪い場合、元々取り込まれる花粉量が少なかった、あるいは、取り込まれた花粉が消失した、という要因が考えられる。一般的に、花粉やシダ類胞子の堆積した場所が、常に酸化状態にあるような場合、花粉は酸化や土壌微生物によって分解・消失するとされている（中村,1967; 徳永・山内,1971; 三宅・中越,1998など）。検出された花粉化石の保存状態を考慮すると、土層中に取り込まれた花粉・シダ類胞子は、その後の経年変化により分解・消失したと推定される。

表3. 花粉分析結果

種　類	I区		II区	
層位	1層	7層	6層	11層
木本花粉				
モミ属	-	-	2	-
ツガ属	-	-	3	1
マツ属	-	-	-	3
スギ属	-	-	1	1
ニレ属－ケヤキ属	-	-	1	-
草本花粉				
イネ科	1	1	5	1
ナデシコ科	-	-	2	-
ヨモギ属	-	-	7	1
キク亜科	-	-	1	-
タンポポ亜科	-	-	-	1
不明花粉	-	-	3	-
シダ類胞子				
イノモトソウ属	-	-	1	-
他のシダ類胞子	1	3	49	26
合　計				
木本花粉	0	0	7	5
草本花粉	1	1	15	3
不明花粉	0	0	3	0
シダ類胞子	1	3	50	26
総計（不明を除く）	2	4	72	34

なお、II区試料は、I区と比べやや多くの花粉化石が検出された。古植生を検討するまでは至らないが、検出された種類から周辺にモミ属、ツガ属、マツ属、スギ属、ニレ属－ケヤキ属等の木本類、イネ科、ナデシコ科、ヨモギ属、キク亜科、タンポポ亜科等の草本類の生育が窺われる。本遺跡東方に所在する大坪遺跡（甲府市横根町）の古墳時代中期～古代の堆積物の花粉分析結果では、スギを主体にヒノキ類、モミ属、ツガ属を交えた温帯性針葉樹や、コナラ属コナラ亜属等の落葉広葉樹が周辺丘陵部に優勢であり、低地部にはイネ科を主体とした沼沢地環境が広がり、比較的乾いたところにカヤツリグサ科、クワ科、アカザ科－ヒユ科、ヨモギ属等が生育していたとされている（鈴木,2002)。II区11･16層は古墳時代以前の堆積物と推定され、上記した事例とやや時代が異なるが、今回検出された種類は、後背の丘陵・山地部や低地部等の植生を反映している可能性がある。

引用文献

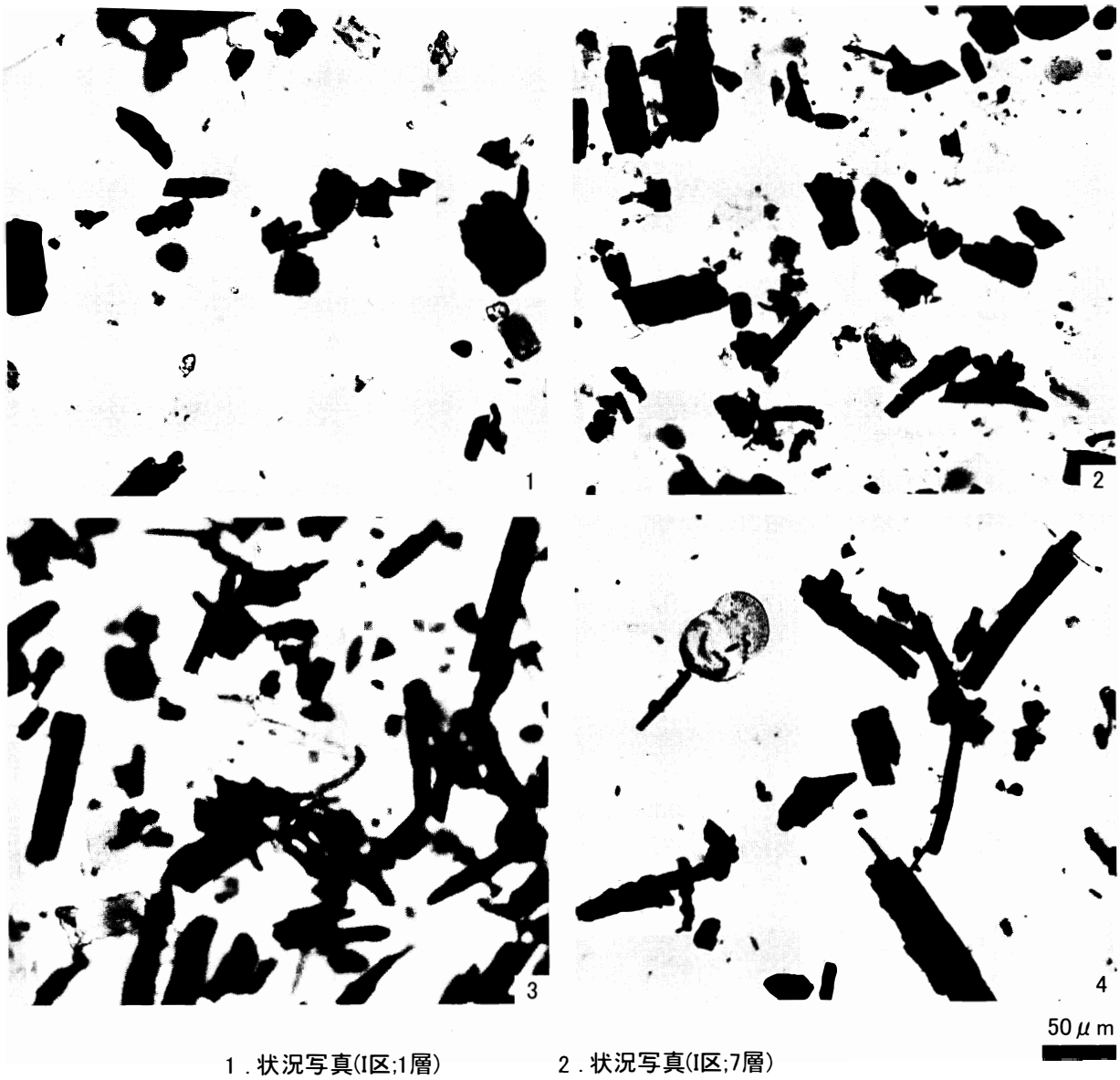
三宅　尚・中越　信和,1998, 森林土壌に堆積した花粉・胞子の保存状態. 植生史研究,6,15-30.

中村　純,1967, 花粉分析. 古今書院,232p.

鈴木　茂,2002, 大坪遺跡東区の花粉化石. 大坪遺跡－平成12年度調査地点の報告－, 社会福祉法人　清翔会・大坪遺跡発掘調査会,34-39

徳永　重元・山内　輝子,1971, 花粉・胞子. 化石の研究法, 共立出版株式会社,50-73.

図版1　花粉分析プレパラート内の状況写真



1．状況写真(I区;1層)　　2．状況写真(I区;7層)
3．状況写真(II区;11層)　　4．状況写真(II区;16層)

第５章　まとめ

第１節　Ｉ区

１．遺構

Ｉ区では明確な遺構は見られなかったが、「二の堀」確認のためＩ区全体の土層観察で見られた、地山が切られた土層について考えてみたい。これは、甲府地方裁判所地点から南へ 750m ほどのところにある中央１丁目 188 番地地点の調査で「二の堀」跡が確認されたことから、今回の調査地点にも「二の堀」がかかる可能性があったため、調査の目的となったことは先述したとおりである。

まず両者の土層状況を比較してみると、中央１丁目 188 番地地点の「二の堀」跡内土層堆積を見ると、しまりの度合いが異なる土がランダムに重なる状況を示しており、Ｉ区の水平堆積の状況とは大きく異なっている。また中央１丁目 188 番地地点の堀跡内からは陶磁器や木製品などの遺物が多く出土しており、Ｉ区では遺物の出土が全く見られないという点と比べても大きく異なっている。

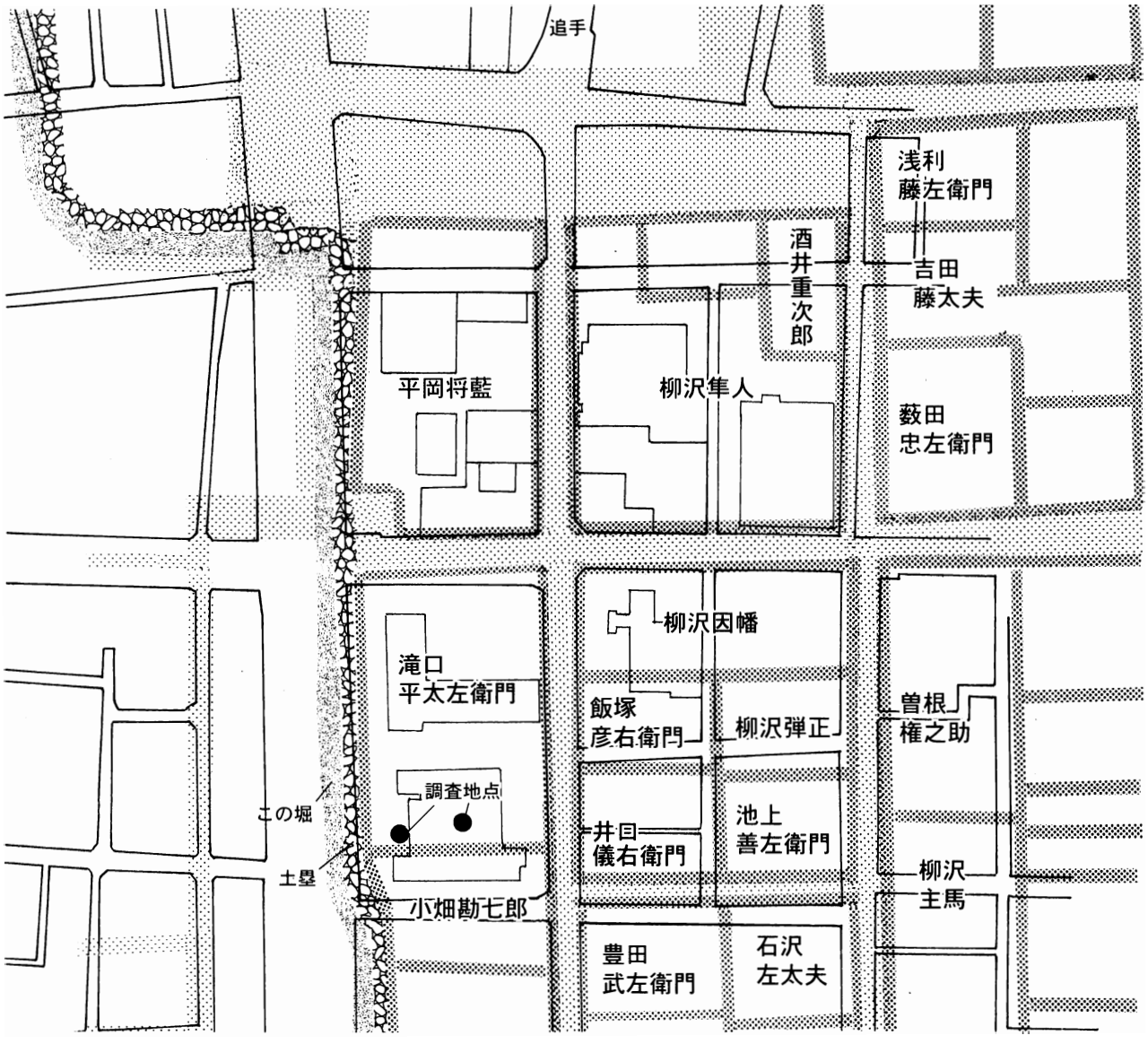
江戸時代において「二の堀」はその内側の武家地と外側の町人地を分けていたとされるが、明治時代に至ると管理が不行き届きとなり物が投げ入れられたり、その結果堀内の水が汚れて腐敗臭が漂ったりした。また藤村県令による‘前時代的な構造物を排除し近代的な街並みを作り上げていく’という動きの中で、通行の妨げとなる「二の堀」は埋め立てられた。その一部は側溝のような形で昭和 45 年頃まで残されていた部分もあったという。このように、明治初期にかなりの部分が人力によって一気に埋められたと考えられるが、Ｉ区の土層堆積からはそのような埋め立ての状況は観察されなかった。しかしながらある段階でもともとあった地山が切り取られて、そのあとに砂や土、粘土などが堆積したことは明らかであった。これがもし堀の堆積だと考えるのならば、底に近い位置で厚さ 25㎝ほどの砂の堆積がみられることから堀内の流れは、例えば川のようにある程度の流れをともなったものになる（註１）。堀が甲府城を中心にめぐっていたものであると考えれば、そこは水が閉ざされた場所であり、堀の中で水がごうごうと音をたてて流れていた状況は想像しがたい。また中層あたりで若干土壌化した堆積層が見られるが、これが堀の中だったとすると、一時的に堀内が干上がっていた時期があったことになる(註 2)。さらにこの土壌化した堆積層中に含まれる炭化物２点について ^{14}Ｃ年代測定を行なったところ、２点ともに 11 ～ 12 世紀中頃にあたる年代値が得られている。今回Ｉ区で確認された土層は中央１丁目 188 番地地点における「二の堀」跡の土層堆積とは大きく異なっており、また先の調査で見つかっているような近代の側溝となった堀の名残も発見されなかった。

現在の地形図（2 万 5 千分の一）に、柳沢吉保・吉里が甲府城主だった時代を描いた絵図を重ね合わせてみると（第 43 図)、「二の堀」は今回の調査区付近では、ほぼ平和通りを走っていたことになる。また幕末に描かれた「懐宝甲府絵図」によれば、南北方向に走っている「二の堀」は調査地周辺で若干西に振れている様子が描かれており、これからすればＩ区よりももっと西側の平和通りに寄った位置にある可能性が大きいであろう。また「写真集　甲府物語」によると、甲府地方裁判所のビルよりもかなり西側に小さな堀が映し出されている写真があり、これからするとやはり今の歩道がある辺りにこの「二の堀」の名残である小さな堀があったものと思われる。以上の状況を考え併せると、やはり甲府地方裁判所地点のあたりでは「二の堀」は裁判所敷地内を通らずにもっと西寄りを、つまりほぼ平和通りに沿う形で南北に延びていたと考えられる。そしてＩ区で見られた地山が切られた状況を示す土層は、旧河道である可能性が大きいのではないだろうか。

(註１)（註２）
帝京大学山梨文化財研究所　河西学氏のご教示による

２．遺物

Ｉ区では上層で陶磁器類の出土が見られた。遺物集中区より発見されたものは幕末～明治時代の所産と考えら



第 42 図　調査地点周辺の江戸時代中頃における土地利用

れるが、中には小倉焼（こごえやき）と呼ばれる県内窯の焼き物も含まれていた。小倉焼は北杜市須玉町小倉地区で生産されていた焼き物で、明治時代初期に生産が始まった。当初は素焼きの焼き物であったが、明治 27 年頃に奥田信斎が移り住んでからは釉薬を掛けた陶器が生産されるようになった。今回Ｉ区から出土したものは釉薬が掛かっているため、この時期以降につくられたものと考えられる。

また遺物集中区からではないが、同じくＩ区から単独で出土した志野焼の鉢は底面見込み部に「春岱」の銘があり、これによって尾張の陶工「加藤春岱」による作品であることが明らかとなった。「春岱」銘のある陶器片は「加藤春岱」が活躍した赤津焼のお膝元、愛知県瀬戸市に所在する凧山屋敷遺跡でも見つかっているが、発掘調査での名のある陶工による作品の出土は稀な例であると言える。

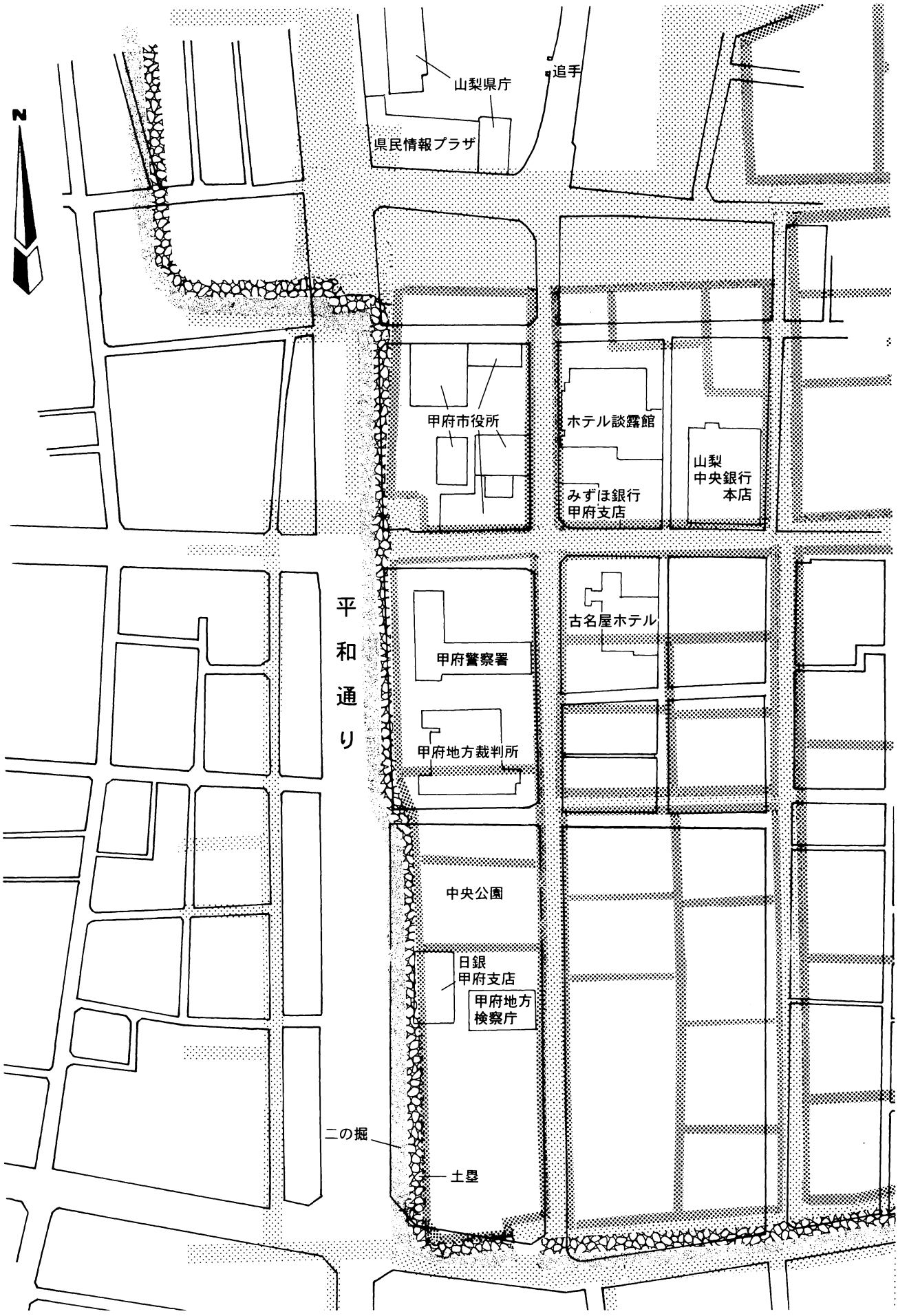
第２節　Ⅱ区

１．遺構

江戸時代（２面）

調査区北側で溝が４条検出されているのみで、他に遺構は発見されなかった。

「甲府御城下絵図」（柳沢文庫蔵）によれば調査地周辺は、江戸時代中期、柳沢吉保・吉里が甲府城主だった頃、その家臣で家老の「滝口平太左衛門」の屋敷地の南端から、同じく御寄合の「小畑勘七」の屋敷地の北端にかか



第43図 「甲府御城下絵図」の地区割りと現在の町並み

る辺りであると推定される。屋敷地の地境の溝などが検出される可能性もあったが、場所的にも屋敷地のはずれにあたるため、また調査対象地がごく狭い範囲であったため明確な遺構が検出されなかったものとみられる。

また幕末に描かれた絵図によると「御薬園」があった場所にあたり、それまでの武家屋敷地としての土地利用とは大きく変わっているので、今回明確な遺構が発見されなかったのには、その後の土地改変が大きかったこともひとつの要因として考えられるのではないだろうか。

古墳時代（３面）

地表下１ｍほどの黒褐色土から、弥生時代末～平安時代の土器片が多く出土した。時期的には古墳時代を中心としている。この土を掘り下げていったところ、竪穴状遺構４基とピット４基が検出された。遺構の性格については不明であるが焼土なども検出されていることから、近くに生活の主体があった可能性もある。特に、立会い調査を行なったⅡ区西側の東トレンチでは、焼土粒や炭化物粒を多く含んだ土層中から、摩滅していない坏類が出土していることもこれを裏付けている。

周知の埋蔵文化財包蔵地である「甲府城下町遺跡」から、このような遺構を伴った城下町以前の遺跡が見つかる事は稀であるが、今回の調査地点に近い百人町の立会い調査などでは地表下１ｍの黒褐色土層中から土師器の壷も確認されていることから、今回の調査地点一帯には城下町形成以前の古い遺跡が眠っている可能性も大いにある。

２．遺物

江戸時代（２面）

溝や２面から陶磁器類の出土が見られたが、いずれも破片であり主体的なものではなかった。

古墳時代（３面）

先に述べたように、若干の江戸時代遺物の混在もあるが、３面からは弥生時代末～平安時代の遺物がパックされた状態で出土した。その多くが古墳時代の土師器片であるが、中には完形に近い古墳時代前期の台付甕や甕なども含まれていた。弥生時代末～古墳時代前期の口縁部に刻みをもつ甕の破片も何点か見られるが、Ｓ字状口縁をもつ甕は小さな破片も含め全く見られなかった。後期では坏や須恵器・甕の破片や須恵器・無蓋高坏の破片も見られた。また破片ではあるものの、赤彩されたものも比較的目についた。日常的に使われる甕や壷などの器種とともに、非日常的な器種である須恵器・甕や高坏が含まれていることは特筆される。特に須恵器・無蓋高坏は長脚の無蓋高坏と考えられ、一般的な集落からの出土はあまり見られない器種であり、近くに後期古墳などが存在した可能性も否めない。

第３節　おわりに

今回の調査地点は「甲府城下町遺跡」の一角でありながらも、甲府城下町に関わる遺構は「二の堀」を含めてほとんど発見されなかった。しかしながら、今回の調査により「二の堀」は甲府地方裁判所のあたりではほぼ平和通りを走っていること、柳沢時代の町並みを描き写した「甲府御城下絵図」の距離感やその位置関係はほぼ正確であることが明らかとなった。

また著しい開発の歴史を持つ甲府市中心部に所在する周知の埋蔵文化財包蔵地「甲府城下町遺跡」において、はるか城下町以前である弥生時代末～平安時代の遺物や遺構が発見されたことは大きな成果であった。今後「甲府城下町遺跡」内の調査を行う際には、先入観にとらわれず、城下町以前の土層確認を行ないながら調査を進めていく必要性がある。

写真図版

調査区全景：南から北をのぞむ

調査区全景：II区

写真図版目次

図版１　調査区全景、調査区配置図

図版２　Ⅰ区（真上から）
Ⅱ区（真上から）

図版３　Ⅰ区西側土層
調査風景（Ⅰ区）
表土剥ぎの様子（Ⅱ区）
Ⅱ区１面全体

図版４　坏出土状況：報告№ 277　（Ⅱ区１面）
調査風景（Ⅱ区）
溝　（Ⅱ区２面）
竪穴状遺構１ 完掘状況（Ⅱ区３面）

図版５　竪穴状遺構１内　礫集中
台付甕出土状況１
台付甕出土状況２
台付甕出土状況３

図版６　遺物出土状況１
遺物出土状況２
甕出土状況
須恵器片出土状況

図版７　無蓋高坏破片出土状況
竪穴状遺構２　遺物出土状況１
竪穴状遺構２　完掘状況
竪穴状遺構２内　遺物出土状況２

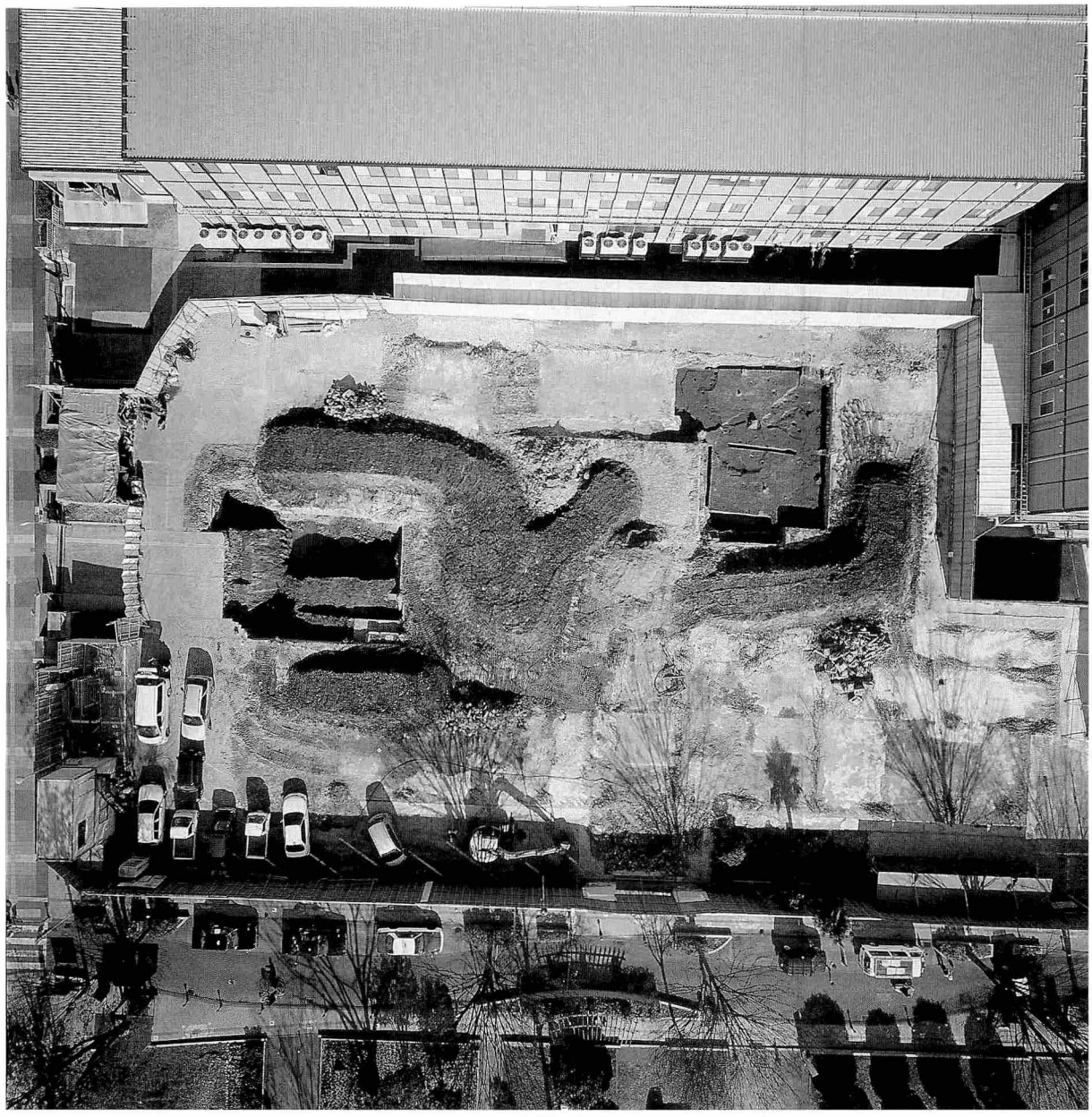
図版８　竪穴状遺構２内　甕出土状況
調査風景（Ⅱ区）
竪穴状遺構３　完掘状況（上から）
竪穴状遺構３　完掘状況（東から）

図版９　竪穴状遺構３内　遺物出土状況
竪穴状遺構３内　焼土出土状況
竪穴状遺構１・２・３・４　完掘状況
高坏脚部出土状況

図版 10　底部出土状況
ピット　土層の様子
ピット　完掘状況
調査区北壁　土層の様子

図版 11　調査区西壁　土層の様子１
調査区西壁　土層の様子
立会い調査　西トレンチ（Ⅱ区西側）
立会い調査　東トレンチ（Ⅱ区西側）

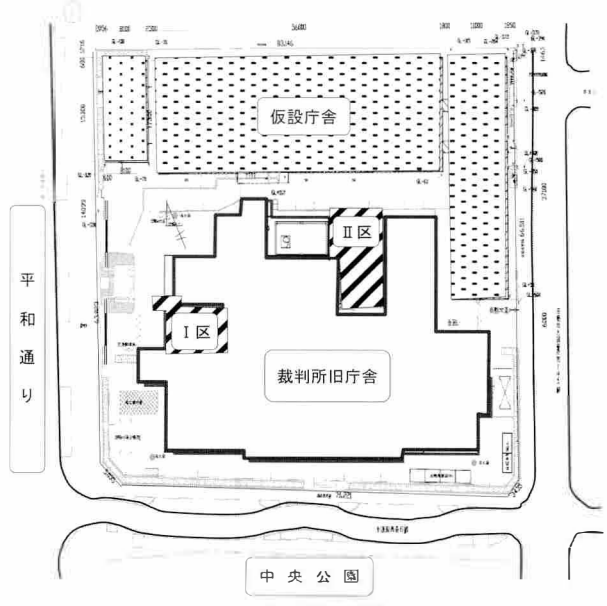
図版 12　立会い調査　土層調査の様子（Ⅰ区南側）
立会い調査　井戸（手前カラーコーン部）
立会い調査　井戸（真上から）
立会い調査　井戸の木枠の様子



調査区全景

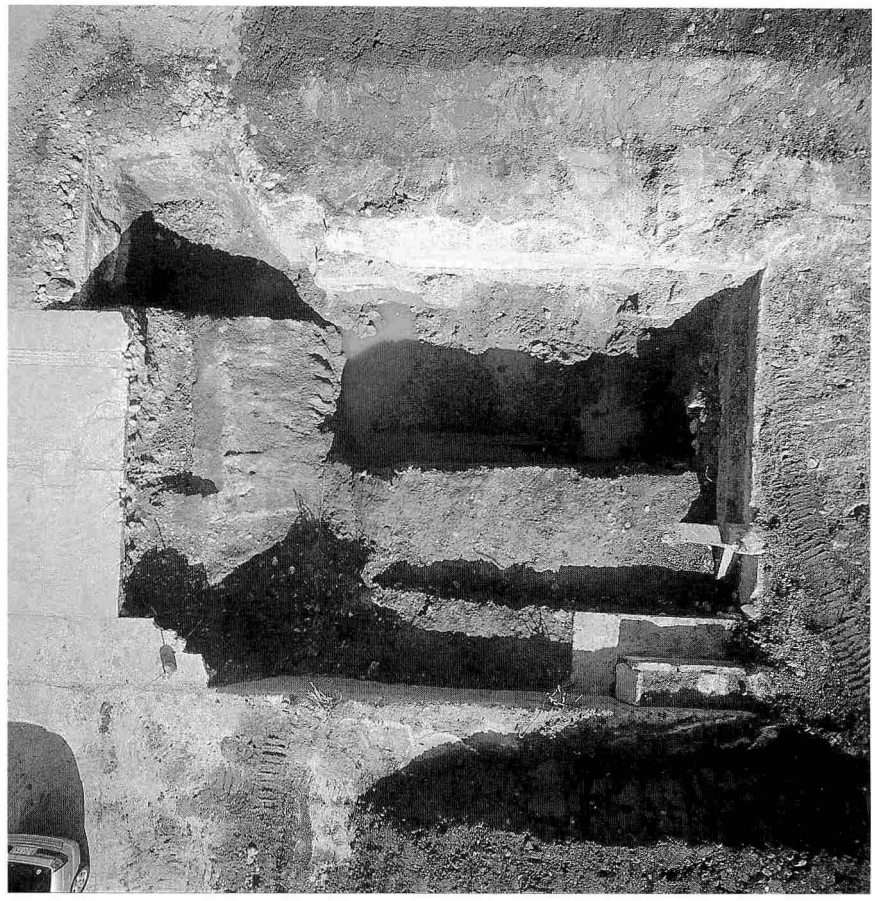
調査対象地は、旧裁判所庁舎が建っていた場所であったため、その建物基礎が入っていない部分を選んで調査区を設定した。

Ⅰ区は旧庁舎の正面玄関部分、Ⅱ区は同じく中庭部分にあたる場所である。

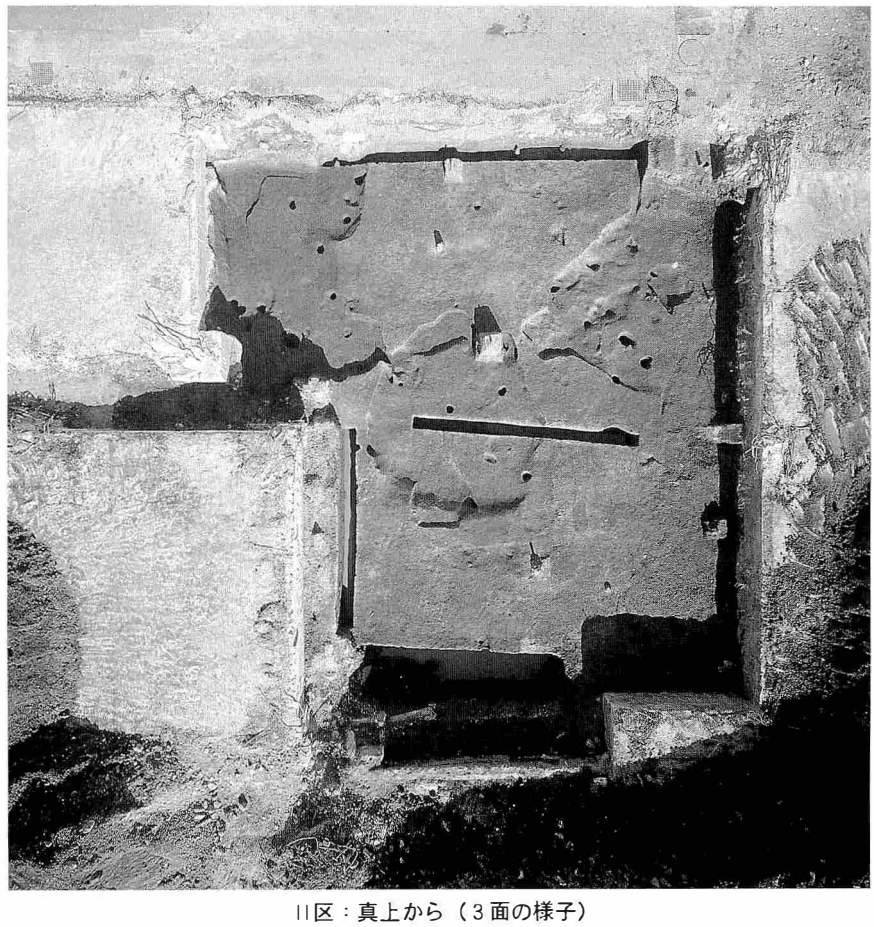


調査区配置図

図版 2



I 区：真上から（左が平和通り側）



II区：真上から（3面の様子）

Ⅰ区：調査区西側土層

Ⅰ区：調査風景

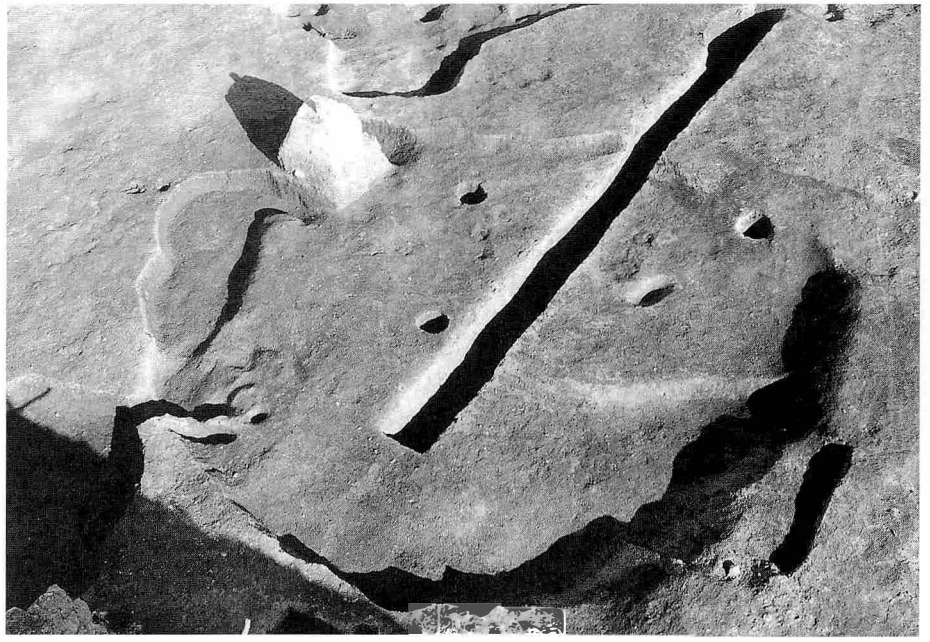
Ⅱ区：表土剥ぎの様子

Ⅱ区：１面

II区１面：遺物出土状況

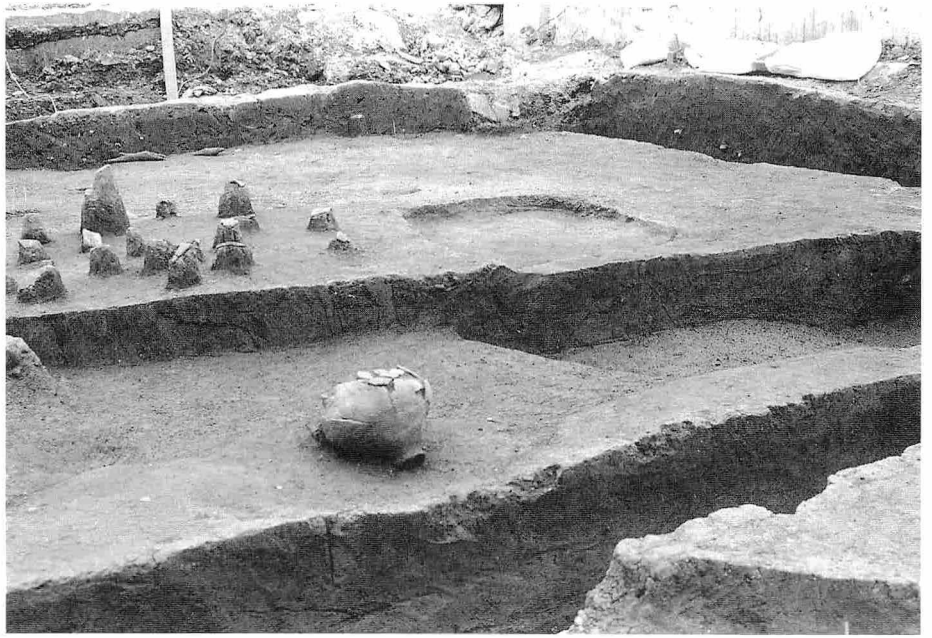
II区：調査風景

II区２面：溝３完掘状況



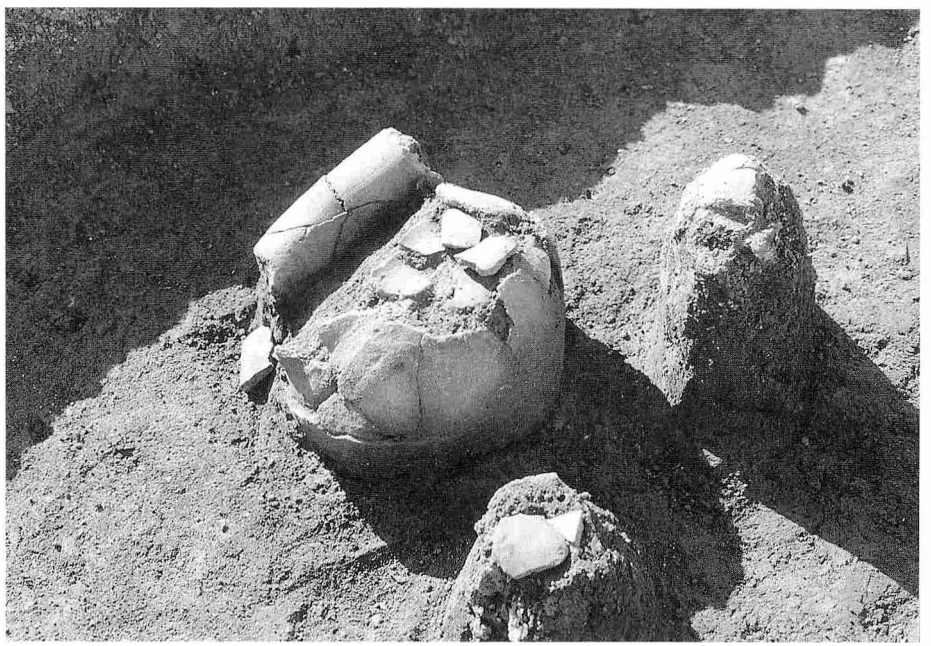
II区３面：竪穴状遺構１　完掘状況

II区３面：竪穴状遺構１内　集石

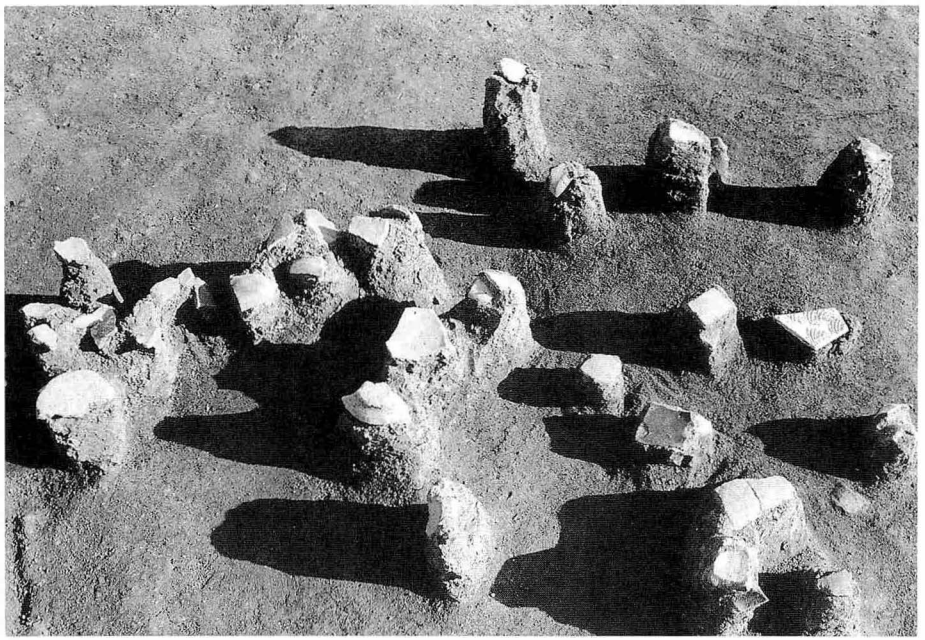


II区３面：竪穴状遺構１内　遺物出土状況

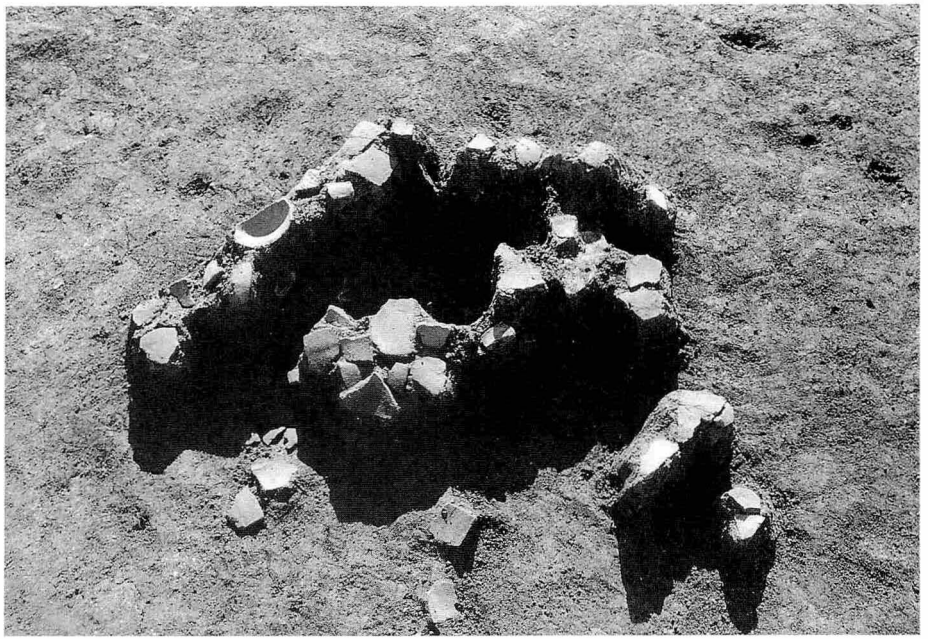
II区３面：竪穴状遺構１内　台付甕　出土状況(1)



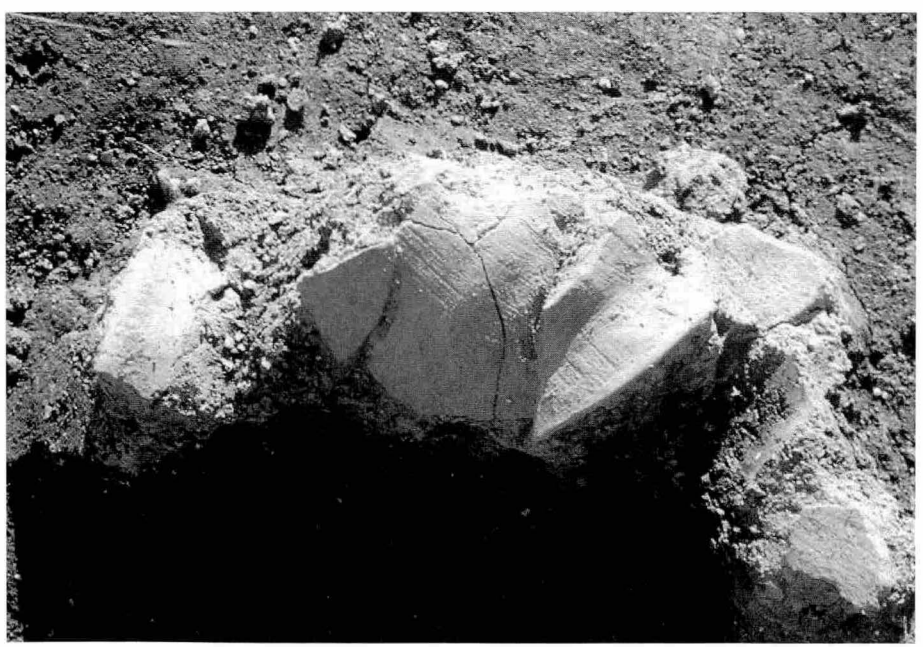
II区３面：竪穴状遺構１内　台付甕　出土状況(2)



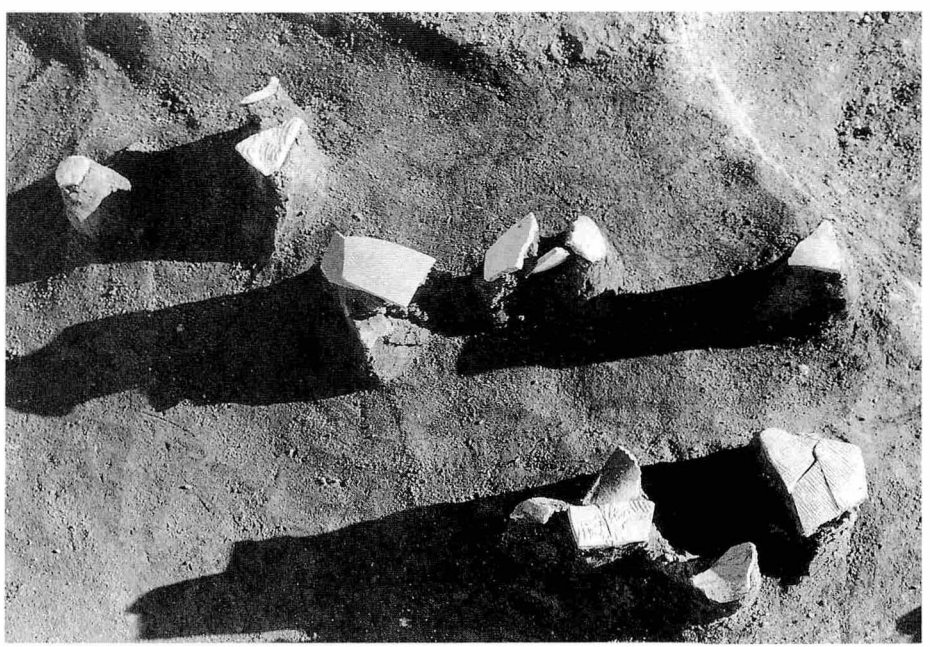
II 区 3 面：遺物出土状況(1)



II 区 3 面：遺物出土状況(2)



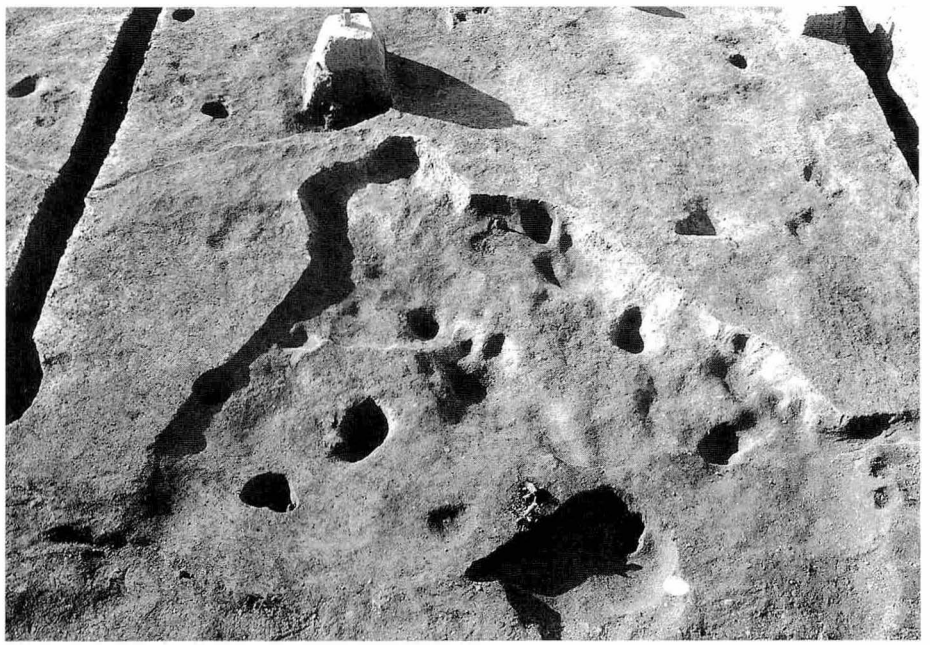
II 区 3 面：甕出土状況



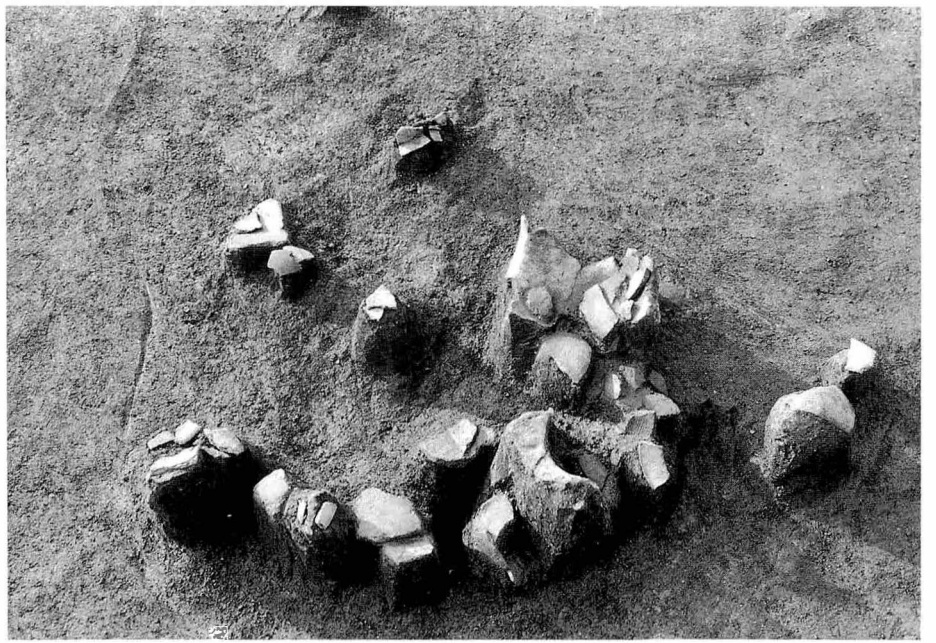
II 区 3 面：須恵器片出土状況

II区３面：須恵器　無蓋高坏　坏部　出土状況

II区３面：竪穴状遺構２　遺物出土状況(1)



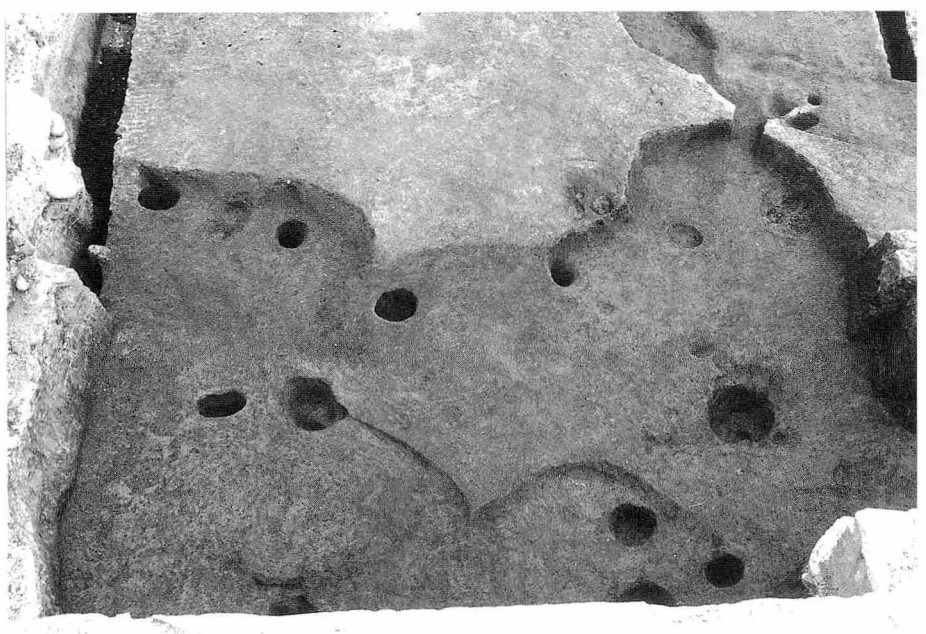
II区３面：竪穴状遺構２　完掘状況



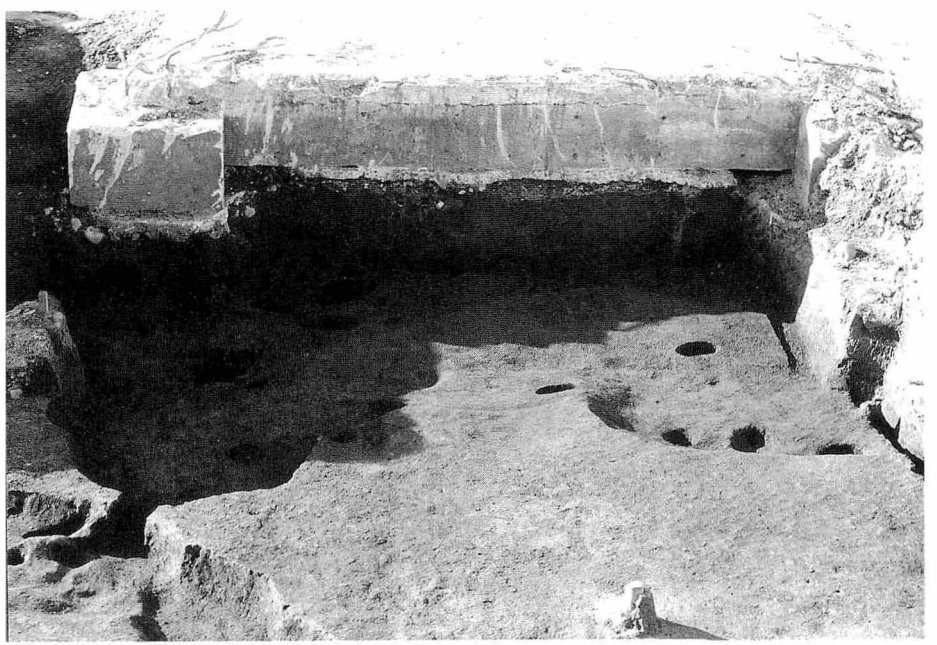
II区３面：竪穴状遺構２内　遺物出土状況(2)

Ⅱ区３面：竪穴状遺構２内　遺物出土状況(2)アップ

Ⅱ区３面：調査風景



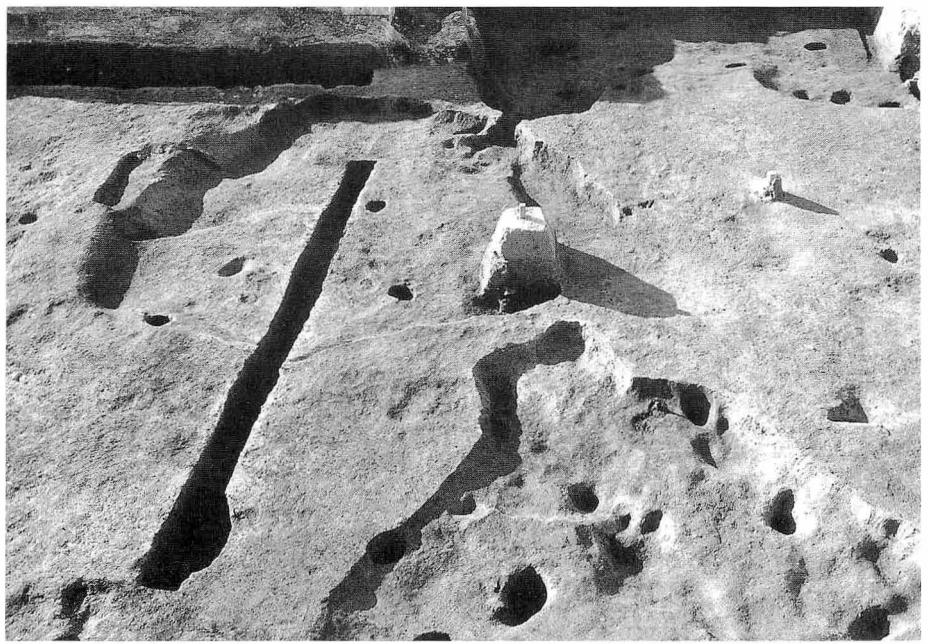
Ⅱ区３面：竪穴状遺構３・４　完掘状況



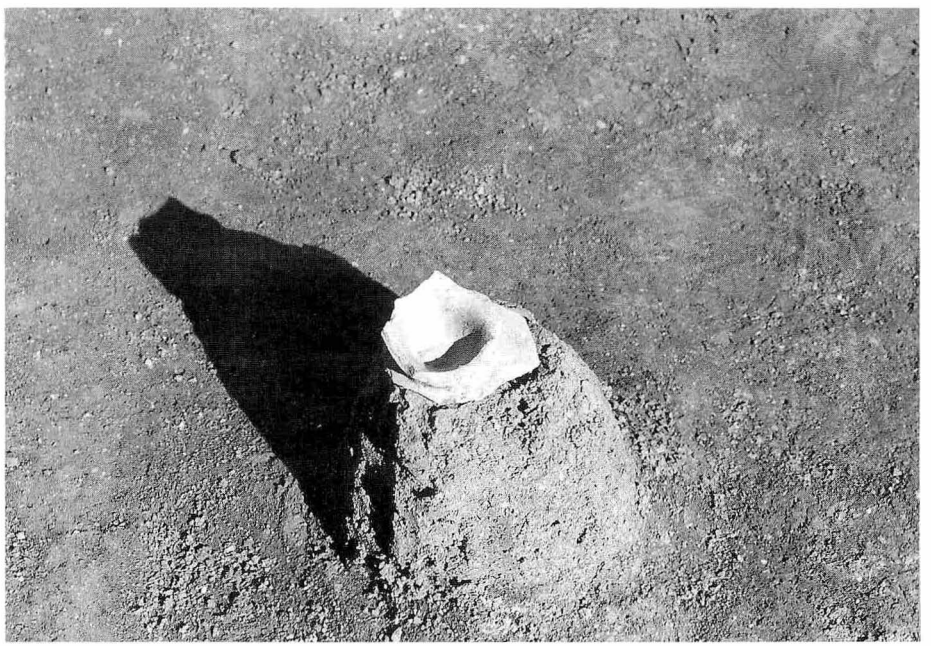
Ⅱ区３面：竪穴状遺構３・４　完掘状況（東から）

II 区 3 面：竪穴状遺構 4 内　遺物出土状況

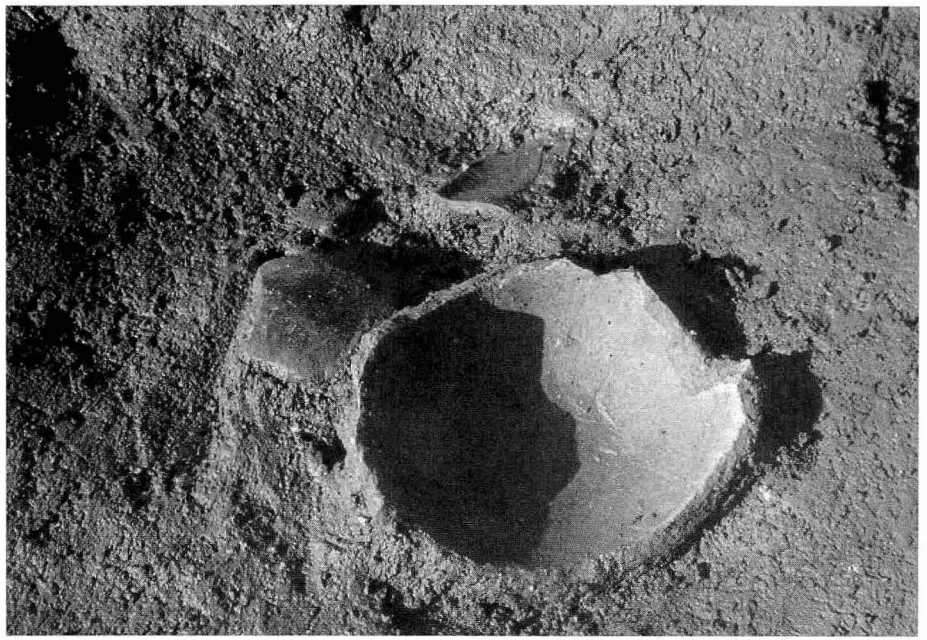
II 区 3 面：竪穴状遺構 3 内　焼土検出状況



II 区 3 面：竪穴状遺構 1 ・ 2 （東から）

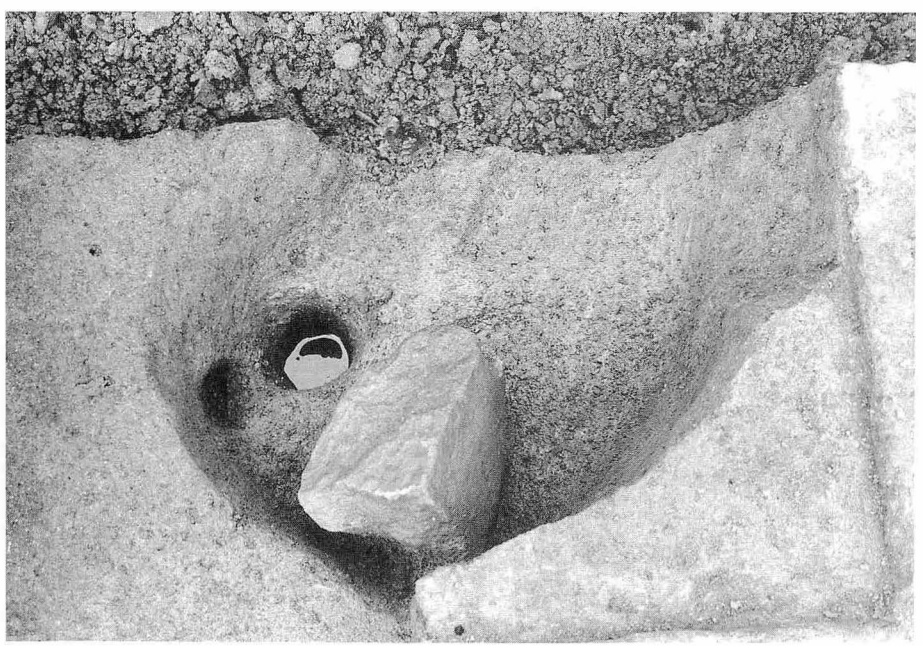


II 区 3 面：高坏脚部　出土状況

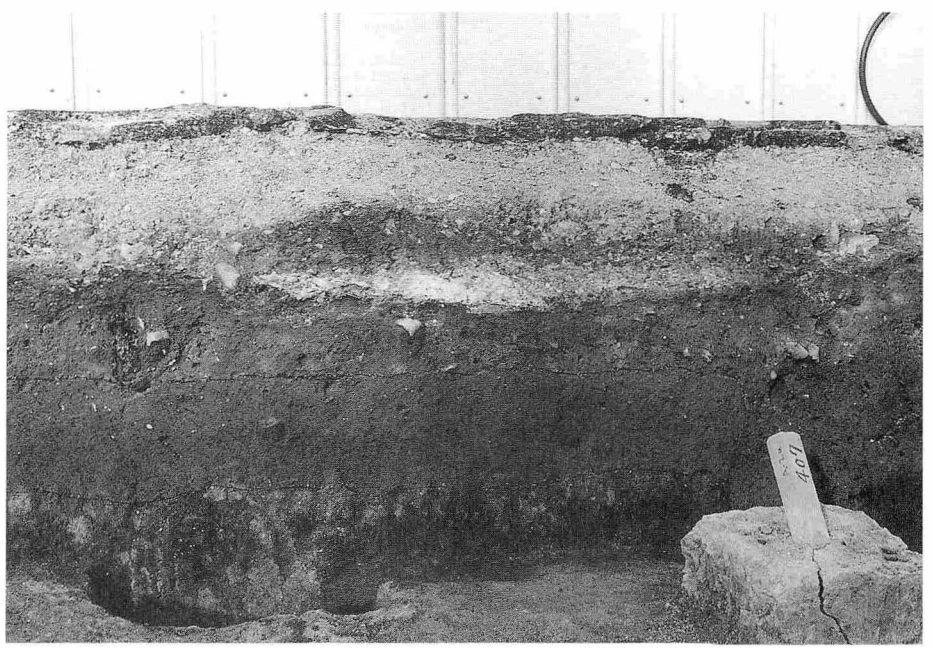


II区３面：底部出土状況

II区３面：ピット４　土層



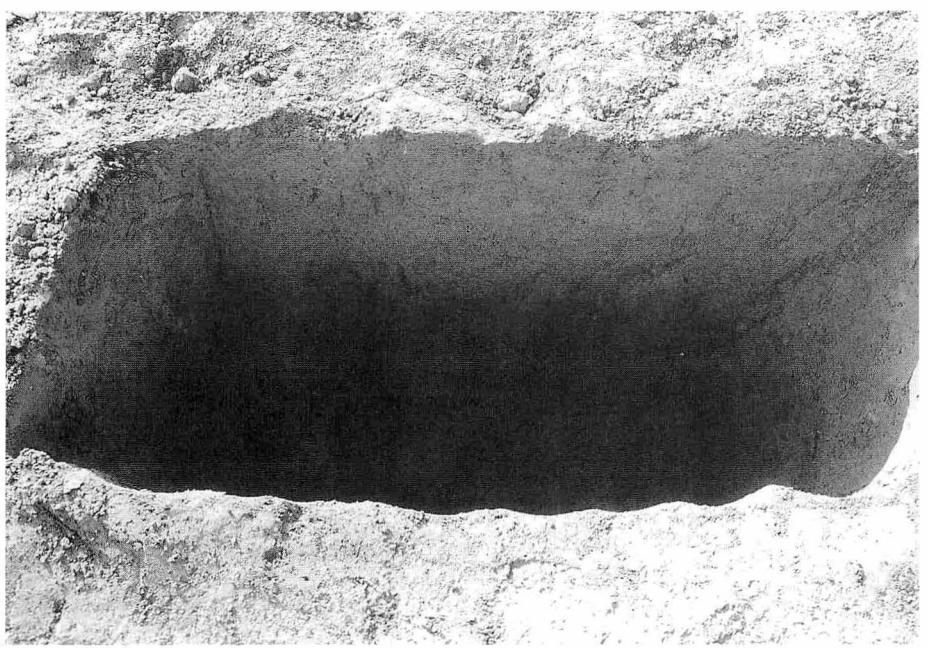
II区３面：ピット４　完掘状況



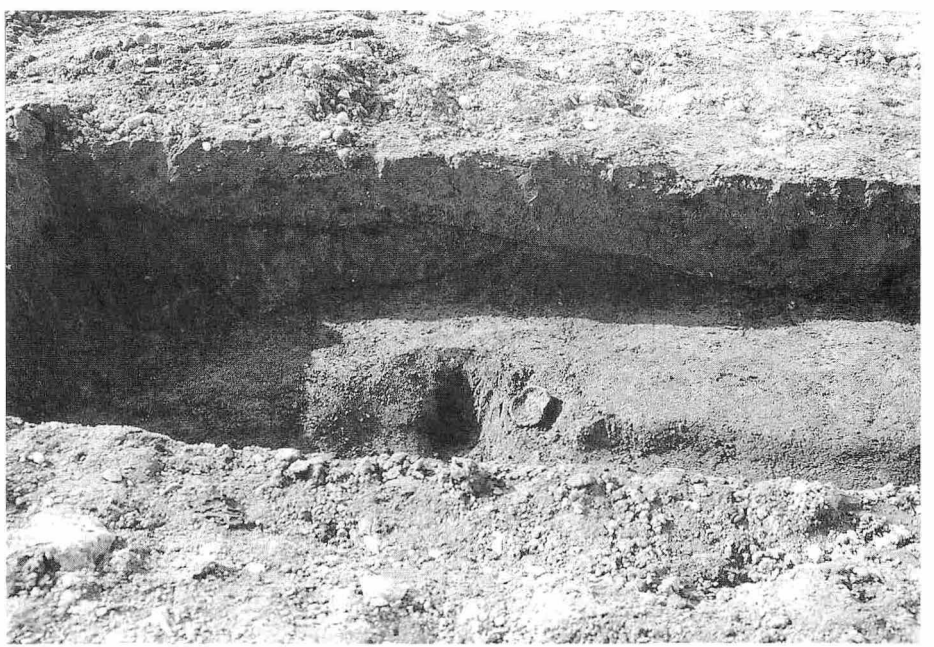
II区：調査区北壁土層

Ⅱ区：調査区　西壁　土層

Ⅱ区：調査区　西壁　土層（調査区拡張後）

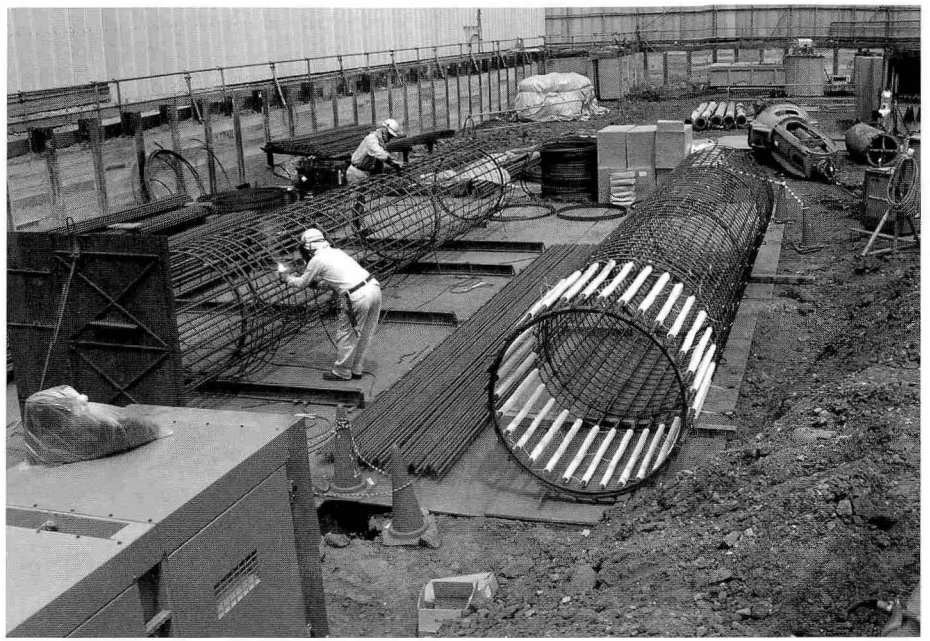


立会い調査（Ⅱ区西側部分）：西トレンチ　土層



立会い調査（Ⅱ区西側部分）：東トレンチ　土層

立会い調査（Ⅰ区南側部分）：調査風景



立会い調査（井戸）：井戸の発見状況（手前カラーコーン内が井戸）

立会い調査（井戸）：井戸の状況（上から）

立会い調査（井戸）：井戸の状況（井戸枠のアップ）

報告書抄録

ふりがな	こうふじょうかまちいせき（こうふちほうさいばんしょちてん）
書名	甲府城下町遺跡（甲府地方裁判所地点）
副書名	甲府地方裁判所庁舎新営工事に伴う発掘調査報告書
シリーズ名	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第249集
著者名	野代恵子・鶴田博
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター
所在地	〒400-1508　山梨県甲府市下曽根町923　TEL：055-266-3016
発行者	山梨県教育委員会・国土交通省
発行日	2007（平成19）年12月25日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東緯	調査機関	調査面積 (㎡)	調査原因
こうふじょうかまちいせき（こうふちほうさいばんしょちてん）	やまなしけん こうふし ちゅうおう いっちょうめ	19201	253	35° 39′ 8″	138° 33′ 5″	2006(平成18)年 11月1日～ 12月25日	510㎡	甲府地方裁判所庁舎新営工事に伴う発掘調査
甲府城下町遺跡（甲府地方裁判所地点）	山梨県 甲府市中央1丁目							

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
甲府城下町遺跡（甲府地方裁判所地点）	遺物散布地 城下町	古墳時代 江戸時代	竪穴状遺構 ピット、溝	土師器 （坏・甕） 陶磁器類	古墳時代～平安時代にかけての遺物が多数出土した。

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第２４９集

甲府城下町遺跡（甲府地方裁判所地点）

甲府地方裁判所庁舎新営工事に伴う発掘調査報告書

印刷日　2007（平成19）年12月20日

発行日　2007（平成19）年12月25日

編　集　山梨県埋蔵文化財センター

山梨県甲府市下曽根923　TEL：055-266-3016

発　行　山梨県教育委員会・国土交通省

印　刷　株式会社　峡南堂印刷所